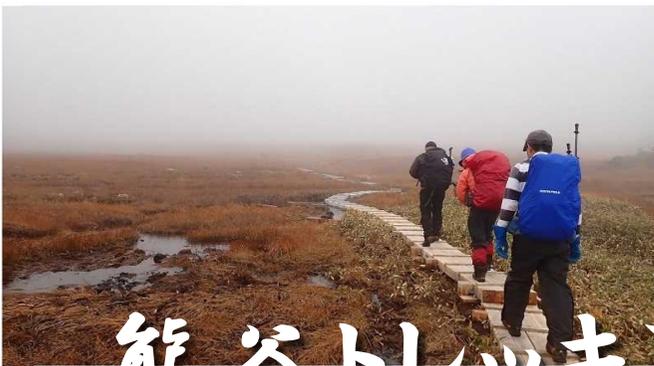


私たちの 山旅

2019 no. 28



熊谷トレッキング同人

私たちの山旅

2019



中央アルプス 三ノ沢岳(右)

No.28

熊谷トレッキング同人



2018/11/24 キナバル山



9/6 ハワイ カウアイ島



‘18/12/8
観音山
(秩父)



1/20 平標山ヤカイ沢



5/2 赤城山

3/17 蓬沢



8/4 木曾駒ヶ岳頂上山荘



ヒメウスユキソウ (木曾駒ヶ岳)



8/4 三ノ沢岳



9/8 八ヶ岳 赤岳



10/27 苗場山

目次

はじめに - 『山へ世界へ』..... 石川邦彦 4

【海外トレッキング編】

マレーシア キナバル山ロウズピーク..... 橋本義彦 6

<感想・報告の部>

キナバル山行の感想..... 大嶋 博 12

キナバル山雑感..... 橋本義彦 13

初めての海外登山..... 山口文江 14

キナバルの植物..... 駒崎裕美 15

キナバル山 4000m の体験..... 花森正雪 16

ホワイトトレッキング 17

<感想・報告の部>

ハワイで一体験したこと、感じたこと、考えたこと..... 橋本義彦 27

ハワイの記録と感想..... 軽石昭夫 29

ハワイをトレッキング&旅して..... 黒澤 孝 30

ホワイトトレッキング感想..... 大嶋 博 31

ハワイ雑感..... 高橋武子 32

真珠湾で太平洋戦争を考える..... 瀧澤健次 33

「プレートは動いている」..... 豊島千恵子 35

【国内山行編】

中津川紅葉&鉱石拾い..... 豊島千恵子 36

武尊山..... 三島智睦 37

地図読み山行 越生オリエンテーリング..... 横尾明彦 37

伊豆ヶ岳・子ノ権現..... 黒澤 孝 39

不老山～権現山..... 谷口武道 40

観音山～総会記念ハイク..... 谷口武道 41

比企丘陵 地質見学ハイキング..... 高橋武子 42

八ヶ岳硫黄岳..... 新井浩二 三島智睦 43

浅間尾根 陽だまりハイク	高橋 仁	44
後生掛温泉～山スキー&ハイク	橋本義彦	46
平標山ヤカイ沢 山スキー	谷口武道	47
氷瀑見学と御堂山.....	須藤俊彦	48
黒姫山 山スキー	新井浩二	49
西吾妻山・西大巔 山スキー	石川邦彦	50
養老溪谷・チバニアン地層見学ハイキング	並木利夫	51
初級冬山 高ボッチ山	黒澤孝 斎藤順	53
蓬沢・山スキー合同訓練.....	浅見政人	54
赤城山.....	浅見政人	55
秩父の札所巡り その1 1番から11番.....	斎藤 順	55
秩父の札所巡り その2 12番から24番.....	斎藤 順	56
秩父の札所巡り その3 25番から30番.....	須藤俊彦	57
雪山訓練・谷川岳マチガ沢.....	関口裕子	58
ツツジ(アカヤシオ)山行 西上州笠丸山.....	須藤俊彦	59
景鶴山山スキー	浅見政人	59
八甲田山・山スキー	新井浩二 駒崎裕美	60
赤城山・大猿川周回登山	渡辺和夫	63
至仏山山スキー	石川邦彦	64
稲含山～ツツジ山行.....	斎藤 順	65
西上州・天狗岩.....	新井 勇	66
浅間山・前掛山.....	高橋 仁	66
赤平川川歩き.....	赤坂京子	68
秀麗富岳12景 小金沢連続を歩く.....	須藤俊彦	69
日光 高山.....	斎藤 順	70
官ノ倉山・埼玉労山北部 クリーンハイキング	高橋武子	70
子持山.....	渡辺和夫	71
初級沢登り 秩父尾ノ内沢	横尾明彦	72
鉢伏山・高ボッチ山.....	高橋武子	73
北海道花旅.....	駒崎裕美 新井浩二	74
白山.....	豊島千恵子 橋本義彦 須藤俊彦	80
池の平湿原	黒澤 孝	83
北岳.....	谷口武道	84
川苔谷・逆川沢登り	関口裕子	86

2019年夏のアルプス 木曾駒ヶ岳頂上山荘集中

千畳敷から木曾駒ヶ岳	赤坂京子	89
桂小場から木曾駒ヶ岳	高橋 仁	90
空木岳・木曾駒ヶ岳縦走	谷口武道	91
宝剣岳・三ノ沢岳	須藤俊彦	93
餓鬼岳・唐沢岳	新井浩二	94
北八ヶ岳のんびりハイク	大嶋 博	96
尾瀬小淵沢登り	横尾明彦	97
編笠山・権現岳・赤岳から真教寺尾根縦走	関口裕子	98
きのこ・木の実山行	新井 勇	99

秋の同人合宿 上州路に遊ぶ

コース1 三峰山	三島智睦	102
コース2 吾妻耶山、大峰山	黒澤 孝	103
コース3 尼ヶ禿山	高橋武子	104
コース4 鹿俣山	軽石昭夫	105
コース5 尼ヶ禿山～迦葉山	花森正雪	106
コース6 武尊山剣ヶ峰山	斎藤 順	107

栗駒山紅葉山行	石川邦彦	108
チャツボミ公園と周辺池巡り	新井 勇	109
赤湯温泉から紅葉の苗場山	新井浩二	110
鳴虫山	高橋武子	111

【個人山行編】

大高取山	軽石昭夫	112
湯河原幕岩の岩登り	橋本義彦	113
東谷山スキー	新井浩二	114
蓮華温泉山スキー	橋本義彦	115
会津駒ヶ岳山スキー	新井浩二	116
世界自然遺産白神山地を歩く	新井浩二	117
朝日連峰・大朝日岳	高橋 仁	119

[コラム・コーヒータイム]

くさまくら 旅にしあれば(1).....	瀧澤健次	87
退会挨拶.....	浅古剛	101

はじめに - 『山へ世界へ』

熊谷トレッキング同人
会長 石川 邦彦

今から 20 年前の熊谷トレッキング同人が生まれる頃のさらに数年前の話。当同人の主な母体であった「熊谷ヒマラヤトレッキング同人」の時から、その名の通りインドヒマラヤを中心に毎年のように海外トレッキングが行われていました。年によっては、南米ペルーアンデスや、ヨーロッパ、アフリカ等へ出かけることもありましたが。

その中でインドヒマラヤへ足繫く通ったのは、インド北部の避暑地であり登山基地でもある町マナリに、当時のメンバーと親交が深かった元日本勤労者山岳連盟会長である森田千里氏が開設された山荘「アシュラム」(日本名「風来坊山荘」)があり、その建設にも関わりがあったからでした。

2000 年以降、インドヒマラヤへの遠征はのべ 15 回、そのうち当時のメンバー F 氏による単独行が 5 回に及び、現地の人々との交流を繋いできました。インド以外を含めると 20 回を超える海外遠征の数になります。個人による海外登山を含めるとさらにその数は多くなります。

昨年末から今年にかけて、インドネシアキナバル山登山およびハワイ諸島のトレッキングを行いました。今後もますます活動領域を世界に広げ、同人の伝統を受け継いでいきたいものです。

幸いに今年も大きな事故はなく経過していますが、埼玉労山全体で見れば残念ながら死亡事故も起きています。山中で、また里でも、日々自身のまたメンバーの行動を振り返りながら、安全を重視し充実した登山活動を繰り広げていきましょう。

なお、タイトル『山へ世界へ』は、同人初代会長である故村越昇先生の遺稿集の『自由をもとめて』の副題からお借りしました。



同人の活動経過 (2018. 12~2019. 11)

例会など	山行		
2018年	12/ 9 記念ハイク・観音山	22名	
12月 12/8~9 同人第23回総会 (秩父市下吉田ホテルユニオンヴェール) 23名	12/ 18 比企丘陵地質見学ハイク	11名	12/1 県連女性委員会」 実技講習会 参加者5名
	12/ 22 ~23 硫黄岳	4名	
	12/ 28 ~29 北八ヶ岳・遠見尾根 (中止)		
2019年	1/ 14 鍋ハイク・寄居中間平	15+1名	1/18 県連北部7ツツ会議 橋本
1月 1/12 事務局会議	1/ 18 陽だまりハイク・浅間尾根	5名	1/20 県連遭難防止安全教育 担当者会議・評議会 木村
第1回例会 26+1名	1/ 20 平標山ヤカイ沢山スキー	6名	
学習:「一人ひとと企画」 講師:高橋仁	1/ 20 ~22 御所掛温泉山スキー&ハイク	5名	1/21 救助隊総括会議 木村
	1/ 27 尾瀬西山山スキー	3名	1/30 公民館所属団体長会 議 滝澤
	1/ 30 水瀬見学ハイク・御堂山	7名	
2月 2/2 第2回例会 31名	2/ 3 黒姫山山スキー	7名	
学習:「雪崩地形と空間多様性」 講師:宮田・林	2/ 9 ~10 西吾妻山・西大巖山スキー	5名	
	2/ 17 ~18 養老溪谷・チバニアン地質見学ハイク	11名	2/27 県連協大理事会 木村
3月 3/2 第3回例会 30名	3/ 9 ~10 初級冬山・高ポッチ山	10名	
学習:「キナバル山行報告」 講師:橋本	3/ 17 山スキー合同訓練・蓮沢	5名	
	3/ 21 赤城山	2名	
	3/ 21 ~23 栗駒山山スキー	3名	3/24 県連第51回定期総会
	3/ 26 秩父札所巡り・一~十一番	4名	石川・橋本・木村
4月 4/6 第4回例会 30+1名	4/ 2 秩父札所巡り・十二~二十四番	4名	4/8 救助隊総学習会 木村
学習:	4/ 7 雪山訓練・マチガ沢	11名	
	4/ 9 秩父札所巡り・二十五~三十番	5名	4/24 県連北部7ツツ会議 議 石川・橋本
	4/ 9 クリーンハイク下見・官ノ倉山	2名	4/24 県連協大理事会 橋本
	4/ 15 ツツジ山行・笠丸山	2名	
	4/ 16 秩父札所巡り・三十一~三十二番	3名	
	4/ 27 足尾植樹祭&備前橋山ハイク	8名	
	4/ 27 ~28 至仏山,景鶴山山スキー	4名	
5月 5/11 ホワイトトレッキング打合せ&学習会	5/ 1 ~5 八甲田山山スキー	3名	
第5回例会 31+1名	5/ 2 赤城山大猿川周回尾根	6名	
学習:「高山植物」 講師:新井 浩	5/ 3 至仏山山スキー	1+1名	
	5/ 8 ツツジ山行・西上州稲包山	4名	
	5/ 12 ツツジ山行・西上州天狗岩	3名	
	5/ 12 浅間山前掛山	6名	
	5/ 14 秩父赤平川川歩き	6名	
	5/ 22 牛奥ノ雁ヶ腹摺山	3名	5/29 県連理事会 橋本
	5/ 29 日光高山	7名	
6月 6/8 ホワイトトレッキング打合せ&学習会	6/ 2 北部クリーンハイク・官ノ倉山	9名	6/9 県連植樹地下草刈 り 木村
第6回例会 27+1名	6/ 6 子持山	5名	
学習:「キンノールカイラスの巡礼路」 講師:飯塚 明 (秩父アルペンクラブ)	6/ 15 ~16 焼石岳・栗駒山(雨天中止)		6/23 県連遭難防止安全教育 担当者会議・意見交換会 橋 本・木村
	6/ 16 初級沢登り・秩父尾ノ内沢	3名	
	6/ 21 ツツジ山行・鉢伏山・高ポッチ山	10名	
	6/ 30 ホタル観賞のタベ	9名	6/26 県連理事会 橋本
7月 7/6 第7回例会 23名	7/ 2 尾瀬笠ヶ岳(雨天中止)		
学習:「ロープワーク」 講師:浅見	7/ 6 ~14 北海道花旅・暑寒別岳・大雪山~十勝岳	2名	
ホワイトトレッキング打合せ&学習会	7/ 8 ~10 白山	3名	
	7/ 10 池の平湿原	5名	
	7/ 13 ~14 北岳	2名	
	7/ 20 奥多摩 川苔谷逆川沢登り	5名	7/31 県連理事会 橋本
8月 8/31 ホワイトトレッキング最終打合せ	8/ 2 ~4 夏のアルプス・木曾駒ヶ岳頂上山荘集中	16名	
事務局会議	8/ 10 ~12 銀鬼岳	2名	8/23 県連理事交流会 橋本
第8回例会 27名	8/ 19 ~20 北八ヶ岳	7名	
学習:「ツエルト・テーピング」 講師:新井浩・駒崎・横尾・赤坂・木村	8/ 24 尾瀬小淵沢登り	5名	8/28 県連理事会 橋本
	9/ 5 ~11 ホワイトトレッキング	7名	9/2 県連北部7ツツ会議 石川・橋本
	9/ 7 ~8 南八ヶ岳縦走・編笠、権現、赤岳~	5名	
	9/ 25 きのこ木の突山行	8名	9/25 県連理事会 橋本
	9/ 28 ~29 同人秋合宿・玉原周辺の山、武尊山 他	18名	
10月 10/5 第9回例会 20+1名	10/ 4 ~7 県連早池峰山、みちのく潮風トレイル	2名	
学習:「地図読み」 講師:橋本	10/ 7 ~8 栗駒山	4名	
	10/ 12 ~14 中央アルプス南部縦走(雨天中止)		
	10/ 15 黒姫山(雨天中止)		
	10/ 23 チャツボミゴケ公園	3名	
	10/ 23 日光白根山	3名	
	10/ 26 ~27 赤湯温泉から苗場山	4名	
	10/ 30 鳴虫山	6名	10/30 県連理事会 橋本
11月 11/9 事務局会議	11/ 13 表妙義自然探勝路	2名	
第9回例会 30名	11/ 16 丸山	2名	11/24 安全登山講習会 「山筋ゴーゴー体操」
学習:「事故事例検討」 講師:木村	11/ 30 紅葉と展望の岩殿山	10+1名	
12月 12/7~8 同人第24回総会	12/ 8 記念ハイク 城峰山		
会場(秩父市下吉田 ホテルユニオンヴェール)			

海外トレッキング記録

マレーシア

キナバル山口ウズピーク

橋本義彦

山域山名:マレーシアサバ州 キナバル山口
ウズピーク 4095.2m

期日:2018年11月22日-26日 登山23
日-24日

目的:東南アジア最高峰キナバル山への登
頂 マレーシアサバ州の自然、文化を理解、
楽しむ

参加者:CL 橋本 SL 高橋仁 大嶋 駒崎
花森 山口

行動記録:

11月22日

4:00 熊谷駅=バス=

6:50 成田空港第二ターミナル

7:30 マレーシア航空チェックイン

9:30 成田空港発=マレーシア航空 MH
0081 便・機内食

14:40/15:15 コタキナバル空港着(ここから
現地時間=日本時間-1時間)=バス=

16:30 コタキナバル市内クラガンホテル=

17:30/19:30 ウェットマーケット見学・夕食=
同ホテル泊

午後、コタキナバル空港に着く。エアポ
ートバスに乗り、センターポイントのバス停で
降車する。ホテルにチェックイン後、海岸沿
いのウェットマーケットに行く。熱帯野菜、熱
帯の果物、海でとれた魚、カニ、エビが売ら
れている。ドリアンを食べる。ランブータンを
ホテル用に買う。そして皆で夕食に焼きそ

ばを食べる。ホテルに帰り、翌日の登山に備
え早めにベッドに入る。

<登山日 23日、24日>

11月23日

<天気 晴れ・薄曇り>

6:00 クラガンホテル=ボルネオツアーのワゴ
ン車・朝食=

7:40/8:10 キナバル公園事務所受付=ワゴ
ン車=

8:30 チンポリオンゲート 1886m - (約
1km 毎にあるシェルターで小休憩しながら
登る)-

10:25/10:45 ローウィーシェルター・昼食休
憩

12:30/13:00 レイヤン・休憩

16:20 ラバンラタレストハウス 3372m(標高
差約 1500m)

17:10/18:10 ビュッフエタ食 同所泊

クラガンホテル玄関に6時に集合。登山に
使わない荷物をホテルに預ける。チェックア
ウトをする。朝食付きの料金なので、チェッ
クインのときに依頼しておいた朝食パックを
受け取る。一人2パックの朝食だ。ホテルス
タッフは Marie さんだ。「よい名前だ。日本
ではその名前はたくさんある」と伝えると「マ
リー」と発音した。熱帯らしく、半袖で丁度よ
いくらいの気温だ。予定どおり迎えの車は
来るのか。心配していると Amazing
Borneo Tours のワゴン車がホテル前にきた。
一安心。ドライバーが橋本かときいてきたの
でそうだと答える。私達だけ6人で、専用車
となった。

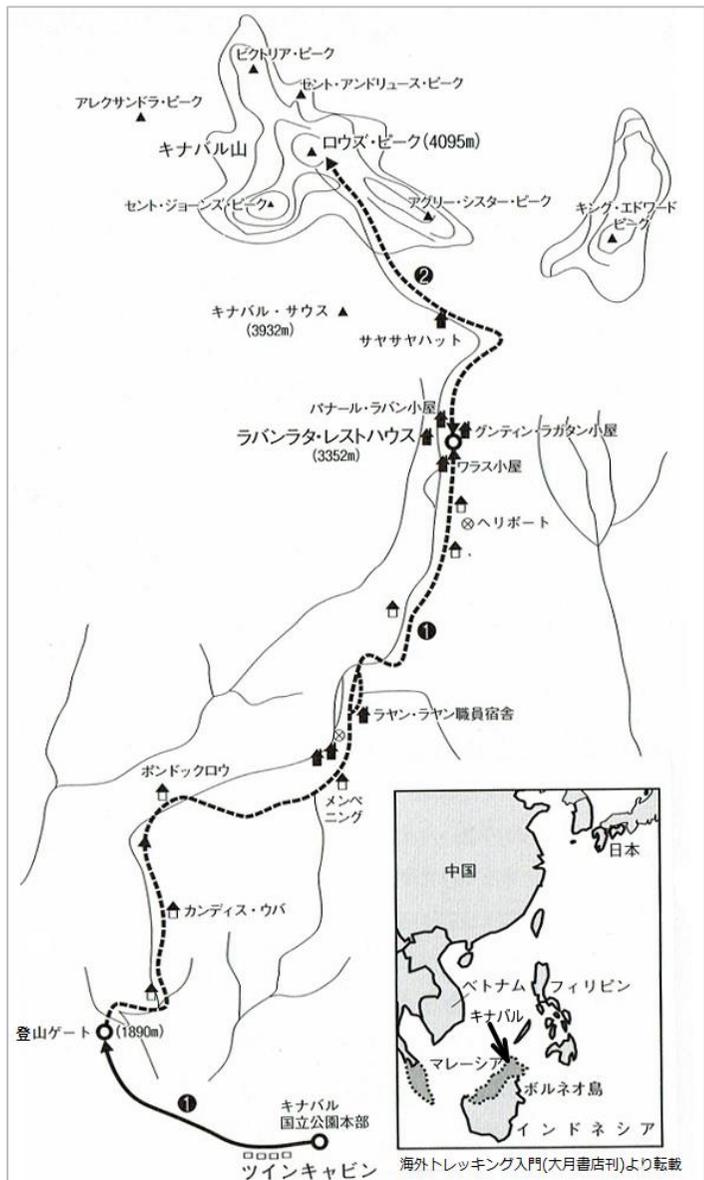
市街地を抜け、広い幹線道路を北に向か
う。高速道路ではないがかなりの速さで走
る。周囲は熱帯らしく、ヤシの類が繁る。山
道に入る前に朝食パックを食べる。サンドウ

イチ、チキンなどでボリュームがある。40分ほどで東に曲がり、山道に入ると登り坂でカーブが多くなる。途中から東北方向に特徴のある山が見える。「あれだ」と皆で盛り上がる。幹線道路で2車線、カーブも緩いのでぐいぐいと走る。キナバル山は車窓の右、左に見え隠れする。周囲の景色は民家が少なくなり一面の木や草だ。芭蕉の葉のようなバナナが茂り、青い房を付けている。キナバル以外の山は日本と同様、細かい稜線、谷をつくっている。そして、2時間弱、予定よりも早くキナバル公園本部に着いた。

すぐに公園本部のスタッフが近寄り、受付のためパスポートを集めて事務所に持って行く。途中のトイレ休憩もないので皆、トイレへ。受付の様子を伺いに行くと、先ほどのスタッフが、登山登録用紙に記入して欲しいと言う。私一人だけかと確認すると全員分の用紙がある。既にインターネットで申し込んでいるし、パスポートをコピーするので必要ないと思うが……。全員用紙に記入し提出する。受付は20分ほどで終了し、入山許可のネームタグを渡され、首にかける。車のところに登山ガイドが来ていて合流した。同じ車で細い山道を、チンポホンゲートに向かう。

ゲート前で降車し登山の身支度後、まずゲートのスタッフのチェックを受ける。いよいよ登山開始だ。標高約1800m、ここから標高差1400mを5時間ほど

で登る。薄曇りで風はない。やや涼しいくらい。木々は高い。6人全員登れること、天気が良いことを願いつつ歩き始める。登山ガイドは5人につき1人付くことが義務になっている。私達は6人なので2人が付いた。地元のドウスウン族の30歳前後の青年でジョーとジャスティンだ。英語が話せるので説明は英語だ。私と山口さんが通訳して皆に伝える。ジョーは1000回ほどキナバルに登ったと話していた。





から両側が切れ落ちている道に差し掛かると頂上付近に霧をまとったキナバル山の巨大な岩体を望むことができた。花崗岩でできているので白っぽい大きな岩だ。あそこに登ると思うと気持ちが高まる。アップダウンは無いが、6kmで1400mも登るのでかなりの急坂だ。汗が噴き出る。登山道沿いに径10cmほどの黒いパイプがある。ガイドに尋ねると

「トイレットパイプ」と答えた。4cm位のパイプは電気のケーブルのようだ。登るにつれて徐々に植物が変化してきた。バルブのあるランの類も足元や樹上に増えてきた。花は咲いていない。ウワバミソウやインパチエンスに似た植物が自生している。苔も増えてきた。瑞々しい色、触りたくなるようなコケもあった。高い木の上のほうに苔玉のような物がついていて、ランのような葉も見える。苔とランが樹上で共生しているようだ。桃色の野ボタンのような花や黄色のロードデンドロームも咲いている。ガイドがネフェンシスと指し示す先にガイドブックの写真にあった筒状のウツボカズラ(食虫植物)があった。登りながら左右の森の中を見るとあちこちにあった。触れる所にあったウツボカズラを至近距離で見ると、なんとその筒の上端内側にはトゲがぐるりと一周していた。中に入った虫が出られないよう、城にあるような「武者返し」があった。

歩きはじめの数百mは下りで小さなカルソン滝を左に見て本格的な登りとなった。高木があり、数mのシダがあり、その下には草花がある。木々にはひげ状の地衣類や、バルブの目立つランの類が着生していたりと植物好きには見飽きることのない森だ。シェルターで一休み。どのシェルターでも屋根付き、ベンチ付きの小さな休憩舎とトイレ、金網付きのごみ箱があり、掲示板には植物や地質の解説板がある。こんなに整備された登山道は日本にはないと思う。2つ目のシェルターだったと思うが、シェルターの近くに小さな動物が現れた。ネズミより大きく、尾が太いのでリスだと分かる。食べ物を千切って投げると競争で取り合い、運んでいった。リスはその後、数か所のシェルターで見ることができた。ガイドにオランウータンがいるのか聞くと「たくさん人がいるのでいない。」と説明していた。

4 登山道は初めの滝を過ぎてからは、熱帯雨林の中だが、尾根筋に登山道があり、沢を横切ることにはなかった。しばらく歩いて

登山道の急な所には階段があり、手すりも作ってある。よく整備されている。2500m位から地面は赤っぽい地層が白い花崗岩になった。水成岩の地層を花崗岩体が突き



破って山になったということか。登山道、シェルターではたくさんの外国人に出会った。日本語で「こんにちは」、英語で「ハイ」「ハロー」など。中国語、韓国語でも声をかける人もいる。現地ムスリムの女性はヒジャブという布を頭に被っている。国際色豊かだ。

3000m 位になると、下の集落を見ることができた。植物は数 m 位になり、カイヅカイブキのような針葉樹っぽい植物、ススキのような植物も増えてきた。哺乳類やチョウ、昆虫、鳥類もたくさんいるというガイドブックの説明があったがリス 1 種、チョウ 2 種、鳥類 2 種位で日本よりも少ない。カ、ブヨ、アブ、ハエがないのはありがたいが。また、観音竹のような植物が生えていた。見ると鋭いトゲがバラのように生えている。こんな植物は日本には無い。ベコニアに似た植物も自生し白い清楚な花をつけていた。時々、荷物を背負った人に追い抜かれ、またすれ違った。この先のラバンラタレストハウスのレストランへの燃料(プロパン)や食材を運ぶ現地の人だ。ゴミも全部背負って下すようだ。小屋まで間近な場所で 1 本の木に紫、黄色の花が咲いている。木に他の植物が着生して花を咲かせている。

もう少しもう少し、と汗を流しながら登って行ってやっと開けた場所に出た。パナラパンで、レストハウスも見えやっと着いたと安堵した。すぐに受付をし、ラバンラタレストハ

ウスの 2 階に泊まること、食事の時間、翌日の予定など打ち合わせ一休みとなった。部屋は 6 人 1 部屋で 2 段のベッドが 3 台ある。上の段は 1.5m ほどで手すりもなく寝相の悪い場合に落ちるかもしれないと心配になる。ベッドは人が動くと上下とも動くが日本の雑魚寝と比べると 1 人 1 ベッドで十分満足だ。一休み後、buffet の夕食になる。スープ、肉の煮物、野菜、パスタ、パンなどがあり、皆それぞれ好みの物を取ってきて歓談しながら夕食をいただいた。スイカ、メロンなどのデザートもあり、おいしかった。3 年前の大地震で水道設備が壊れたので水は 7MR(210 円)を買わなければならなかった。

11 月 24 日

<天気曇り時々晴れ、雷雨>

1:30 ラバンラタレストハウス起床/軽食

2:30 出発

4:20/4:35 サヤサヤハット

6:10/6:25 キナバルロウズピーク 4095m (標高差約 720m)

7:25 サヤサヤハット

8:40/10:00 ラバンラタレストハウス・朝食ー
(各シェルターで休憩しながら下山)

14:20 チンポリオンゲート=ワゴン車=

14:50 キナバル公園事務所・登頂証明書配布

14:50/15:15 バルサムカフェ・ビュッフェ昼食=ワゴン車=

17:15 クラガンホテル

17:30 メリディアンホテル・チェックイン=買い物

18:00 ホテル内で軽食・同ホテル泊



午前 1 時 30 分に起床。登山の装備を整え、2 時からの軽食をとる。深夜なのであまり食欲も無い。部屋から外を見ると曇っているが視界は効く。ポタポタと雨だれの音がする。雨対策に雨具、そして真夜中のためヘッドランプ装備で玄関前に集合する。暗い夜の登山道をガイド先導、5 人で登り始める。大嶋さんは夜眠れず、不調のため、小屋に残ることになった。直ぐに急登だが、階段があり、息を荒げて登る。一登りすると、東の方向、下に集落の灯りが見える。これで、日の出が見られるかと希望をつなぐ。植物は人の丈くらいになる。前を見上げると前のグループが列で登っていく。深夜の雨音は何だったのだろうか。道はほとんど乾いている。屋根についた水滴が垂れていたのか。登山道は西に向きを変え、なおも登ると小さな小屋サヤサヤハットがあり、ここで休憩と入山のチェックをする。まだ夜は明けない。休憩後が本格的な登りとなった。直ぐに花崗岩の一枚岩の様な大岩になる。ストックをガイドに預け太いロープを握り、登る。汗が出る。暗いから分かりにくいけど疲れが溜まってきている。急な岩を登りきると 3929m の掲示板がある。もう、富士山の

標高を超えたことに、もう少しだと気分が高まる。立ったまま休憩、そして登り続ける。何百 m もの花崗岩のスラブ状の岩板が続く。滑りにくいけど結構な傾斜だ。写真で見たとあの岩原だと思った。こんな岩盤でもその切れ目には水がわずかにしみ出していたり、小さな灌木や草が茂っている。強いものだ。

天気は曇りながら、次第に明るんできた。やや傾斜が緩んできた場所、時間は 6 時前。東の雲の間から太陽の光が差し込んできた。急いでパチリ。最後の大岩を幾つも登り、遂に熊トレメンバー 5 名はキナバル山ロウズピークに立つことができた。午前 6 時 10 分。微風。薄いガス。気温 5 度位。全員元気だ。空は晴れてきている。次々に登頂するので集合写真を急いで撮り、少しある風を避けるよう 50m ほど下った場所で休憩、写真を撮る。西方に影キナバルが長く長く伸びる。絶景だ。南側にもっこりしたセントジョンズピーク。そのやや東、下にサウスピークが鋭い。その手前にはグランドが幾つも入るほどの広い広い花崗岩の岩原。東を見れば北側に激しく岩が切れ込んでいる。直径 5km の巨大花崗岩体が地下数百 km から地殻を突き破り 4000m の高山になるーとは想像もできないことだ。



登頂できた達成感を胸に下山を始める。今まで暗くて見えなかった物が見えてくる。花崗岩岩原には所々に小さな池ができています。また、広い岩盤に直線状の白いラインが引かれたようになっている。割れ目に白い成分が入ったのだろう。また、この花崗岩は巨大岩体で節理は斜面と平行に入っているの、歩く時は大きな敷石の上を歩く感じになるのだろう。濡れている場所は滑りやすいとガイドが注意したが、それほどでもなかった。気持ちにも余裕ができたので、3年前の地震のことやスラウエシ島地震のなどを尋ねた。日本人が亡くなったのはサヤサヤハットの上の辺りだという。確かにこの付近を見回すと北側の崖から巨大な岩が下に何個も崩れ落ちている。岩が白く最近崩れたことが分かる。2つあるドンキースイアピークの右の頂上付近も崩れたという。

サヤサヤハットで休憩。下山のチェックを受ける。この付近からはラバンラタの屋根も見える。また下の集落も見える。緑の平原は牧場のようだ。急な階段を下りてラバンラ

タレストハウス着。天気もすっかりよくなった。深夜からの行動で皆、大分疲れた様子だ。朝食と1時間ほどの休憩をとる。

10時にラバンラタを出発。登りでは植物の観察と写真撮影でゆっくり目だったので下りは多少急ぎ気味に歩く。疲れたためか、つまずいたり、滑ったりもするが大事には至らず下り続ける。花崗岩の場所は滑らないが、砂岩泥岩の道では滑りやすい。下から2番目のシェルターで休んでいるとき、にわか雨が降り始める。傘をさしたりして下る。ゴロゴロンと雷鳴も大きく響く。あと1時間なので下るしかない。黙々と下る。疲れもピークになる。最後は数百mの登りできつい。下山口のゲート通過の頃、雨が最も激しくなった。ともかくワゴン車に乗り、キナバル公園事務所に到着した。ここでカラフルで立派な登頂証明書をいただく。ガイドとはここでお別れ。私達はここの直ぐ近くのレストランでビュッフェランチを摂る。冷えて疲れ、空腹の体に温かい食事はありがたかった。

昼食後、ワゴン車に乗り、クラガンホテルへ戻り、荷物を受け取り、メリディアンホテルに移動しチェックインする。ホテルマンは中国人で、うまくお願いして南シナ海の見えるオーシャンビューの部屋を確保した。3部屋が別の階になってしまったが。遅い昼食だったので皆で買い出しをし、ホテルでささやかな下山祝いをし、同ホテル泊。



11月25日

<天気晴れ>

8:00 メリディアンホテル=移動はタクシー利用=

8:30/9:30 ウェットランド=

9:45 サバ州博物館=サバ州立モスク=ハンディクラフトマーケット・セントラルマーケット見学等=

18:00 /19:00 インドレストラン=

19:10 ホテル=タクシー=

19:30 コタキナバル空港(チェックイン)

11月26日

<天気晴れ>

0:50 コタキナバル空港発=マレーシア航空 MH0080 便・機内食=

7:40(日本時間)成田空港着=バス=

11:00 熊谷駅南口

25日は予備日だが、2日間で無事登頂を果たしたので余裕の1日となった。有効に活用するよう、市内巡りをした。

ウェットランドは湿地帯でマングローブの森が茂っている。カニなどが多い。鳥はシラサギ位。

サバ州博物館:原住民の生活、習慣などの展示。動植物の展示など。高床式の住居など。

サバ州立モスク:きらびやかな建物、祈り中で外から見たのみ。花も植栽され明るい。ウェルカムシーフードレストラン(昼食):エビ、アワビ、カニ料理を食べた。

市内見学買い物:ココナッツ生ジュースを飲んだりマンゴスチンを食べる。ハンディクラフトマーケットでは真珠を使ったアクセサリが多い。金加工品の店も多い。

インドレストラン(夕食):海岸沿いのレスト

ランで日本人にも合う味だった。

コタキナバル国際空港・帰国便:大きく立派な空港。深夜の出発でゆったり過ごす。クレジットカードが使えなかったり、機内照明が壊れていたり小さなトラブルがあったが、無事、成田空港に着くことができた。

<感想・報告の部>

キナバル山行の感想

大嶋博

<ボルネオ島について>

私の叔父は、1940年7月11日にボルネオ島付近にて戦死とありました。25歳の若さで亡くなったわけだが、どんな思いでボルネオ島を見たか気になりました。今回ボルネオ島を訪れて感じたことは、ヤシの木が立ち並び、バナナや芭蕉の木が生い茂る自然の豊かなそでのんびりした所でした。ボルネオ島はこの70年で大きく変化したと思うが、基本の所は変わっていないと思う。

<キナバル登山について>

早朝ホテルを出発して、はじめ30分位海岸に近いところ走る。車は日本と同じ左側通行で結構飛ばしていた。その後内陸に入り、約1時間位でキナバル公園事務所に着いた。ここで入山手続きをして再び車で登山口のチンポホンゲートに着く。ここで二人のガイドが付き出発だ。標高1866m。まわりは、常緑高木とヤシの類、熱帯性の竹、タロイモの仲間が生い茂る熱帯雨林だ。宿泊地のラバンラタまで7つのシェルターがあり、5番目シェルターをすぎた辺りから樹木が



低くなり、シャクナゲの仲間と思われる赤い花が目につき高山帯の様相をとった。ボルネオ島は大陸から早い時期に離れたためか、日本やヒマラヤの高山帯の植物とは異質だと思った。我々は標高差 1500m、距離 6 キロを 8 時間かけて登り、かなり疲れた。

<登頂を断念！>

ラバンラタレストハウス(標高 3300m)で午後 7 時には床に就いたが、高度障害の为一睡もできなかった。自分は眠れないと身体のバランスが悪くなるので、登頂を断念した。皆さんが出発した後少し眠り、午前 7 時頃小屋から少し登った見晴らしの良い所で写真を撮った。もう少し体を鍛えなくてはと痛感した。

<コタキナバルの事>

コタキナバルでは、熱帯果樹のドリアン、ランブータン、マンゴスチン、ココヤシの実とジュースなどを堪能した。それからホテルの近くのウェットマーケットで現地の人たちの食べる所で焼きそばを食べ、ジュースを飲んだ。衛生面で心配したが何でもなかった。その他マングローブの茂るウェットランドや博物館、モスクを見学した。市中心部のスーパーやミスタードーナツで買い物や食事をしたが、日本と同じようにアメリカンサイズされていると思った。

キナバル山雑感

橋本義彦

計画が浮上して 3 年目に登頂を果たすことができ感慨深い。計画を進めたが途中で大地震が発生し死亡者発生、登山道閉鎖で頓挫した。登山は、現地の自然や社会の状況、もちろん自分の体調や都合で登頂できなかつたりする。安全で平和な社会、国際関係があり、仲間、関係の方、体調にも恵まれ、登頂できた充実感満足感を感じている。

コタキナバルに 2 泊し市内を回る余裕もあった。自動車が多く、日本と余り違和感がなかった。バイクの溢れるベトナムや三輪の車の多いタイなどと比べ、車社会に移行してきていると感じた。大きなショッピングモールがあり、スーパーもある。マクドナルドなどもあり盛況だった。携帯電話を手にする人も多い。商品には値段が付けられており公正な印象を受けた。真珠や金の加工品の店が多く伝統的な工芸品だと思った。熱帯なのでトロピカルフルーツがたくさんあった。ドリアン、マンゴー、マンゴスチン、ランブータン、ココナッツ等。好みによるが温帯の温和なフルーツと比較するとクセがあるが、私は熱帯らしい個性のある味が好きだ。ナッツ類はほとんど無かった。

キナバル山は花崗岩の巨大岩塊がそそりたっている特徴のある山だった。2500m を越える辺りで花崗岩になり、サヤサヤ小屋から上は花崗岩のむき出しの岩だ。日本では、燕岳、鳳凰三山、屋久島、小川山が、海外ではヨセミテが花崗岩の山だ。プレート理論によれば、海洋プレートが大陸プレートに沈みこむ地域の深い場所でできたマグマが、ゆっくりと冷えて固まり、花崗岩になる。そして比重が軽い花崗岩は周囲の比重の重い

玄武岩から長い年月をかけて上昇し高い山になるのだと説明される。キナバル山はその下に高さ何十キロもの岩塊があるのではないかと思う。表面の姿は荒々しく日本離れた景観だが、岩塊の下やその形成過程を想像すると、なお一層「すごいぞ！キナバル！4095m！」と感動する。

初めての海外登山

山口文江

2018年11月22日、日本を出てコタキナバルに到着し、市内のホテルに宿泊。翌日はホテルを6時発で、マイクロバスでまずキナバル公園事務所まで移動し、ガイドと合流。登山手続き後、同じマイクロバスで1886mの登山口ゲートまで移動して8時半に登山を開始した。3272.7mのラバンラタの小屋まで標高差約1400m。途中、7ヶ所のシェルターで小休止しつつ、約8時間かかって、16:20に小屋に到着、宿泊。日本の山小屋とは違い2段ベッドで、一人一ベッドでよく眠れた。

翌24日、夜中1時半に起床して軽食後、2時半に出発。小雨はすぐ止み、ヘッドランプの灯りで暗い中を標高差約820mのロウズピークを目指してただひたすら登る。そして6時10分、ロウズピーク4095mに到着した。ちょうど日の出直後で、360度の大展望が開けていた。あたり一帯は花崗岩の白い台地と巨岩のモニュメントの乱立だ。すぐ目の前には、そちらの方が高いのではないかと思われるほど大きなセントジョーンズピークと、その下方先には、鋭くとがったサウスピーク。暗い中で登って来たので見えていなかった景色が一挙に姿を現していた。圧巻だった。

頂上付近で短い至福の時を過ごし、6時25分に下山開始。途中、登りの時には見えなかった、巨石が稜線から登山道の近くまで落ちて来て奇跡的に止まっている光景を見て、「落石注意」の看板の意味がよく分かった。3年前の地震の時に崩落したものが、あちこちにゴロゴロしているのだ。キナバルの頂上も何メートルか低くなったというのだから、影響の大きさを改めて知った思いだった。

8時半に小屋に戻り、朝食と荷造りを済ませて10時に小屋を出発した。1400mの下りだが、頂上からは2300mになる。登山口ゲートまで残りあと40分という最後のシェルターに着いた時に急に雨が降り始め、休憩なしで最後の下りを急ぐ。途中からは雷も加わり、今回の山行中でただ一度の雨を経験した。私は、雨の中、滝を過ぎてあと数百mという最後の登りのところでバテて、気がついたらガイドのジョーがザックのお尻を下から持ち上げてくれ、ゲート口への最後の階段では花森さんが右腕をつかんで引っ張り上げてくれていた。そして、ゲートで登山許可証のタグを見せて、14時20分、下山が終了した。その後、ワゴン車で公園事務所まで戻り、登頂証明書を配布してもらい、バルサムカフェで昼食を済ませ、再びコタキナバル市内に戻り、2泊目のホテルに移動した。

事前に、行くからにはそれなりの準備をしなくてはと思い、まだ富士山の頂上までは行ってなかったのに、高所順応を確かめるために、山小屋が閉まる直前の9月上旬に富士山に登って来た。天候の関係で、頂上を往復した後に3400mの小屋に泊まったので、標高3776mまでと、3400mでの1泊は問題なしと確認できていた。

キナバルの植物

駒崎裕美

北緯 6 度、標高 4095.2 メートル。キナバル山は赤道直下にそびえる高峰です。どんな植物、花が咲いているか、とても楽しみにして行きました。

登り初めは標高 1800 メートル位の所、高木、高いシダの木、細い葉の笹が繁茂するジャングルを進む。登山道に直にピンクのインパチェンス、キナバルエンシス、コケの上に小さな白い花アーゴステーマ、花の形はスズランに似ている。遠くにあったが枝から赤く飛び出ている花、マクロソレンなど目を凝らしてみると見られる。

ランを着生させている樹が多いがそのランは葉ばかりで花は咲いていない。この先一箇所咲いているのを見ただけなので花のシーズンではないようだ。休憩用のシェルター脇にはシンピジュームのようなランが咲いて、緑色の小さなウツボカズラも見られるようになる。林の中に白いベコニアを見つける。葉の裏は赤い葉脈が透けて見えて我が家にあるのと同じなのにびっくりする。上を見上げると黄色い石楠花が枝先に咲いている。莖にオレンジ色の花をつけたペンタフラグマ、匂わないが沈丁花の様な花、ドウダンツツジ様のピンクのかわいい花バクキニウム・コルディフォリウムが目の前に下がっていて、花だらけではないが、見つけるのが楽しくなる。鮮やかなピンク色の石楠花ロドレンドロロンが多く見られるようになり、白いランが生い茂るところを見つける。キンポウゲの葉の小花を丸くつけた花、そしてガイドブックにあるウツボカズラが多く垂れ下がっている。形になる前のも見ることが出来た。

登山道に下がっている見事な白いラン、コ

エロギーネパピローマ、登山道のコケの壁には小さなウツボカズラがついている。花びらの内側に綿毛をつけた白い花。キソチドリにそっくりな花もある。2700m~3000m 付近、しだいに灌木林が広がるようになる。岩も出てきて岩間にも小さめなランが咲いている。タンポポ、木苺、灌木は小さな花が付いている。白い夏椿のつぼみの様な花シーマワリッチ、木にはサルオガセ、これは日本のと同じ。宿泊小屋の周りにはデージーみたいな花、コゴメグサに似た花やミヤマキンポウゲの様な花が咲いていた。



宿泊場所上は少し灌木帯でその上は山頂まで花崗岩の岩肌が出ている。最後のサヤサヤ小屋の周りは花が見られたが、上は花崗岩の割れ目、隙間に少し咲いているだけ。キンポウゲやイワウメのようなレプトスペリウム、葉が赤くなったようなエウゲニア・アンブラリアなど。

木の葉の陰に大きなウツボカズラがたくさんぶら下がっているのは特に印象的でした。ランの花が咲いている森、植生の変化は他では見ることが出来ないのだろうと強く感じました。

キナバル山 4000m の体験

花森正雪

思いは富士山より高い所に行ってみたかった。富士山には数年前に登って3770mを体験し何か満足感があった。特に花が見てみたい、景色を楽しみたいということではなく、ただ行ってみたい、4000m 超えを自分なりに体験出来ればと考えた。数年前に計画が持ち上がっていた時は、仕事上無理でありとても参加はかなわなかったが、今回は日程や予算も実現可能な範囲であり、キナバル登山参加を決めた。

山行当日は送迎の車窓から近づいて来るキナバル山を見ながら進む。ビジターセンターでの諸手続きを終えガイド 2 名と歩き始めます。最初は異国で物珍しさもあり新鮮さがあり植物や風景で目を楽ませてもらえます。高所順応でゆっくりと高度を上げていきます。所々に休憩場も設けられトイレやごみ箱も設置してある。休憩場では時々日本語も聞こえてきます。途中からは下山者とすれ違いが多くなり、中には膝を痛めていると思われる人も目に付く。これは自分も気を付けなければならない。なぜなら帰りは山頂 4000m から 1860m まで降りるからです。自分も経験がなく今回心配している一つ目です。

なんとなく1日目は宿泊地の 3200m までたどり着けた。宿泊棟は4棟ぐらいあります。私達の宿泊場では暖房設備は見当たらず少し寒い。夕食も防寒着で

食事です。食事はビュッフェ方式で品数が豊富です。ここで心配事の二つ目が、高山病が自分に発病するかですが、今の所頭痛の症状はないが、不安の中就寝する。

登頂当日、少し寝不足みではあるが、体調には問題なく朝食を済ませた様子を見る。霧雨です。霧雨の中 6 時間の行動を考えると、少し心が曇りますが万全の雨対策の支度を始める。皆さん出発時間は一緒に玄関は混雑している。出発時は風も少し強くまだ体も温まっていず寒い。暗い山道をヘッドライト頼りで歩く。時折上下を見ると登山者の灯りが見えます。途中にサヤサヤ小屋があり登山者の ID タグをチェックしています。そこにはトイレや気分のすぐれない人用のベットがありました。空気が薄いせい息が上る。気付けば強風や霧雨はおさまっていき、前方には黒い山影が見え始めてきました。次第に明るくなり山影に色が付き始め山頂手前で日の出を迎えました。山頂では全員の記念撮影のみで撤収です。苦労したのに山頂滞在 10 分程度です。メンバーと天候に恵まれ山頂も踏んだよい山行でした。

4000m 超えを体験し、何か満足です。



ホワイトレッキング



熊谷駅を予定より少し早く出発。京成上野駅で橋本さん合流。スカイライナー55号で成田空港第2ビル駅に向け出発。到着後すぐに出発ロビーへ。全員の搭乗手続きが済んだところで一旦解散

山域山名:ハワイ諸島(オアフ島、カウアイ島、ハワイ島)

期日:2019年9月5日~11日(7日間)

参加者:L 橋本 SL 大嶋 瀧澤 黒澤 軽石 高橋武 豊島

行動記録:

9月5日(木)<天気晴れ>

熊谷駅 16:16ー上野駅 17:21ー京成上野駅 17:50ー成田空港 18:24/21:15ー(HA824 便)ーホノルル空港 09:50/12:30ー昼食 12:55/13:20ーダイヤモンドヘッドパーク 13:25/13:30ーダイヤモンドヘッド山頂 14:15/14:30ーダイヤモンドヘッドパーク 15:05/15:10ーハナウマ湾自然保護区 15:35/16:30ー東海岸ドライブワイキキ・サンドピラ・ホテル 17:55ー夕食ーホテル 20:45

(注:ハワイの時間は日本との時差が -19時間あるので、出発までは日本時間、ホノルル到着時からハワイ時間にしてある。)

それぞれ自由行動。全員が再集合したところで 20:25 出国手続きへ。手荷物と身体検査は以前とあまり変わっていないが、出国審査はスキャナーにパスポートをかざし顔と指紋の照合をするだけ。1分もかからず終わった。かつてはドキドキしながら並んで審査を受け、それが終わると「さあ外国に行けるぞ」と実感したものだったが何か気抜けした感じ。20:45 搭乗口に着くと待合室の椅子はかなり埋まっていた。21:00 搭乗。21:15 飛行機がターミナルから動き始め、21:40 成田空港離陸。日付変更線を越え9月5日の午前9時50分ホノルル空港着陸。窓からはまだ就航したばかりの全日空のA340の大きな機体が見えた。10:05 飛行機を降りる。

長い通路を通して入国審査場へ。審査場はものすごい人の数で迷路のようにならばされた。入国審査が終わって預け荷物を受け取り空港建物から外に出た時は 11:25。外は暑かったがカラッとしていて風もあり爽

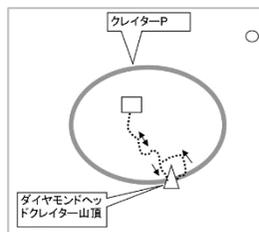
日程表

期日	発着地時刻	交通手段	活動内容	宿泊
1	9/5 木 熊谷駅改札集合16:10 成田発 21:25 ダニエル空港着9月5日10:05 オアフ島内	列車 HawaiianAir HA824航空機 所要7h40m レンタカー 歩行3h前後	熊谷駅16:27高崎線-京成上野17:46-SR55号 日付変更線を越える(-1日) ダイヤモンドヘッドハイキング ハマナウ湾 東部地域ドライブ (ワイキキビーチクヒオビーチフラッシュ18:30)	機内泊 ホノルル泊 Sand Villa
2	9/6 金 ダニエル空港発 6:25 T1 リフェ空港着 7:04 カウワイ島内 リフェ空港発 20:00 ダニエル空港着 20:35	タクシー HawaiianAir HA123航空機 所要39分 レンタカー 歩行4h前後 HawaiianAir HA544(所要35分) タクシー	ワイレア滝 ワイメアキャニオン 途中買物 2-3箇所で展望 コケエ博物館 コケエ州立公園周辺ハイキング 復路 ワイメアの街、 オールドコロアタウン アラートンガーデン プリンスクヒオ公園 (カウアイラグーン 東海岸ワイレア カパ)	ホノルル泊 Sand Villa
3	9/7 土 ダニエル空港発 10:17 T1 コナ空港着 11:05 ハワイ島周遊 ヒロ着夜	タクシー HawaiianAir HA228(所要48分) レンタカー 歩行3h前後	プウコホラ歴史公園 ワイピオ溪谷 ワイメア マウナケアオニスカピジターセンター ピジターセンター周辺ハイキング&夕日星観察 (Sunset18:43)	ヒロ泊 Castle hilo
4	9/8 日 ヒロ発 キエアウエア火山 コナ着	レンタカー 歩行4h前後	ハワイ火山国立公園に移動 ピジターセンター、火山の見学、ハイキング 南周りでコナ 途中プナルウ黒砂海岸プウホヌア歴史公園 カイルアコナ散策	コナ泊 Aston Kona
5	9/9 月 コナ空港発 8:13 ダニエル空港着 9:00	レンタカー HawaiianAir HA147航空機 所要47分 レンタカー	アリゾナ記念館・戦艦ミズーリー29 th 見学 オアフ島西部ワヒアワ植物園 ドールプランテー ション ハレイワ散策 インターナショナルマーケットプレイス18:00-フラ ッシュ	ホノルル泊 Ilima
6	9/10 火 市内→空港 昼過ぎ ダニエル空港発 16:00	レンタカー HawaiianAir HA823航空機 所要8h25m	午前:フリータイム SCで買物、海水浴、ワイキキビーチ散策等 日付変更線を越える(+1日)	機内泊
7	9/11 水 成田空港着9月11日19:25	列車	着後解散 各自自宅へ	

やか。まずはレンタカーの受付に行くのだが場所がよくわからない。空港職員らしき人に場所を尋ねやつのこと到着。大した距離でなくも初めてのところは遠く感じる。

12:05 レンタカーの受付が終わり車のキーとカーナビを持って駐車場に向かう。国際免許は橋本さん、豊島さん、黒澤の3人が取得していたが、運転手を3人登録すると料金がかさむので今日は橋本さんと黒澤が運転を担当。まずは左ハンドルに慣れている橋本さんが運転。なんやかやで駐車場を出た時は12:30になっていた。

カーナビはスマホ型で日本語表示になっていたが日本語での入力ができず私には使いにくかった。まずはダイヤモンドヘッドに行くのだがうまくセットできず、私が持参したガーミンのGPSで目標を定め橋本さんに口頭で案内した。ダイヤモンドヘッドが近づいたところで道沿いの食料品店に車を止め銘々食べる物を買って店の外のテーブルで昼食。ダイヤモンドヘッドはトンネルをくぐって中に入る。今回ハワイに来ることになって知ったのだが、ダイヤモンドヘッドはワイキキビーチから先の尖った岬のように見えるが、カルデラ火山なのだ。ダイヤモンドヘッドの外からの登山道はなく、カルデラの中に入らなければダイヤモンドヘッドの山頂には行けない。駐車料金5ドル。ダイヤモンドヘッドへの登山路はずっと舗装されていた。山頂近くにダイヤモンドヘッドのカルデラが一望できる展望台あった。山頂直下で登山路はトンネルに入り、ここを出るとすぐ右側に山頂に直登する梯子があった。急斜面で長いので私は左の迂回路から登



った。山頂に着くと360度の展望。ワイキキビーチもよく見える。山頂のすぐ下はトーチカになっていた。真珠湾攻撃の日本軍機はダイヤモンドヘッド上空を飛んでいるので、次の来襲に備えて作られたものだろうか。駐車場から山頂までの登りは45分かかり、ほぼガイドブックの通りの時間だった。

ダイヤモンドヘッドから運転を黒澤に代わった。初めての海外での運転。運転そのものは心配するほどではなかったが、左前方から対向車が来るのに慣れていないため、ついつい右側に逃げてしまう。右側に寄りすぎると何度もよく注意されたが、これだけは最後まで慣れることはできなかった。ハナウマ湾自然保護区に向かった。ハナウマ湾自然保護区は上から眺めると小さな湾の奥にビーチがあり沢山の人が海水浴をしているのが見えた。だがそこに行くには入場料が必要だった。金を払って橋本さんと豊島さんが降りていったが、あとの5人は駐車場の周りの散策路を歩いて海を眺めたりベンチに寝転んだりした。続いてコオラウ山脈からホノルル市街が一望できる展望台に向かって海岸線の道を走る。左側はコオラウ山脈の山体崩壊でできたものすごい断崖絶壁。コオラウ山脈の東側は貿易風があたり雨が多い。我々が走る間も雨が降ったり止んだり。カイルアの町近くで左折し展望台を目指しホノルル方面に車を向けると、仕事を終え家に帰る車なのだろうか、対向車線は大渋滞になってきた。ハワイでもこんな光景になるのかとちょっとびっくり。展望台への入り口は閉鎖されていた。もう長いこと閉鎖されていたような様子。道路崩壊でもしているのかもしれない。展望台の観光は諦めてホテルに向かうこととした。ホノルル市街地に入る前に橋本さんに運転交代。人通

りの多いところは橋本さんの運転。25分ほどでホテルに到着。荷物を部屋に運び終えてから、私と橋本さんでレンタカーを返しに。まだホノルルの様子がよくわかっておらずレンタカーを返す場所を探すが大変だった。その前に満タン返してガソリンスタンドに行ったがやり方がよく分からずこちらもだいたい手間取った。やっとのことで車を返し、夕食のレストランを適当に探して入ると、なんとホテルで別れた仲間達も同じそこで食事をしていて。一緒に食事を済ませホテルに戻り、日本からずっと続いた9月5日の長い一日を無事終えることができました。(黒澤記)

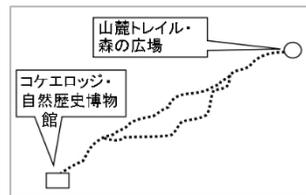


9月6日(金)<天気晴れ・曇り、小雨>

ホテル 4:50=タクシー=ダニエル K 空港
 5:10/6:20=航空機=カウアイ島リフェ空港
 7:00/7:25=レンタカー=ワイレア滝 7:45
 /8:00=ハナペペ展望台・吊橋=ワイメアから
 550号経由=ワイメア溪谷展望台 10:20
 /10:40=プウヒナヒナ展望台 11:10=コケエ
 ロッジ 11:20-北東山麓へハイキングし森
 林内広場で昼食 12:00/12:30-コケエ博物
 館 12:50 /13:20=カララウ展望台 13:30=
 プウオキラ展望台から稜線のハイキング
 14:00 /15:00=ケカハ経由コロア 16:40
 /17:00=リフェ市内 17:30/19:00=リフェ空
 港 19:20 /20:10=航空機=ダニエル K 空
 港 20:40 /21:10=タクシー=ホテル 21:45

2日目は早立ちでカウアイ島に行く。午前3時ころ起きると東の空にオリオン座が輝いていた。朝4時にコールが鳴り、起きて準備を始める。4時50分ホノルル市街地のホテ

ルからタクシーで、ハイウェイを順調に走り、空港に着く。セキュリティチェック後、ハワイアン航空機でカウアイ島リフェ空港に着陸。雨が降った後か、地面が濡れている。レンタカーを借り、早速、島内初めてのワイレア滝を目指す。幹線道路



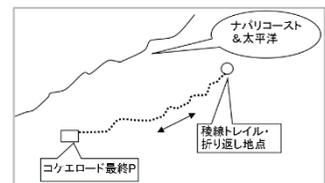
から滝への道に入ると2車線ながら狭い。朝日の中で山の方に虹が見える。綺麗な車のナンバーには”ALOHA STATE”とあり虹のマークが入っている。道路の行き止まりのPには数台が駐車している。下りて、右の谷に落ちている滝を見る。かなり水量が多い2筋の高さ40m位の滝だ。断層に滝ができたらしく滝壺も大きい。落水が朝日に白く輝く。ただ、下の川まで下りられない。滝遠望で終了。植物に関心のある人は周りの植物を見学。ハワイ固有種の火が燃えているようなオヒアがあった。滝を後にして、今度は島の南部を西に向かう。雨が降るが止む。速さ50マイル(時速80km)ほどで走る。ハワイはイギリスの影響が強いせい、

どこもマイル、ポンド、ガロンを使っており、km、kg、l に換算しないといけない。途中の店で朝食。鶏が歩き回っていて、人の落とす食べ物をつつく。さらに西に走り、草原のような場所、右側に森のある場所を走る。この島も昔はサトウキビ栽培と製糖業が盛んだったという。それらしき古い工場も見える。ハナペペ渓谷展望台を少し行き過ぎ、車を止めて北側の渓谷を見学する。渓谷が深く島を刻んでいる。ハナペペの集落に吊橋があるので立ち寄る。古い木製の吊橋だ。P 近くにアカシアのようなクリーム色の花が咲いている。さらに進んでワイメアの街に入り直ぐに北に曲がり、いよいよワイメア渓谷を望む稜線を登る。この道は渓谷の西側の稜線にあり、周りは草、灌木くらいで見晴らしがよい。右はワイメア渓谷、左は太平洋。カウアイ島ワイメアキャニオンに来ているのだと実感する。運転に集中しているが、道が狭く左右のラインの鋏を踏んでしまう。カウアイ島は地質的には 500 万年前にホットスポットの上で作られプレートに乗りここまで来た。その間に高かった山は侵食を受けて谷と尾根の起伏の激しい島になり、植物が繁った。そのためカウアイ島は別名「ガーデンアイランド」といい緑が濃い。ワイメア渓谷展望台に立ち寄る。谷を見下ろす展望台からは渓谷の全体が見え、ワオーと叫びたくなるほど。この景色は説明しても写真でも、伝えることは難しい。火山の地層が侵食を受け、険しい谷になっている。滝も見える。渓谷上流の別の展望台からはまた別の景色を楽しむことができた。谷の向こうの尾根に人が歩いている。滝に向かうトレイルがあり、本格的な登山をする人が歩く。近くに腰布だけのハワイ原住民の格好をした人がおり、チップを入れ、一緒に写真を撮ってもらう。

先住民の人は片言の英語でやり取りしても明るく楽しい。

ワイメアキャニオンを楽しんだ後、少し車で走り、広い草原のあるコケエロッジに車を停めた。ここからは尾根の山麓のトレイルを歩く。広い草原を横切り、その中の大木を見上げ、ジンジャーの花を見て歩く。トレイルは若木の林の中だ。小さい谷を横切る場所にはハワイ固有の花ネヘが咲いている。林床にはシダも多い。木々にはコケが生えている。雨が多く生えやすいのだろう。大木が倒れた明るい広場で昼食にした。ここからコケエロッジに戻る。途中にはコアの木などあり、珍しいので見入る。コケエ博物館見学後、さらに走り、カララウ展望台で島の北西部のナパリコーストを展望する。険しく、ガスが湧き、海が見え絶景だ。最終 P まで行き、稜線を往復 1 時間のハイキングをする。すでにここは右側がワイメア渓谷の最上流部で、左がナバリコーストの切れ落ちた谷だ。登山者がちらほらおり、ドイツからきた 2 人連れも歩いている。雨が降ったり止んだりして、雨具を出すかださなにかくらいだ。ガスが谷にかかり景色がはっきり見えない。30 分間、雨で滑りやすい道を歩き戻る。それから 15 分くらいたってから海岸沿いの谷のガスが切れ、日も射し美しい谷の全体が見え、ここまで来た甲斐があったと実感する。

帰り道はコケエロード途中から、ケカハに下りてリフェに向かった。昔風の



建物が残っているというコロアに立ち寄る。川のそばには 1925 年に植えたという、モンキーポッドの木があった。100 年たたないの



に巨木である。また、枝から根が垂れてくる大木もあり、皆で見入る。

近くの店で飲み物を買う。店は SUEOKA MARKET とあり日系の名前である。50号に戻るときにツリートンネルがあり、杉並木のようにもあつた。

リフェに戻り、給油し、夕食をとる。レンタカーを返し、航空機でオアフ島に戻りタクシーでホノルル市街地のホテルに戻つたのは9時を過ぎていた。感動と刺激の多い盛りだくさんの1日が終わった。(橋本記)

9月7日(土)<天気晴れ、ワイメア以降は曇り・雨>

ワイキキ・サンドビラ・ホテル出発 7:50=ダニエル空港 8:20/10:10=エリソン・オニズカ・コナ国際空港 10:55/11:15=(バス移動)レンタカー手続き 11:25/12:00=カワイハエ 12:50/13:25=プウコホラ・ヘイアウ国立歴史公園 13:30/14:20=ワイメアスーパーマーケット 15:00/15:30=サドルロードのマウナケア入り口(2000m) 16:25=キャッスルヒロハワイアンホテル 17:30

7時にフロントに集合し、ホテルのレストランでバイキングの朝食。風が入り、開け放たれた窓から鳥が自由に出入りしている。既にタクシーが来ているので、少し早いですが空港へ出発。話好きのドライバーは、最後まで話が止まらない。どうやら国際線乗り場に降りたらしい。

歩いて移動。履物まで検査される入念なチェックを通り、無事離陸。ハナウマ湾が雲の間からくっきり見える。離陸から30分ほどで、マウイ島の南に赤く流れた山肌が際立つ島が見えてくる。ハワイ島の方向には、雲の上にマウナケアらしい山が聳えている。

コナ空港は、溶岩台地の中の滑走路に向かって降りる。建物は平屋で、風が通り抜ける南の島らしい建物だ。送迎バスで、レンタカー会社へ行き手続きをする。運転手になる3人の免許証、クレジットカードの提示を求められる。手続きを終え車の計器を確認し、橋本さんの運転で出発。

島を覆う溶岩には手を付けず、その上に必要な人工物を造ってきたようだ。19号線を北東に15分ほど走った所で、海まで続く溶岩を間近に見学。イネ科の植物が繁茂している。ファアラライ山の緩い斜面には溶岩の中に建物が幾つか見える。コハラ山脈が見えてくると北東風が強くなってくる。ワイメアに曲がる角を左に進み、昼食予定のカワイハエの町へ。目当ての「キッチン」はお休み。仕方なく近くのガソリンスタンドの「MINIT

STOP」で昼食を調達し、外のテーブルで、強風に煽られながら食事を済ませます。ここから5分ほどでプウコホラ・ハイアウ国立歴史公園に着く。カメハメハI世によって戦争の神に捧げられた神殿が造られた、「鯨の丘」には、1928年に復元された大きな石垣が残っている。赤茶けた土の丘に、角の無い扁平した石で組まれている。吹き曝しの丘から海岸に降りると、林の中の湿地に拳大の緑色の実が沢山生っている。ごつごつした溶岩の塊を避けながら駐車場に戻る。

ここから黒澤さんの運転で、ワイメアを目指す。19号線に戻り東に走る。14時半頃からガスが降り始め、雨になる。今夜のマウナケアビジターセンター周辺のトレッキングと星空観望に備え、マーケット(フードランド)で夕食とビールを買い込む。いよいよマウナケアに出発。190号線を南に進む。左側に牧場が広がる。10分ほど行くと、噴火口のある小さな丘が幾つも出てくる。200号線(サドルロード)に入り少し行くとユーカリの林が現れ、羊や牛がのんびりしている。16時橋本さんと運転を交代し、200号線の本道と合流。暫く行くと前方に虹が出ている。5分ほどで虹の下を潜ると雨！標高1900m 辺りから一気に黒い溶岩が現れる。標高2000m のマウナケア入り口はバリケードで封鎖されている。事前の情報で、頂上は入れないと分かっていたが、ビジターセンターまでも入れない。バリケード内の車やテントに人は居るがどうにもなら

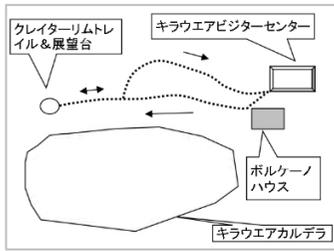
ない。風雨が強まり、テントも雨具もびしょ濡れでも彼らは「聖地を譲らない」。私たちは、諦めてヒロのホテルに向かうことにする。200号線を東にぐんぐん下り、海岸の道に出る。17時半ホテルに到着。チェックインを済ませ、マウナケアのために準備した食料とお酒を持ち寄り楽しい会食。明日の確認をして19時45分解散。(豊島記)

9月8日(日)<天気晴れ>

ヒロ市内ホテル 8:00=溶岩流(2018年5月)
8:40/9:30=ボルケーノ国立公園入り口
10:25-キラウエア・ビジターセンター10:30
/10:50-キラウエア・カルデラ展望-ボルケーノ・ハウス(昼食)12:10 /13:10=チェーン・オブ・クレーター13:30/ 13:40=ウィットニングトン・ビーチパーク 14:30 /14:50=コナ(宿・アストン・コナ・ホテル)16:30=夕食・買い物 17:20/19:00

昨夜の雨で洗われ、すがすがしい緑の中、出掛ける。陽を受けて海も美しい。キラウエアに行く前に、2018年5月の溶岩流を見る





ためらわずに一方方向へのわき道に入る。いきなり黒々とした溶岩流が現れる。辺

りは住宅街。とはいっても日本の別荘地といった雰囲気では明るい緑あふれる緩傾斜地に家がポツポツ建っている。溶岩は粘り気のある液体が流れたといった風にはくっきりと流紋がある。枕状溶岩も見られる。木の燃え跡が丸く残っている。交差点は背より高く埋まり電信柱は倒れ、上方を見ると焼跡のように少し凸凹しながらもほぼ平かに広々と溶岩が盛り上がっている。下方を見ると何事も無かったかのように、明るい木立の中にアスファルトの道が伸びている。凄まじい。地球は生きてると実感しました。

ボルケーノ国立公園ではまずはキラウエア・ビジターセンターで勉強してからクレイター・リム・トレイルを通してキラウエア・カルデラを見に行く。樹林帯に行く。濃緑の葉に赤い糸の集まりのような赤い花を付けている木が多い。オヒアと呼ばれ赤い糸のようなものは雄蕊でハワイの固有種とのこと、溶岩地帯にいち早く生育するとのことである。シダも多く、枝分かれしつつ背丈ほどもこもり広がるものや、5m の大木状になるものもある。ところどころ路のすぐわきに熱い水蒸気が噴き出している。キラウエア・カルデラは草木の無い平原で安達太良の沼ノ平を連想する。その中に噴火口がへこんでいる。カルデラの縁にはオヒアの純林、反対側は草原状でその中には、草丈 1m ほどのランが 5cm ほどの白花をつけている。草原の中を帰路につく。途中、草の枯れているとこ

ろが現れ、熱のせいか化学的なものかと話しているうちに硫黄臭くなる。サルファー・バンクとあり、日本のいわゆる地獄を小規模にした感じのようなところを通る。ボルケーノ・ハウスで昼食、キラウエア・カルデラを見晴らし、庭には美しい花木やシダが植えられている。チェーン・オブ・クレーターでは小さな噴火口を見る。溶岩の塊を持ち上げて見ると気泡が多いらしく意外と軽い。

公園入り口に戻り、今晚の宿のあるコナへと南周りで向かう。低木の広がる平原の中の真っ直ぐな道、左手の海には新しい島ができつつあるはず、島はまだ海面下 1000m なので見えないよと言いつつも目を凝らしてしまう。やがて海岸まで下りつき一休み、黒い溶岩が海水に洗われている。北東からの貿易風の影響で東側のヒコでは適度の雨があるとのこと緑豊かだったのに、西側では草原状となり、溶岩が緩やかに海まで流れた跡がはっきり見えるところがある。緑に見えるところも直ぐ下は溶岩なのだろうなと思いつつ進む。本当に若い島なのだなと思いました。(高橋武記)

9月9日(月)<天気晴れ>

ハワイ島アストン・コナホテル 7:50=コナ空港 8:13→✈️→オアフ島ダニエル空港 9:00=アリゾナ記念館 10:15/12:20→昼食=戦艦ミズーリ見学 12:45/15:00=ドール・パイナップル農園見学 16:00/17:00=ホノルル・イリマホテル 18:15→中華料理店でラーメンの夕食 19:00→ホテル 19:20

今日は朝にオアフ島に戻る予定。朝食前にレンタカーに乗り込み、コナ空港に到着。この空港はいかにも田舎らしく、空港建物がハワイ独特の民家風でいくつかの独立した建物を露天の通路がつなぐ形になってい

ます。荷物チェック、待合の建物などは車道から直接立ち入ることができる。いざ搭乘すると、滑走路と誘導路は舗装されていますが、その間の空き地は手づかずの溶岩流のままです。この島が何度もくりかえし溶岩の噴出でできあがっている事がわかります。ハワイ島では、そういう貴重な光景が間近に見ることが出来て良かった。

オアフ島ダニエル空港に到着間際に飛行機の窓からパールハーバーがよく見えました。この入り江はなるほど良港だが、予想していたより小さく見えます。飛行機は予定通り到着。またレンタカーを借ります。今日は見学が中心で、まず「USS アリゾナ記念館」をめざします。記念館はチケットを購入した後、手荷物を預けなければなりません。カメラとサイフ以外はすべてお預かりというから、ずいぶん厳しい。入場すると、2棟の博物館があってここで展示品と映像で日本軍の真珠湾攻撃と太平洋戦争の歴史を学ぶしくみです。映像はおおむね事実に沿っていて公平であると思いました。靖国神社の博物館「遊就館」の展示で、真珠湾攻撃も、日本のボツダム宣言受諾もみんなアメリカの謀略・・・という説明が国内外から批判されて、その後手直したのとは違うと感じました。

1 時間ほど時間をつぶして見学の時間になるとゲートから入場して、又大きな映画館で映画を見せられます。それが終わると埠頭に移動して連絡の海軍のボートに乗り込みます。上下とも白い海兵の制服が印象的でした。10 分ほどで海上の記念館に着くと、5, 60 人ほどの見学客は黙って栈橋に降りました。私は、人びとの動きからなんとなく海の墓所に到着したというような敬虔な気分を感じました。入り口でもらった記念館の

パンフ(日本語版)の冒頭には、「榮譽 追悼 理解」と大きく書かれていて、この「記念館は 1941 年 12 月 7 日亡くなった乗組員 1,177 名を中に残したまま沈没した戦艦アリゾナ号上に建てられ、彼らはここで永遠のねむりについていて」と記されています。記念館の窓からのぞくと、アリゾナの砲台であろうと思われる大きな筒状の鉄板が波の



上に出ています。その先に見える白いブイは船首または船尾の印でしょう。この下に確かにアリゾナは沈んでいました。その先の部屋の壁にはおびただしいこの船で戦死した将兵の名前が刻まれています。訪れた客は声もなく立ち尽くしていました。

海軍のボートに乗って陸に戻った後、次は「戦艦ミズーリ記念館」を見学します。その途中売店を見つけてパンを買って簡単な昼食を済ませました。ここから今度はバスに乗って対岸にあるミズーリをめざします。

艦に乗船するとき見上げてその大きさに驚きました。全長 270m、最大幅 33m あるとパンフレットには書いてあります。甲板に上がって、日本語ガイドに案内されて見学しました。この船は 1944 年 1 月進水し、第二次世界戦争では沖縄戦などに参戦し、1945 年 9 月 2 日このデッキで日本の降伏文書調印式が行われました。現在はここパールハーバーに係留されて、戦争の歴史を

今に伝える記念館として一般公開されています。

印象的だったのは、巨大な 16 インチ(40, 6cm)砲です。これが 3 門ずつ並んだ砲台が 3 基もあります。ガイドの話で驚いたのは、沖縄戦の時 4 月 11 日、日本軍の特攻機が右舷後方から接近してデ



ッキに体当たりしたそうです。一面火の海になったが、消火活動をして難を逃れたということで、船縁にその衝撃を伝えるゆがみがそのままになっています。搭乘していた日本兵は即死したが、丁重に水葬で葬られ、最近兵士の名前が判明したそうです。日陰のない艦上の見学は疲れました。

これで両博物館の見学は終わり、帰りに「ドール・パイナップル農園」を見学しました。施設の外にはパイナップルの畑、館内では主に加工した土産物販売が中心です。パイナップルそのものの販売品もありましたが、日本に送ることを考えると日本で買ったほうがずっと安い。駐車場脇にそびえるユウカリの大樹は大変立派でしたが、それ以外の収穫はなかったです。

今日のホテルは、サンド・ビラホテル近くのイリマホテルです。チェックインの後夕食は町に出てラーメンで乾杯しました。大変おいしくて、チャーシューの分厚い事には感動しました。(瀧澤記)

9月10日(火)<天気晴れ>

イリマホテル 7:00→FIRE GRILL(朝食)
7:15/8:0→イリマホテル 8:10/8:40-US アーミー博物館 9:00/9:10-ワイキキビーチ散策 9:15/10:50-丸亀釜焼うどん(昼食)
11:00/11:45-ホテル荷物受取 12:00/12:40-ダニエル K イノウエ国際空港
13:00 出国手続き 16:00(成田行 HA823)
=

我らのホテルに朝食がない為近くに出かけることにした。1 ブロック南の大通り角に高いビルがあり「ヒルトンガーデン」と読める。1F のレストラン「ファイヤーグリル」にリーダーが案内してくれた。バイキング形式なのでその点わかりやすい。食後ホテルに戻り部屋の荷物を午前中だけ預かってもらうべく1室にまとめておいてもらった。まだ8時半、昼までたっぷり時間が残っている。そぞろ歩きにはもってこいだが、はぐれないように金魚のフンのごとくリーダーについて廻るしかない。一旦北に向かい U.S アーミー博物館に着くと大きな公園の一角に大砲や戦車や機関砲が並んでいて、大戦時のものだと分

かる。中に旧日本軍の貧弱な戦車も英文の説明の碑と共にあり、往時の勇姿を残している。改めて思うとこのような戦車など映画や写真で見知っていても実物を見るという体験が無かったと気づいた。昨日のパールハーバーの戦艦アリゾナやミズーリ号を見て、乗って、これが77歳にして初めてで、改めて平和ボケの日本人の一人として戦争で亡くなった人々を思い様々な感慨を得ることが出来た。公園からビーチに出てみると9時過ぎにして早くも多くの海水浴客が水辺で遊んでいた。

長ズボンに靴を履いた我々男たちは明らかに場違いと認識しつつ砂の上を歩いた。この辺りから南を向くと左にホテルのビル群と浜、右に海、その向こうにはダイヤモンドヘッドというお決まりの景色を撮りつつ遊歩道を進んだ。ホテルの庭先とビーチがつながっている所もあり、憩いの人々も増えてきた。浜と道路が近くなった辺りにデューク・カハナモク像があり、そばには飲み物の売り場があってこれ幸いとベンチに腰掛けひと休み。そして眼の前の老若男女の水着姿を飽かずに眺めまったりとした時を過ごした。11時になりホテルに戻る前に昼食を摂ろうと昨日から目をつけていた丸亀釜焼うどんに入り、食べ慣れた日本の味でハワイの最後の食事を終えた。ホテルに戻り荷物をまとめ予約を入れていたタクシーでホノルル空港に着いた。早めに着いて手続きを済ませ出発まで待つのはやむを得ない。ハワイの6日間はこうしてみるとあっという間であった。(軽石記)

9月11日(水)<天気晴れ>

日付変更線を越えた関係でプラス1日になり成田空港着 19:10 機内預け荷物受領

後解散 20:30=成田空港発 20:50=電車利用=熊谷駅 22:40

時差の関係で日付変更線を越え、-19時間で直ぐに翌11日になり、成田空港は夜になっていた。西に飛行するのでジェット気流の影響を受け往路より45分多くかかる予定だったが順調に飛行し予定の時刻よりも早く着いた。日本のニュースでは9月9日は台風の直撃を受け大変だったようだが、その日より2日遅く予定どおりの到着ができた。(大嶋)

<感想・報告の部>

ハワイで一体験したこと、感じたこと、考えたこと

橋本義彦

1週間のホワイトレッキングを終わったが、私にとって実に思い出の多い、色々見聞を広めることのできたハワイ行きであった。

「ハワイ」というと、常夏の国、日本人が海外で好きな旅行先で150万人が行く場所で、観光地というイメージだ。年間150万人の日本人が訪れるという。事前学習で、地質地形、動植物、歴史、経済産業等を学んだ。その事前学習により、観光でなく、ハワイを様々な側面から実際に学び、体験し、感じる事ができた。

ハワイ諸島は、ホットスポット上に出来た島で、500万年前にできたカウアイ島は雨に浸食され、深い渓谷を作っている。島の歴史も古く、貿易風の下手にあたる南西側にも緑が繁る。

できたのが新しいハワイ島はのっぺらした



火山噴出物の上を黒い溶岩が所々を覆い、数年前にも住宅地の道路から溶岩が流れ出て住宅を燃やした。ウエゲナーが構想したプレートテクトニクス理論の正しさを実感した。

カウアイ島の“ワイメアキャニオン”は以前から行きたい場所だった。20年ほど前、NHKの大杉先生のラジオ英会話を聴いて、英会話の場面に出てきたので、いつかは行ってみたいとずっと思っていた。こうして山の仲間と夢が実現し、本当に嬉しい。ハワイは絶海の孤島で、出来てから一度もどの大陸とも地続きになったことがない。こうして生えているハワイの動植物はどこから来たのか。そしてこの島の固有種になっていったのか。ダーウィンがガラパゴス諸島の動植物が島ごとに変化しているのを観察して、「種の起源」を着想したという。ハワイでも当然島々によって違うだろう。それを調べるまでの余裕はない。だがその固有の植物も人間が持込んだ動植物に勢力を奪われているという。その区別は難しいが、ガイドブックを参考に撮った写真を後で確認し、

オヒア、ネヘ、コアが固有種であると分かった。固有種が見られて良かった。名前は先住ハワイ人がつけたようでニュージーランドの植物名に似ている。

今回、島内の移動手段にレンタカーを利用した。一人ではもしもの時に代わりの人がいないので、左ハンドル車の練習をして、2名を左ハンドル車運転手として養

成して出かけた。ウインカーとワイパーの操作はよく間違えた。でも割合スムーズに運転をすることができた。危ないのは左折の時曲がって左車線の入りそうになった。レンタカーの貸し方も日本と異なる。書類の手続きが終わると、鍵とナビ(接続して使う)を渡され”C12にある”といわれるだけだ。車の操作の仕方も、傷のチェックもなし。シートには砂がたくさんついているなど日本とは大違い。燃料は満タン返しだ。オアフ島にはハイウェイがあり無料だ。片側5車線もあり、道も知らないし、あっという間に出るべきでない出口に導かれる。進路変更のときは少し離れていれば譲ってくれるし、マナーは悪くない。給油も慣れないと難しい。1リットル100円位。

「パールハーバー」と言えば太平洋戦争開始にアメリカへの奇襲攻撃した場所で、アリゾナ記念館と戦艦ミズーリを見学した。こうした歴史的な場所は日本では人気がない。ところが、アリゾナ記念館には多くの人が押し寄せていた。日本人としての見方になるが、展示内容は、日本を非難する内容とい

うよりも、具体的な事実を説明しているものであった。説明に「アメリカと日本は最後まで平和的な解決を探っていた。」とあった。船で沈没したアリゾナの上に作られたアリゾナ記念館に渡った。真珠湾攻撃を受け亡くなった人々の名前が白い壁に刻まれ、冥福を祈らずにはいられなかった。海面を見ると油が少し浮き上がり油膜が反射しアリゾナはまだ何かを伝えているようだ。戦艦ミズーリでは降伏文書調印の場所、ゼロ戦の攻撃でできた傷跡を見学した。第二次世界大戦の傷跡、悪い記憶を消し去りたいかのような日本、戦争の悲惨さを事実として伝えようとしているアメリカ。そんな印象をもった。だがこの真珠湾攻撃が沖縄戦、東京大空襲、広島・長崎の原爆投下に繋がっていたことには触れられていなかった。ハワイを紹介する本では、日系ハワイ人が真珠湾攻撃の後、たくさん志願したことが述べられている。だが、多くはヨーロッパ戦線に送られたとある。人種に配慮したわけである。

ハワイの記録と感想

軽石昭夫

今日は最終日、5 か月前にイメージしてた最後の日はどんな感じだったろうか。この日もホノルルの空は青く、東の山の稜線の向こうは雲が湧いている。いつもの気象状況だ。この時期の体感温度は日本のそれと比べても涼しく、常に海風があり暑苦しいと感じることはない。実に暮らしやすい土地なのだ。

我らのホテルに朝食がない為近くに出かけることにした。1 ブロック南の大通り角に高いビルがあり「ヒルトンガーデン」と読める。

1F のレストラン「ファイヤーグリル」にリーダーが案内してくれた。バイキング形式なのでその点わかりやすい。食後ホテルに戻り部屋の荷物を午前中だけ預かってもらうべく1室にまとめておいてもらった。まだ8時半、昼までたっぷり時間が残っている。そぞろ歩きにはもってこいだが、はぐれないように金魚のフンのごとくリーダーについて廻るしかない。一旦北に向かい U.S アーミー博物館に着くと大きな公園の一角に大砲や戦車や機関砲が並んでい、大戦時のものだと分かる。中に旧日本軍の貧弱な戦車も英文の説明の碑と共にあり、往時の勇姿を残している。改めて思うとこのような戦車など映画や写真で見知っていても実物を見るという体験が無かったと気づいた。昨日のパールハーバーの戦艦アリゾナやミズーリ号を見て、乗って、これが 77 歳にして初めてで、改めて平和ボケの日本人の一人として戦争で亡くなった人々を思い様々な感慨を得ることが出来た。公園からビーチに出てみると 9 時過ぎにして早くも多くの海水浴客が水辺で遊んでいた。

長ズボンに靴を履いた我々男たちは明らかに場違いと認識しつつ砂の上を歩いた。この辺りから南を向くと左にホテルのビル群と浜、右に海、その向こうにはダイヤモンドヘッドというお決まりの景色を撮りつつ遊歩道を進んだ。ホテルの庭先とビーチが繋がってる所もあり、憩いの人々も増えてきた。浜と道路が近くなった辺りにデューク・カハナモク像があり、そばには飲み物の売り場があってこれ幸いとベンチに腰掛けひと休み。そして目の前の老若男女の水着姿を飽かずに眺めまったりとした時を過ごした。11 時になりホテルに戻る前に昼食を撮ろうと昨日から目をつけていた丸亀釜焼うどんに

入り、食べ慣れた日本の味でハワイの最後の食事を終えた。ホテルに戻り荷物をまとめ予約を入れていたタクシーでホノルル空港に着いた。早めに着いて手続きを済ませ出発まで待つのはやむを得ない。ハワイの6日間はこうしてみるとあっという間であった。トラブルもなく数多の名所、各島の絶景、多くの花々と足元に群がる大小の鳥たち、それにホノルルの片側6車線のハイウエーに車がびっしりという光景も印象深い。また、蚊がいないのか刺されることがなかったのはありがたかった。そしてスムーズに事が運んだのは橋本リーダーの英会話のおかげであり、橋本氏の他、黒澤、豊島のお二方が大きな1BOX車で右側通行を上手にこなしてくださったことなど、改めて「ありがとうございました」と申し上げ終わりとします。

ハワイをトレッキング&旅して

黒澤孝

ある友人の薦めで20年ほど前からリゾートや観光でなくハワイの自然を見たいと思っていたがなかなか行く機会ができなかった。そんな中今回橋本さんがハワイトレックを企画してくれた。ハワイと言えばすぐ頭に浮かぶのが真珠湾、キラウエア火山の溶岩流、マウナケ

アのサンライズサンセットの眺めと星空観察、ワイキキビーチとダイヤモンドヘッド。これらが全部見られるコース設定。これまで行くことを考えたこともなかったカウアイ島もコースに入っていた。残念だったのはハワイ島でマウナケアの山頂を聖地とする地元住民が望遠鏡設置の反対運動で道が封鎖され、マウナケアでの夕日と星空を見ることが出来なかったこと。ハワイのことは事前学習で輪郭が見えてきた。ハワイの島には火山があるのではなく火山島そのものだということも学習会で知った。今のハワイは約500万年の歴史があり、今あるハワイを人生に例えれば、火山活動が活発で元気でヤンチャなハワイ島、火山活動は治まって働き盛りのオアフ島、火山活動はもう昔のことで老成の域のカウアイ島。今回巡ったのはこの3島。やはり一番行ってみたいかったハワイ島が印象深かった。飛行機がコナ飛行場が近づくと周辺は溶岩で覆い尽くされていた。初めて見たハワイ島は緑が少なく乱暴な例えだが今活発に活動している西之島に道路があるイメージ。

ハワイに出発する直前、キラウエア火山の



活動で溶岩が、今年の 5 月、住宅街を襲った様子を記録した番組が NHK の BS で放映されていた。それを見てその住宅街が「レイラニ・エステーツ」という場所だとわかり、ネットで調べ場所が特定できたので寄ってみた。行ってみると住宅街といっても家が軒を連ねているわけではなく、林の中を道路が走っていて木立の中に家が立っている別荘地のような所でした。道路は溶岩にふさがれその先は想像を遙かに超えた溶岩の量で小山のようになって広く固まっていた。溶岩の下には 700 戸以上の家が焼かれ埋まっているとのこと。生々しい現地の様子を見て日本に戻ってからグーグルアースで衛星写真を見るとその凄まじさが改めてよく分かった。

オアフ島では真珠湾のアリゾナメモリアルと戦艦ミズーリを見学した。ミズーリでは日本語のガイドが案内してくれた。東京湾で日本の降伏調印式が行われた場所には調印文書のレプリカが置かれていた。そこよりちょっと艦尾側に神風特攻機が突入してへこんだままにの部分があり、そこで操縦していた日本兵の水葬が行われ、儀式を行った兵士の足跡マークがついている。軍艦というものに乗るのは今回が初めてで砲塔や艦内を見て回ったが私には狭くなんとも息苦しい感じでした。

カウアイ島はハワイ諸島の中一番古い火山島で、活動は治まって雨の浸食で山が大きく削られ荒々しい渓谷を作っていた。ハワイのグランドキャニオンと言われているそうだが、渓谷の中を飛んでいた観光ヘリがよく見ないと分からないほど小さく見え渓谷の大きさが実感できました。

日本からもそんなに行く人がいるのかと思ってしまうほど毎日ハワイに向かって飛ん

でいる。入国審査に並ぶ人の多さに驚いた。ハワイ観光はオアフ島が中心で人も多いが、今回 3 島を巡ってみてオアフ島に限らずやはり皆観光地だなと思った。いずれにしる 20 年間の思いがやっと実現した今回のハワイツアーでした。

ホワイトレッキング感想

大嶋博

9 月 9 日(月)にパールハーバーのアリゾナ記念館と戦艦ミズーリを見学した。ここには旧日本軍の攻撃で戦争が始まり、多くの犠牲者が出て、1945 年の 8 月にミズーリ艦上で降伏調印式が行われた。日本に戻って 10 日に予科練平和記念館を見学する機会があった。その内容は予科練生の訓練の様子、空襲の実態、多くの訓練生がカミカゼ特攻で亡くなったという事実、そして平和の大切さを訴える展示で終わっている。広島



の平和公園も基本的に同じだと思う。

私はなぜあの戦争が起きたのか?誰が起こしたのか?考える必要があると思う。二度と戦争を起こさないために、今の日本国憲法の9条を守る事の必要性を痛感した。

ハワイ雑感

高橋武子

ホノルル空港に降り立つと大きなヤシが目を引き、南国へ来たとわくわくする。街中ではプルメリアの白い花が目立つ。ダイヤモンドヘッドでハイキング、暑い。カルデラの外輪山にあたり、乾燥地でマメ科のネムの仲間の木が目立つ。これら植物はもともと牛の飼料として持ち込まれた後、高温で乾燥しているハワイの気候に良く適合したとのことです。頂上からの展望は絶景でした。

カウワイ島ではワイメア渓谷へ行きました。緑豊かで、大きく深い渓谷を眺め、滝を見、少しハイキングをする。車窓からは色々なジンジャーの咲いているのが見える。北西先端は、降ったり陽がさしたりと忙しい、展望が無かったら15分待って下さいとのこと、なるほどと思う。霧が晴れると入江に船の走る姿が現れ大急ぎでパチリ、カメラに収める。

ハワイ島のマウナケアでは天文台の新設反対のピケが張られ、高所までいけませんでしたが、たまたま大雨だった

のであきらめもついたらといったところ。でも、国際的に星空観察に条件が良いと天文台のあるところで、満天の星空を期待してたのに残念でした。去年の5月に住宅街まで押し寄せた溶岩流は圧巻でした。火山国立公園ではキラウエア・カルデラへ散策、赤い花をつけたオヒアというハワイの固有種で溶岩帯に最初に根付くという植物が5mほどにも大きくなって純林といった感じになっているのは目を引きました。チェーン・オブ・クレーターも観に行きました。帰路、海岸線まで溶岩が流れているのが見られました。

古い島のカウワイ島は緑に覆われ深い渓谷が見られ、新しい島のハワイ島はまさに溶岩でできているといった感じで、その上を実際に歩いてみて遥かなる地球の歴史を、また、地球はまだ生きてると実感しました。全体的に街には花木が美しく、ハイビスカスやプルメリアがよく見られ、また日本のツツジのようにブーゲンビリアやサンタンカが植えられたり、ニセアカシアに似たシャワーツリーや<この木なんの木>と歌われているモンキーポッド等のマメ科の大木が見られ



ました。

真珠湾にも行きました。人間が出現して約 10 万年といわれていますが、地球の歴史から見たらほんの一瞬、恐竜の繁栄から見ても比喩物にならないほど短いのに、小さな存在なのに、殺しあったりして、人間って馬鹿ですね。戦争は本当に無駄で悲惨ですね。

最後はワイキキビーチ、よく見る写真のとおりのリゾート地、気持ち良い。何もかも忘れ青空のもと、靴を脱いで水際を歩きました。良い所ですね、楽しかったです。

真珠湾で太平洋戦争を考 える

瀧澤健次

私たちがパールハーバーのアリゾナ記念館を訪問したのは、2019 年 9 月 9 日、ハワイ山行の 5 日目である。初めて見た真珠湾は、今も軍港で静かな蒼い入り江だった。

78 年前の 1941 年 9 月 6 日、昭和天皇と日本政府、陸海軍は、条件付きながら対米英戦争の開戦を決定した。6 日の御前会議の前日、天皇は杉山元参謀総長と永野修身軍令部総長をとつぜん宮中に呼び出し、近衛首相立ち会いのもとに、作戦について質問をしたという。南方作戦は 5 ヶ月で完了するという杉山に対し、天皇は「お前の大
臣の時に蒋介石は直ぐ参ると云ふたが未だやれぬではないか」「太平洋は大陸より広いぞ」と不信述べたあと、「絶対に勝てるか(大声にて)」とたずねた。杉山は、「絶対とは申し兼ねます。しかし勝てる算のあることだけは申し上げられます。必ず勝つとは申し上げ兼ねます」とあやふやな返事しかできな

った。

杉山が陸軍大臣であった 1937 年 7 月 7 日盧溝橋事件に端を発した日中戦争は、3 年以上経っても全く解決の目途がみいだせず約 85 万の日本軍は中国大陸に釘付けにされたままだったのだ。

戦争に自信がなかったのは海軍の永野も同じで、11 月 4 日天皇臨席の軍事参議院会議の席上、東南アジアの要域を攻略する第一段作戦には「勝利の算我に多し」、「開戦の二カ年の間必勝の確信を有するも……将来の長期に亘る戦局につきては予見し得ず」と言い、同日東条英機首相兼陸相も「戦争の短期終結は希望する所にして種々考慮する所あるも名案なし。敵の死命を制する手段なきを遺憾とす。」「二年間は南方の要域を確保し得べく全力を尽くして努力せば、将来戦勝の基は之に因り作為し得るを確信す」と述べている。

かりにも米英と戦争を始めてこれに勝つためには、最終的にはワシントン、ロンドンを占領しなければ終わらないということは、素人にも分かることだが、そんな覚悟も自信も見通しもさらさない様子である。軍人たちの本音は、「初戦の 5 ヶ月は大いに頑張つて、二年間持ちこたえて戦えば、アメリカも泣きを入れてくるだろう、イギリスはドイツにお任せしよう」という程度のものだったのであろう。

方針が決まると軍部は戦争準備を急いだ。11 月 20 日すぎから南千島・択捉(エトロフ)島、単(ヒト)冠(カップ)湾に海軍の機動部隊が集結し始め、湾内をうずめつくした。赤城・加賀・蒼竜・飛竜・翔鶴・瑞鶴という 6 隻の航空母艦を中心に、比叡・霧島の戦艦 2 隻、利根・筑摩の重巡洋艦 2 隻など 31 隻からなる帝国海軍の最精鋭であった。これ

らの大艦隊は 11 月 26 日午前 6 時次々に碇を上げ北太平洋に姿を消していった。

同日ワシントンでハル国務長官からいわゆるハル＝ノートと呼ばれるアメリカの新提案を受け取った日本政府は、これを日本に対する最後通牒と受け止め、

12 月 1 日の御前会議で 12 月 8 の開戦を最終的に決定した。そして 12 月 2 日、広島湾に浮かぶ旗艦長門にある連合艦隊司令部は、機動部隊に対し、「ニイタカヤマノボレー二〇八」という暗号を打電した。その意味は 12 月 8 日午前零時を期して戦争行動を開始せよというのであった。暗号電を受信した機動部隊は、4 日から進路を南南東にかえ、全速力で真珠湾のあるオアフ島に接近していった。11 月 7 日乗員 2 名の特殊潜航艇 1 隻ずつを積み込んだ 5 隻の伊号潜水艦が、ミッドウエー島のはるか南方をとりぬけ、一直線に真珠湾に近づいていた。

明けて 12 月 8 日。日本時間の午前 1 時 30 分(ハワイ時間 12 月 7 日午前 6 時)、オアフ島の北 230 カイリの洋上から、旗艦赤城の飛行隊長淵田中佐率いる 183 機の第 1 次攻撃隊が発進し、ついで 1 時間 15 分後に 167 機の第二次攻撃隊が飛び立った。零戦に援護された九七式艦上攻撃機と九九式艦上爆撃機からなる攻撃隊であった。

オアフ島上空に達した淵田中佐は、戦艦が真珠湾内のフォード島の東側に 2 列縦隊



に並んで停泊しているのを確認したのち、午前 3 時 19 分(ハワイ時間 7 時 49 分)、第 1 次攻撃隊に対し「トト…」という略号によって「全軍突撃せよ」との命令を発した。

『昭和の歴史 7 太平洋戦争』(木坂順一郎著 小学館)P21 には、このとき加賀の攻撃機が撮影した「真珠湾に浮かぶ米艦隊」の写真が掲載されている。攻撃を受ける前のネバダ、ベスタル、アリゾナ、ウエストバージニアなどがわかる。

この直後第 1 次攻撃隊は、米戦艦と地上の軍事施設めがけて殺到した。午前 3 時 22 分、淵田中佐機から「トラトラトラ」という暗号が打電された。「ワレ奇襲に成功セリ」という意味である。この日はアメリカは 12 月 7 日の日曜日で、アメリカ軍は完全に不意をつかれた。

日本の機動部隊による攻撃で、米側の沈没戦艦はアリゾナを含む 4 隻、撃破戦艦 4 隻、巡洋艦 3 隻、飛行機 231 機が破壊され、死傷者は軍人 3,681 名、民間人 103 名にのぼった。戦艦アリゾナは乗組員 1,177 名を艦内に残したまま、いまま海底に沈んで

いる。一方日本側の損害は、飛行機 29 機、特殊潜航艇 5 隻であった。

1945 年 8 月 14 日、日本政府は連合軍に対してポツダム宣言受諾を通告して、降伏した。米戦艦ミズーリは 8 月 29 日東京湾に入った。

いまから 74 年前の 1945 年 9 月 2 日、東京湾に浮かぶミズーリのデッキで、連合軍と日本政府代表

による降伏文書調印式が行われた。連合軍代表はマッカーサー元帥ほか、日本側は政府全権重光葵、大本営全権梅津美治郎参謀総長ほか総勢 11 人であった。

ミズーリは今、真珠湾に係留され、博物館として一般公開されている。ミズーリ右舷デッキには写真と説明板が掲示されているが、緊張して署名する重光たちを、上から下から米水兵たちが注目している。彼らの思いは如何。真珠湾で考えることは多い。



西側のワイメア溪谷は茶色の地層が微妙なグラデーションで水平に重なっています。数百万年の間風雨に曝され、深い谷を刻んで圧倒的な迫力です。これが又数百万年のちミッドウエー辺りまで移動したころには、浸食が更に進み、海面の下の海山になっているかも知れません。

ハワイ島は、ハワイ諸島の南東の端にあり、ホットスポットの上にあります。島全体が溶岩に覆われ、真黒な溶岩の間の滑走路に降ります。ヒロからキラウエアに向かう途中、去年の 5 月に流れ出た溶岩の末端に寄りました。道路が寸断され、迫る溶岩が止まった場所です。焼けた信号機や溶岩の波紋、枕状溶岩など余りにも生々しいものでした。その後キラウエア山のカルデラまでハイキングコースを歩きました。途中何か所も水蒸気の湧き上がる穴があり硫黄臭が微かに漂います。楕円に陥没したカルデラは大きくここからの噴火が想像できないくらいでした。

最高峰のマウナケア山には「聖地を守る戦い」で近づけませんでした。ハワイ諸島の両端の島で、「プレートは動いている」ことを確かめることが出来ました。ありがとうございました。

「プレートは動いている」

豊島千恵子

ハワイ行きの提案にすぐに手を挙げたのは、「今、ホットスポットの真上の島と何百万年か前に移動した島と両方見られる。」と思ったからです。

事前学習でハワイ島から北西方向にミッドウエー島、その先は北に向きを変え天皇海山群と、同じホットスポットで生まれた火山が列を成す。これだけで驚きです。

ハワイ諸島の北西の端にあるカウアイ島は 500 万年以上前にできた島だそうです。島の東側のワイルア滝は深い森の中にあります。湿った空気が、日本を思い出します。

国内山行編



中津川紅葉&鉱石拾い

豊島千恵子

山域山名:秩父市中津川、小倉沢 旧日室
鉱山

期日:2018年10月24日(水)

参加者:L 橋本、八木、並木、栗原、新井勇、
大嶋、高橋武、瀧澤、黒澤、豊島、赤坂

行動記録:<天候:曇り・晴れ>熊谷南口
7:30=黒谷セブンイレブン 8:45/9:00=相原
橋 10:15→仏石山トンネル出口 10:45→相
原橋 11:15=出合登山口 11:20/12:15 北
側の河原 12:15/12:30 → 山鳥 隧道
13:00/13:40→出合 14:10/14:15=森林科
学館 14:20/15:00 解散

黒谷のセブンイレブンに集合する頃には
雨は上がり陽が射してくる。リーダーから今
日の行動説明を受け出発。10分ほど走ると
左に裾野を雲に囲まれた武甲山のシルエット
が見えている。10:15 立派なトイレ付きの
相原橋バス停に到着。中津川を上流に向
かって散策。台風のせいなのか、鮮やかな
紅葉とまでは行かないが落ち葉をサクサク
踏みながら歩く。滝壺の青緑の深い色や、
岩峰途中のスズメバチの巣に驚きながら、
15分ほどで仏石山トンネル。トンネルには入
らず、標高六百九米と書かれた杭の手前を
右に折れ旧道に入る。そこからのんびり歩
いて15分トンネルの出口に当たり引き返す。
本道に出て少し歩いた道路下の壁から、た
わわに実を付けたウリハダカエデが何本も
立ち上がっている。

相原橋に戻り、車で出合まで移動。出合
から神流川沿いの道路はトンネルの落盤で
車両通行止めになっている。

中津川の川原に降りて、昼食。食べ終わ
ると川原ですぐに石観察。真っ白な石は大
理石。こんなにごろごろ沢山あるもの? 早
速割ってみると綺麗に割れる。みんな、足場
の悪い川原を嬉々として石探し。鉄鉱石発
見。小さくてもずっしり重い。当然ながら、
磁石がピツタリくっ付く。12:15 お昼休み終
了。出会のトンネルを潜って神流川の河原
に降りる。このトンネルも大理石を削り貫い
て造ったようだ。河原は、大理石の岩盤が
帯状に延びている。鉄鉱石、黄鉄鉱…ハン
マーで上手く割れると綺麗な結晶が出てく
る。

15分ほどで、出合トンネルに戻り、工事
車両の走る道を神流川上流に向かって歩く。
眼下の河原は、帯状に大理石の岩盤が続
き、割れて丸くなった大理石もごろごろして
いる。桂の葉の甘い香りや、クマシデの大き
な実の房を楽しみながら、後山隧道、八瀬
隧道を通過して山鳥隧道に到着。隧道手前を
右に折れて、河原に降りる。ガーネット(ガイ
ドブックにある黄色石榴石)を探す? そう
容易くはなさそうだ。どんな石を叩けばよい
か外見が判らない。しかし、岩壁には少しづ
つ色々な鉱物の結晶が見えている。ともか
くいろいろ叩いてみる。なかなか具体的収
穫にはならないが、みんな面白くて止めら
れない。「崖に黄色のザクロ石」を呪文のよ
うに言いながら… そろそろ根気が切れて
きた頃、「戻りましょう」の声。川原から滑り
そうな坂を上りきって、初めて見るホコリタ
ケにびっくり。行きには気付かなかった道端
のお地藏さんに手を合わせ、出合に戻る。
通行止めの看板の前で記念撮影後、森林

科学館へ向かって出発。

最後に休憩を兼ねて館内を一回り。会計も済ませて解散。充実の一日でした。

武尊山

三島智睦

山域山名:武尊山(群馬県)

期日:2018年10月28日(日)

参加者:L三島、新井(浩)、木村、谷口

行動記録: 深谷(5:00)→裏見ノ滝駐車場(7:00)→手小屋沢避難小屋(9:10)→武尊山頂(11:00)→剣ヶ峰(13:10)→裏見ノ滝駐車場(16:00)

春に計画した山行が例年より早い梅雨入りのため流れてしまったので、秋に再計画した。今回も前日までは天候が不安視されたが、当日は秋晴れの山行日和となった。

7時頃裏見ノ滝の駐車場に到着、春の計画時にもここまでは来たが雨だった。その時は自分たち以外は1台も車がいなかったが、今日は紅葉の時期も重なったためかほぼ満車状態であった。

準備を整え林道を歩いていく。紅葉は駐車場から登りはじめのあたりが一番きれいであった。剣ヶ峰分岐から山道に入っていく。1時間ほど上がると稜線に出る。稜線を挟んで反対側に避難小屋がある。トタン板でできたシンプルな避難小屋に見え、中はどんなか見てみたかったが、少し下まで降りないといけないうので断念した。鎖場を越えどンドンと高度を上げていくと段々と展望が得られるようになってくる。至仏、平ヶ岳、浅間、谷川、燧ヶ岳。展望を楽しみつつ高度を上げていくと一等三角点がある武尊

山頂に到着。山頂では青天の下 360 度の展望が得られる。それまで見られなかった日光白根、皇海山、赤城山が見られる。駐車場の混み具合を反映し山頂にもたくさんの人がいたため、山頂から少し下ったところで昼食をとる。ゆっくりと昼食休憩をとった後剣ヶ峰に向かって出発し 1 時間で到着。武尊山頂と同様 360 度の展望が得られた。展望を堪能したのち下山。高度を下げていくと再び紅葉が見られるようになってくる。低いところでは紅葉、高いところでは展望を味わえる登山となった。剣ヶ峰分岐を通過して武尊山周遊を果たし、少し下って駐車場に到着。着いたのは 16 時ぐらいです。日も傾き、夕日と紅葉が相まって午前中よりさらに美しくなっていた。

地図読み山行

越生オリエンテーリング

横尾明彦

山域:埼玉県越生町 パーマネントオリエンテーリングコース

期日:2018年11月11日(日)

参加者:(A班)L新井浩、駒崎、谷口、横尾
(B班)L木村、軽石、高橋武、三島
(C班)L浅見、山口、花森

行動記録: 熊谷駅南口 8:30 = 越生ニューサンピア 9:20 ※コンパスの使い方練習 9:30-10:00

<オリエンテーリング> A班の行動記録

(スタート)越生ニューサンピア 10:10→ポスト1 10:30→ポスト2 10:45→ポスト3 弘法山 11:15/11:30→ポスト4 越生梅林 12:00→ポスト5(昼食)12:10/12:40→ポスト6 12:50→ポスト7 13:05→ポスト8

13:20 → (ゴール) 越生ニューサンピア
13:30

9:30 越生ニューサンピア前に全員集合。まずは新井リーダーから7月例会で習った地図の見方とコンパスの使い方のおさらい。初めは苦戦していたが、全員何とか使えるようになったのを確認してオリエンテーリングスタート。10時から5分おきにC班、B班、A班の順にニューサンピア前をスタート。8ヶ所のポストを回って14時までにニューサンピア前に戻ってくるようになった。コース距離6.8kmなので「順調に行けば2時間程度で回れるかな」と楽勝気分で出発。

ポスト1はニューサンピア正面左手のテニスコートの向こうにある小高い丘の中腹にある。最初の目標は、テニスコートの奥にあるゴルフ練習場の脇に定めコンパスを合わせる。テニスコートの脇を通り、階段を上って山の中に入った。最初の目標に到着し、次はそこから西へ100mほどの東屋を目標にコンパスを合わせる。ほどなく東屋に到着し、次はいよいよポスト1にコンパスを合わせて分岐の道を間違えないように慎重に地図を確認しながら進む。地図のルートに従いポスト1到着。ポスト記号は「J」。

次のポスト2はここから北東に下ったコル状の場所にある。ここからは出来るだけ最短距離を進むことになり、一旦コースを外れて山頂部を経由しそこから一気にポスト2に向かうことになった。しかし、ランニングシューズを履いて来たため枯枝や木の根っこに足を捕られて歩き辛い。ポスト2(ポスト記号「W」)を過ぎたところで先発のB班に追いついた。ポスト3は、ここから南東に越生中学校を挟んだ弘法山の山頂にある。そこから先は倒木や藪が張り出し、とてもパ

ーマネントコースとは思えない道。B班と別れ、谷口藪漕ぎ隊長の後に続いて藪の中を進む。この方向で良いのだろうかとか少々不安になりながら進むうち時刻は11時に。1時間でまだ2個のポストしか通過できていない。この調子だと2時間で回るどころか、14時までに8ヶ所全部を回るのも難しい。やがて前方が開けて越生中学校が見え進路を間違えていなかったことに一安心。ようやく山頂の諏訪神社に到着しポスト3確認(ポスト記号「U」)。追い抜いたと思っていたB班が先に休憩しており、思った以上に藪漕ぎに時間がかかったようだ。登ってきた山道とは反対側に正面の石段があり、そこから越生の町が良く見えた。

小休止の後、ポスト4の越生梅林に向け出発。麓まで降り、紅葉し始めた周辺の山々を眺めながら車道を20分ほど進む。越生梅林は、民家の裏側の畑のような場所で想像していたより小さく、梅林の間にひっそりとポスト4が佇んでいた(ポスト記号「D」)。次のポスト5は、越生梅林から北西の集落を抜けた山の登り口にある。ここから先は、比較的分かりやすい道が続く。ポスト5(ポスト記号「W」)は、ちょうど見晴らしの良い広場のような場所で、先に着いていたB班の横で我々も昼食を取ることにした。昼食後、ポスト6に向け出発。地図上で



は、ここから西北西にほぼ直線に登山道を登ることになる。10分ほどでポスト6に到着(ポスト記号「T」)。次のポスト7はここから東北東に麓まで降りた越生川の支流を越えた辺りにある。少し戻って二股を来た道とは違う方へ降りて行くと5分ほどで麓の集落が見えてきて、舗装道路に出た。歩いているうちに13時。何とか14時までにゴールできそうだ。川沿いから民家の間の道を登って行くとポスト7発見(ポスト記号「N」)。最後のポスト8はニューサンピアの裏手北西にある。集落の間を縫ってゴルフ場へと向かう道を進む。途中、鮮やかに黄色く色付いた銀杏並木を過ぎる。その先は地図に従いゴルフ場とは反対方向に車道を進み、ニューサンピアの裏手に回り込むように遊歩道に入り、少し行くと最後のポスト8があった(ポスト記号「K」)。遊歩道から舗装道路に出てニューサンピア正面玄関に向かい敷地内をショートカットするつもりが、却って行き止まりに迷い込んで余計な時間を費やした。そして、13:30ようやくゴールに辿り着いた。すでにC班は到着済みで、B班もほどなく到着し全員無事に時間内にゴールすることが出来た。

今回のようにじっくりと地図を見ながらの行動は久しぶりだった。自分の進む方向を間違えないためのコンパスの使い方、地形の読み方、歩行時間の想定など、更に習熟が必要だと分かった。

伊豆ヶ岳・子ノ権現

黒澤孝

山域山名:奥武蔵伊豆ヶ岳

期日:2018年11月17日(土)

参加者:L相澤 渡辺 須藤 石川 黒澤
行動記録:(天候:晴れ)熊谷駅南口 6:30=正丸駅 P7:50/8:15→伊豆ヶ岳登山口 8:40→五輪山 9:35/9:40→伊豆ヶ岳山頂 10:00/10:15→古御岳 10:30/10:35→高畑山 11:15/11:40→中の沢の頭 12:00→天目指峠 12:25/12:30→子の権現 13:20/13:35→小床 14:15→国道 14:25→西吾野駅 14:35/14:44=正丸駅 15:00(解散)

石川さんと黒澤は正丸駅に現地集合だったが、偶然にも全員7時50分にほぼ同時到着。駐車場はほぼ満杯の状況だったが我々の3台は駐車することができた。ゆっくりと身支度し予定の8時15分出発。駅前広場から階段を降り車道を伊豆ヶ岳登山口に歩き始める。車道は行き止まりで人家も少なく行き交う車は1台もなし。10分程歩いたところでお休み処「中丸屋」が店開きの最中。店の敷地にクマガイソウが植えてあるとの店の人の話。ここから15分進んで伊豆ヶ岳の登山口。そのまま車道を進むと正丸峠への道。伊豆ヶ岳に向かう登山道は杉林の沢沿いの道。15分程進むと名栗げんきプラザへの道が右に分岐。沢が小さくなり頭上が明るくなってきて尾根が近くなったのがわかる。尾根が近づくとつれ道はかなりの急勾配になってきた。滑りやすく気をつけないと足が取られる。

尾根に出て右手に向かって歩く。展望が開け丸山や武甲山が見える。尾根道を少し進んだところで五輪山に到着。右手より正丸峠からの道が合流。小休憩。天気は良く日差しもあるのだが空気が冷たく少しの休憩でも体が冷えてきた。五輪山から数分進んだところで男坂の登り口に着いたが崩壊で立入禁止。女坂への道をとるが間もなく

女坂も崩壊で立入禁止。男坂と女坂の間にできた新しい道で山頂に向かう。

山頂に着いて 15 分間の中休憩。山頂からは急な路を下ったところで山伏峠からの路が合流。次の古御岳には 15 分で到着。古御岳からはアップダウンの続く尾根路。左手に高山不動の赤い屋根が見えた。40 分ほどで高畑山に到着。ここで昼食。ここを出て少し歩くと周りの木々が取り払われて架線のない高圧線の鉄塔。架線はこれから引くのかと思いきや鉄柱は錆びていて取り壊しの途中の様子。この先中ノ沢ノ頭を過ぎて下ったところが車道の通っている天目指峠。ここからは急勾配の階段道。子の権現の特徴ある尖った峰が見え暫く進むと竹寺からの道に合流。5 分程進んで子の権現に到着。参拝し写真を撮って中休憩。下山路は最初車道で疲れた足にはきつかったが 10 分程下がったところで山道に入り小床の集落まで下る。ここからはまた舗装路になったが 20 分ほどで西吾野駅に到着。列車が予定の 1 本前に乗れ 30 分ほど早く正丸駅に到着。15 時解散。お疲れ様でした。

不老山～権現山

谷口武道

山域山名:山梨県 不老山(839.4m)雨降山(1177m)権現山(1311.9m)

期日:2018年11月17日(土)

参加者:L 駒崎、新井、谷口

行動記録:<天候:晴れ>

東松山(5:30)⇒元甲東小学校(7:00/7:30)
→不老山登山口(8:00)→不老山(9:00)→
高指山(9:30)→ゴウド山(10:00)→雨降山
(11:00)→権現山(11:40/12:40)→高指山

(14:00)→和見峠(15:00)→瀬淵山(15:20)
→元甲東小学校(16:00)

5:30 東松山に集合し、車で東松山より権現山に向かう。関越道→圏央道→中央道と乗り継ぎ、中央道上野原 IC で降り権現山に向かう。駐車する所は元の甲東小学校校庭が開放されておりトイレもある。しかし、不老山登山口まで少し距離がある。登山口はお墓の横にあり、入り口の表示は少し腐りかけて見づらく、台風のせいか道も解りづらい。

登り始め急登が続く。途中、祠があり休憩できる。西南側に富士山がよく見え(時期的に葉が落ちていたのでとてもよく見えた)急登が続く。登っていくと、不老山山頂に着く。こちらからも富士山と談合坂 SA がとてもよく見えた。アップダウンを繰り返し高指山に着く。高指山は、展望がないがベンチがあり座り休憩ができる。少し休憩しゴウド山へ向かう。ゴウド山の山頂は登山道より少し外れていて、マジックでゴウド山と書かれている木の板が吊るしてあるだけで解りづらい。雨降山は途中近道と書かれている看板があり、そちらに進むが急登で少し大変。電波塔前から富士山が見えるが、夏場は木が茂っており難しいかもしれない。道が少し外れたせいもあるが山頂の看板は電波塔があるせいかピークから少しずれているような気がする。ここからは稜線となりアップダウンは少なくなった。進んでいくと和見分岐があり、権現山に進んで行くとマウンテンバイクに乗っている人がいた。この稜線をマウンテンバイクで走っているらしい。「ここまで自転車で登ったのですか?」と聞くと「それは、出来ません」と言っていました。

すぐに大ムレ権現に着き軽く手を合わせ、権現山山頂までの最後の急登へ挑む。山

頂は、とても展望良く雲取山・甲武信岳、富士山もとてもよく見える。休憩を1時間とり、下山する。高指山まで一気に戻り休憩し、そこより和見峠に向かう。和見峠で分岐になるがとても解りづらく、進路が合っているか確認しながら進む。台風のせいであろう、大木が何十本も倒れており行く手を阻む。道も倒木の為まっすぐ進めず不安の募る中、



無事道が合っていることを確認。瀬淵山は、パラグライダーの離陸するところのようで車が通れるようになっているが頂上までものすごい急登になっている。大変な思いをし登りきると、パラグライダーの離陸するところということもあり、ピークは展望が良い。ピークには、祠があり近くにはリンドウが美しく咲いていた。また道が不明確で進んで行くと急登の前の道に戻ってしまった。道が続いていそうだったので、目標の道へ進んでみる。倒木を潜り抜け、何とか舗装された道へ到着。この道を進むと横にそれる道があった。迷子になったばかりなのに・・・「ここ行っても帰れそう」ということで地図に無き道を進むと目の前に元甲東小学校があった。時期的なものもあるのだろうが、いろいろな場所から富士山も美しく見えて、迷子？倒木？とても楽しい冒険のある山行になりました。

観音山～総会記念ハイク

谷口武道

山域山名:埼玉県小鹿野町観音山(698m)

期日:2018年12月9日(日)

参加者:CL高橋仁、SL新井浩、新井勇、八木、栗原、大嶋、高橋武、滝沢、相澤、橋本、豊島、横尾、花森、三島、木村、黒沢、軽石、駒崎、浅見、栃原、齋藤、谷口 22名

行動記録:12/9(日)<天気曇り>



ホテルユニオンヴェール(8:45)⇒観音院駐車場(9:15)→牛首峠(9:40)→日尾城跡(9:50)→日尾城分岐(10:00)→牛首峠分岐(10:25)→観音山山頂(10:55/11:15)→牛首峠分岐(11:30)→東奥の院見晴し台(11:40/11:50)→観音院(11:50/12:30)→観音院駐車場(12:40)

朝は、少し肌寒く雲が少し出ている状態で、武甲山や両神山がよく見える。ホテルユニオンヴェールの前で皆で集合写真を撮り、8:45 出発になった。観音院駐車場に着きAチーム、Bチームとも出発。Aチームは直接観音院、観音山へ向かうルート。Bチームは、牛首峠を経由して観音山へのルート。Bチームは、沢沿いを進んで行く。苔の生えた大きな岩などを横目に進んで行き、牛首峠へ到着。牛首峠では休憩したが、この日は

寒波が来ており寒くすぐに出発。そして、すぐに日尾城跡に着き、散策後観音山を目指す。時期的に紅葉が終わり、山道は落ち葉が多く滑りやすい。日尾城跡より観音山へ途中には、鎖場もあり中々面白い登山道になっていた。トラバースの時などは、特に落ち葉で見えない道の注意が必要だ。観音山の山頂では、合角ダムが見え、広くは無いが展望は良かった。

すでに到着していた A チームと合流して、山頂で記念写真を撮った。A チームは先に出発。B チームは山座同定でしばらく盛り上がる。来た道に戻り観音院を目指す。途中は階段ができており整備されているが、1段1段が高く感じた。途中、東奥の院見晴し台に着く。香塚(芭蕉の句碑)が飾ってあったり、矢抜け穴(畠山重忠の家臣本田親常が1km先の穴に矢を通した)などの伝説などが看板に書かれていたりした。



下に降るときにも句碑が階段横に置かれている、その先には観音院が見える。観音院には、A チームも居て合流集合し、昼食をとる。西奥の院は崖崩れのため散策できなかったが、東奥の院より遠目に沢山の地蔵を見ることができた。観音院にも聖浄の滝や弘法大師が爪で掘ったとされる仏像が壁に並んでいるものなどがあり、流石秩父札所 31 番観音院と思われた。食事も終わり

下りの階段にも句碑が並べられておりそれを見ながら下った。そして出口には、仁王尊が出迎えてくれた。多い人数であったが、楽しくまとまった山行となった。

比企丘陵 地質見学ハイキング

高橋武子

場所:滑川町二ノ宮山周辺と東松山市岩殿丘陵

期日:2018年12月18日(火)

参加者:L 橋本 SL 滝澤 新井勇 大嶋 赤坂 山口 軽石 栗原 高橋武 渡辺 豊島(11人)

行動記録:熊谷 8:00=滑川町新沼駐車場 8:50-砂岩泥岩地層見学-森林霊園凝灰岩地層見学 10:00/10:20-凝灰岩地層見学-二ノ宮山頂上(昼食)11:05/12:05-新沼駐車場 12:20=東松山市物見山駐車場 13:00-岩殿観音-物見山-地球観測センター-物見山駐車場 15:20=熊谷 16:00

快晴、おだやかでハイキング日和なので、地球観測センターまで足を延ばすことにする。まずは新沼から、おおむらさきゴルフ倶楽部の門の前を通る道を、地層を見学しながら進む。泥岩や砂岩の層が見られる。砂粒は0.06~2mm、泥粒は0.06mmより小さいとのこと、岩をよく見ると粗さに差があるものの、少しずつの差で、どこから砂岩か迷う。堆積した時の水流のちょっとした加減か。丘陵地帯を抜けると、水田地帯。庚申塔など所々にあり、のんびりと森林霊園を目指す。森林霊園は福田石と呼ばれる凝灰岩の石切り場の跡を利用して作られたとのこと、

採掘当時の切り出し面がそのまま残っていた。この岩石は約 1600 万年前の火山噴火でできたとのこと。二ノ宮山への道すがら凝灰岩地層を見ながら進む。二ノ宮山は展望抜群、東京のビル群やスカイツリー、日光連山から赤城、榛名へと、そして後方には上越国境の山々が白銀に光る。熊谷市街も確認する。ここで昼食とする。その後山を下り車で移動する。東松山市高坂の駅付近を西に曲がり丘陵地を登りきった P で車を下りる。車道を 100m ほど戻り谷に下りると岩殿観音がある。岩殿観音正法寺は坂東札所 10 番で落ち着いた雰囲気の大らかな寺、観音堂の後ろは高い崖になっています。この地層は約 1300 万年前の海にたまった地層とのことですが、石仏などが置かれ柵がしてあり近寄れず、触れることはできませんでした。岩殿観音の隣の物見山に登ると大きな丸い礫がごろごろしている。約 200 万年前、川によって運ばれたと考えられているとのこと。地球観測センターへは雑木林の中、落ち葉をかきこそ踏みながら時々露岩を観察しつつ進む。テーダマツという大きな松が植えられていた。葉は長く 3 本、マッカーサーも大きい。アメリカ原産とのこと。地球観測センターでは展示室を見せていただき興味深かったです。楽しい 1 日でした。有難うございました。

八ヶ岳硫黄岳

新井浩二 三島智睦

山域山名:八ヶ岳 硫黄岳 2,760m

期日:2018 年 12 月 22 日(土)23 日(日)

山行形態:積雪期小屋泊

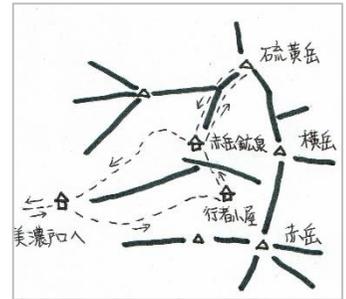
参加者:CL 木村 SL 新井浩 駒崎 三島

行動記録:

12 月 22 日(土)<天候:曇り>

東松山(5:00)=美濃戸口(7:50/8:40)→美濃戸山荘(10:05)→行者小屋(12:50/13:35)→中山展望台(14:05)→赤岳鉱泉(14:45)

小淵沢 IC から美濃戸口までは雪なし。駐車場にはうっすらと雪がある程度。数組の登山グル



ープがおり、サンタクロースの赤い帽子を頭に載せている若者のグループが準備している。美濃戸山荘への道は、雪が解けて凍っているところがあり、通る車はチェーンを巻いている。滑って転ばないようにペンギン歩きで進み、美濃戸山荘手前で休憩。曇っているが暖かで、凍っている氷柱から水滴が落ちている。美濃山荘先から南沢の登山道へ入る。積雪は 10-20cm 程度で、アイゼンは付けずに歩く。砂の上を歩くようで踏ん張った足が滑る感じで歩きにくい。冬装備の詰まったザックも重く、思うように足が進まない。途中で中間着のフリースを脱ぐが汗ばむほどの暖かさだ。雪が解けてぐちゃぐちゃな歩きにくい個所が多く右へ左へ避けながら歩く。時折小雨っぽい雪がちらつく。やっとの思いで行者小屋に着く。雲間に赤岳などの主稜線が見える。到着時刻は遅れており、このまま主稜線



に立つ赤岳天望荘へは、到着が遅くなるだろうとのことで、方針変更して、赤岳鉱泉泊の硫黄岳へと変更する。昼休憩後、アイゼンを付けて山中展望台へ移動し、宿の変更連絡をする。展望台からは八ヶ岳の雄姿が一望。天気も回復しつつあるようだ。ここから赤岳鉱泉へは基本下りなので楽だ。あっという間に赤岳鉱泉に付く。小屋周りにはテントが張られにぎやか。にぎわう小屋に入り、受付をして部屋へ。宿代は9,000円+個室代1,000円。ちょっと高いが、4人でのんびり出来て部屋には炬燵があり個室で正解でした。豪華な夕食を食べ、部屋でごろごろ。温泉があれば最高なのだが。

12月23日(日)<天候:曇り>

赤岳鉱泉(7:20)→硫黄岳(9:00)→赤岳鉱泉(10:30)→美濃戸山荘(12:40)→駐車場(13:40)

朝食を食べに食堂へ。鮭の切り身、サラダ、納豆、のり、漬物、味噌汁。地上の宿泊施設では可もなく不可もなくだが、山小屋の食事としては大満足。支度を整え7時20分出発。最初からアイゼン装着。昨日と違い道はよく凍っているのでアイゼンがよく効く。それなりの登りで息を切らせて登っていくと森林限界辺りへ。防寒装備を整え頂上へ。頂上付近は真っ白&強風でとても登頂を喜んでいる暇はなく、記念写真を撮ってすぐに退散。少し下山すると風も弱まり一息つけた。小説に出てくるような厳しい風雪を経験でき、すぐに安全地帯まで待避できる今回は冬山体験にはうってつけだった。そのせいか荒天の山頂にたくさんの方がいた。今回のアウターは雨具で代用した。山頂には数分の滞在だったのでこの装備でも問題なかったが、今回の経験をもとに装備



などを見直し冬山のレベルアップを図りたい。その後黙々と下山しほぼ夏山のCTで赤岳鉱泉に到着。昨日は長めに見積もったCTより遅くなり、今日は夏山のCTとほぼ同タイム。CT読みは本当に難しい。帰りは往路と違う北沢沿いで下る。だんだんと雪が少なくなるが凍結していたりいかなかったりでなかなかアイゼンを外すタイミングが難しい。もういいだろうというところでアイゼンを外しどんどん下って北沢と南沢をわける分岐点へ。そこの山荘で少し休憩しスタートの駐車場まで下る。帰りは近くの温泉に入り帰路に着いた。

浅間尾根 陽だまりハイク

高橋仁

山域山名:東京都桧原村・浅間嶺(903m)

期日:2019年1月18日(金)

参加者:L 高橋仁 軽石 高橋武 山口 齊藤

行動記録:熊谷駅南口 6:30=弘沢の滝駐車場 8:40/55→滝入口バス停 9:28=人里 9:50→人里峠 11:10→浅間嶺(昼食) 11:40/12:30→時坂茶屋 13:35→時坂峠 13:50→駐車場 14:30→弘沢の滝 14:50→駐車場 15:30=往路を戻る=熊谷 17:00



弘沢の滝に駐車して、バスで人里(へんぼり)峠登山口へ移動する。バス停の上の神社広場で、地元の人々が竹の櫓を組んでいる。周りに檜の枝も積んである。明日(土曜)の夜の塞ノ神(どんど焼き)の準備だろう。新潟の田舎で、どんど焼きをやったことがある。竹の芯を組んで、周りに杉やヒノキの枝や柴を組み込んで、稲わらを巻き付けて、暗くなったら火をつける。炎に包まれた竹が破裂して、パン！パン！パン！と鳴り響く。切り餅を入れて焼いたり、書初めの紙を入れて、燃えながら天高く舞い上がれば書が上達すると言われた。雪深い田舎の旧小正月の楽しみでもあった。

コンクリートの急坂を登り、最後の民家の脇から登山道に入る。未舗装の林道と交差しながら登ると無人の一軒家「憩の荘・大野荘」がある。二年前に「ポツンと一軒家」というテレビ番組で紹介されたという張り紙がある。日当たりが良く庭からは眼下の檜原街道と笹尾根の眺めが素晴らしい。

杉の植林を登り人里峠に到着する。雪はまったく無く、スノーハイクの予定が陽だまりハイクになった。ここから尾根を歩いて浅間嶺のピークに到着するが、特に何も無い。そのまま進んで休憩所を下る。東屋やベンチはあるが展望はイマイチ。少し上に登って「浅間嶺」の標柱がある展望台で昼食にする。



ここからは真っ白な富士山が正面にどっしりと構えて、御正体山、大室山、蛭ヶ岳など道志・丹沢山塊が近い。手前には三頭山から陣馬山へと伸びる長大な笹尾根が、大小のアップダウンを見せている。反対側に目を転じれば、大岳、鋸岳、御前山、三頭山の山並みと、奥には鷹ノ巣山から奥秩父の稜線が続いている。新しく立派なテーブルとベンチで湯を沸かしてゆったりと昼食タイム。晴れ渡り、風もなく、最高の陽だまりハイクとなった。

落ち葉の積もる尾根道を、大岳、御前山を左に見ながら時坂峠へと下る。尾根から沢へと下ると一軒家があり「そば処みちこ」の「昨年11月に閉店しました」という張り紙がある。昔の荷継場だった場所で、裏手には「お代官休息所」という古い立派な建物が残っている。

少し先に峠の茶屋があり、ここから林道を時坂峠に進み、登山道と林道を何度も交差しながら下って、弘沢の滝駐車場に着いた。先週凍りかけた滝はもう解けていた。滝つぼの澄んだ水がきれいだ。人工の氷のオブジェを見て帰る。

後生掛温泉 ～山スキー&ハイク

橋本義彦

山域山名:秋田県後生掛温泉周辺山毛森、
八幡平

期日:2019年1月20日～22日

参加者:L石川 大嶋 瀧澤 豊島 橋本

行動記録:

20日 <曇り、現地雪>

熊谷駅 6:37=新幹線・大宮駅乗換=盛岡駅
8:45=車=後生掛温泉 11:50/13:00－八幡
平スキー場滑走 13:30/15:00－後生掛温
泉 15:30 同所泊

初日 20日は新幹線を乗り継ぎ、盛岡駅からレンタカーで後生掛温泉に移動した。温泉での昼食後、近くの八幡平スキー場で足慣らしをする。雪が降る中、リフト1本のスキー場、合計でも数人がスキー、ボードで滑る。いつからスキー熱が冷めてしまったのか。新雪がスキー場でも20cm位あり、パウダーで雪質は良く練習になった。一滑り後のリフトは毎回寒かった。早々に切り上げて温泉につかった。

21日 <雪>

後生掛温泉 8:45－自然探勝路小屋北
9:30－蒸の湯休憩所 12:15/12:30→自然
探勝路小屋北 13:40－後生掛温泉 13:55
同所泊

2日目 21日は、9時前に温泉を出発、南方向、谷の右岸を進む。新雪が深い。沢に突き当たったら東に方向を変えるつもりで進む。しかし、探勝路の小屋が見えた場所は沢、崖があり進めない。少し引き返して東方向に進む。ブナなどの広葉樹林で明るい雪は降り続け、時に風も出て、吹雪く。静寂の森に私達4人しか居ない。音も無い。

ラッセルはほぼ平坦なのに疲れる。新雪が1m位積もっている感じだ。スキーのトップを雪上に出すのも大変だ。数百m進んでラッセル交代。後に行く。固められた雪面が本当に楽だと感じる。溝の深さは50cmほどあ



る。小さな沢がありTさんがはまってしまった。新雪が深い。そして大深温泉を目指して尾根を登る。汗が出る。そして、車道に出た。だがそこは樹林と同じ新雪1mでラッセルの苦労は続く。数百m進んで蒸ノ湯休憩所に到着。2mの雪壁があり、回り込んで建物とその壁の風の無いところで小休憩をとる。12時をまわっており、ここで小休憩をして下ることにする。来た道を引き返し、途中でシールを外し、パウダーの中を滑走する。気持ちいい。百mほど滑って終わり。そこからは、ほぼ平坦なのでシールを着けトレースを歩く。自然探勝路に戻ると沢の反対側も見え、白黒の墨絵のようだ。そして温泉の建物が見え、山スキーは終わった。

22日 <現地雪、晴れ>

後生掛温泉 9:00－山毛森西ピーク 10:25
→後生掛温泉 11:00/12:10=車=盛岡市内
観光=盛岡駅 17:50=新幹線・大宮駅乗換=
熊谷駅 20:14

22日は山毛森に登る。時間も限られていることから八幡平スキー場横にショートカットで向かう。しかし、予想以上の深雪であり、



地図では分かりにくい小沢が 2 本あった。2m ほどでも越えるのが大変だった。汗をかきかき、スキー場横に着き、平行して標高を上げる。時間がかかったので山毛森手前の坂が緩くなった尾根でシールを外す。滑降開始。ブナなどの明るい林の中を滑る。柔らかい雪は気持ちが良い。途中からスキー場に滑り込み、ターンを繰り返すと本日の山スキーが終わった。

平標山ヤカイ沢 山スキー

谷口武道

山域山名:平標山(新潟県)

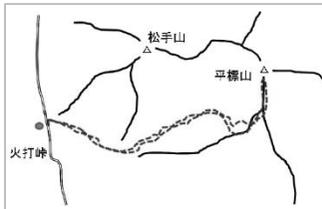
期日:2019年1月20日(日)

参加者:CL 新井浩、SL 浅見、駒崎、花森、谷口、林

行動記録:熊谷 5:30⇒火打峠 7:40/8:15→稜線 11:15→平標山 12:20/13:00→ヤカイ沢滑走→火打峠 P14:15

<天気晴れ時々曇り>

朝 5:30 に集合し、いつものコンビニに寄り花園 IC より出発。駒寄で



少し渋滞に掛かりながら、谷川 PA で休憩し湯沢 IC で降り、神楽方面へ行くも雪は少なく道は良い。去年停めた駐車場は雪でク

ローズしていた。トイレもない火打峠トンネル前の登山口に車を停める。7:40 頃だったがもう駐車場は 10 台ほどいてほぼ満杯状態。何とか 2 台停めることが出来たが、到着はもう少し早い方が良いかもしれない。

着替えを済ませ出発。別荘地を歩いてヤカイ沢に着く。1 年振りに来る平標は、去年と違い雪が多い。トレースがあったので随分楽だったが、一人スノーシューの自分は雪が行く手を阻む。スキーの人たちはスイスイと登って行く。休憩を入れ、スノーシューの自分に気を遣ってもらいながら、雪山に登りながら進んでいく。途中は、晴れたり、曇ったりで、苗場や神楽のスキー場が見える。平標は風が強いことが多く頂上までは、なかなか登れることはないらしいが、今回は頂上まで行けた。シーズン初の山スキーだったせいか、頂上近くでは足が上がらないくらいに、なってしまう、足が止まっていた。頂上は、壁になるところがなく、風が強くと上には行けないと言われた意味がよくわかる。頂上では、陽が軽く射すぐらいで、とても良い状態。代わりに展望は良くなる残念だったが、風で雪が作りあげた芸術があった。

頂上で軽く昼食を取り、皆で写真を撮り、待ちに待った滑降になる。頂上より気持ちよく滑り下りる。稜線は風に飛ばされ雪は少なくアイス気味だったが少し滑ると膝まで埋



まるようなパウダーとなった。雪が良く、調子に乗ってスピードを出していると樹の枝にぶつかることが数えきれないくらいあったが、何とか下まで滑って降りられた。雪は下の方へ降りていくと少し重くなってきた。ヤカイ沢の平坦な所をスノーボーダーの自分は、ノンストップで進んでいくが平ら過ぎて止まってしまった。スキーヤーの人たちを待たせながら歩いて追いつく。別荘地の道は、圧雪になっていたのでアスファルトの道の上を滑って行き、最後の駐車場の所まで楽しく滑って降りられました。シーズン初めからとても良い天候、雪に恵まれた、山スキーになりました。

氷瀑見学と御堂山

須藤俊彦

山域山名:群馬県南牧村象ヶ滝と下仁田御堂山(879m)

期日:2019年1月30日(水)

参加者:L 橋本 並木 黒沢 斎藤 軽石 渡辺 須藤

行動記録:<晴れ>

熊谷駅南口 6:55=花園 IC=関越、上信越=下仁田 IC=下仁田道の駅 8:10/8:25=滝入口 9:00-象ヶ滝 9:30/9:50-滝入口 10:10=御堂山登山口 10:55/11:05-ジジババ岩分岐鞍部 12:40-ジジババ岩下 12:50/13:20-鞍部 13:30-御堂山 13:55/14:10-鞍部 14:35-御堂山登山口 15:35=下仁田 IC=花園 IC=熊谷駅南口 17:30

前日の大風の寒い日とうって変わって高気圧に覆われる好天気の前、熊谷駅を予定通り出発。途中で斎藤さんと合流し、2台の車は下仁田道の駅に順調に到着。休憩と黒沢さんとの合流を済ませ、長野県境の滝

に向かう。南牧村の中心地を過ぎると山がより迫り所々に民家が固まっている。良い言葉ではないが限界集落という言葉が頭をよぎる。道は益々狭くなり一台がやっと通れる道が続く。分岐の为一寸広がった所に2台を停める。道路を覆う幅が狭くなった残雪が所々にある道を歩き、案内に従って右に折れ半分凍結した南牧川筋を少し歩くとスッと白い氷の帯が張り出した岩の下に現れる。30mの象ヶ滝の表面はほとんど氷結しているが3段であることがわかる。名前の由来は流れ落ちる水形が象の鼻に似ている故とのことですが、氷結しているのだからわからない。うっすらと積もった雪の中の自然に造形された白い氷帯の写真を撮る。ネットで見ると南牧村は滝の里としてここを含めて11滝を紹介している。

御堂山は下仁田町に戻り、254号沿いの藤井入り口近くの空き地に車を止め、西牧関所跡から入ると、すぐに獣除け電気柵が設置されている。針葉樹のなかの広い道をしばらく進むと2股に分かれる。昔はここまで車で入れたとの事。水のないガレ沢を登ると小滝があり、その右側の岩場を注意して登る。林はいつか落葉樹も混じり落ち葉がすごく、落ち込むとなかなかという所がある。左手にババ岩が見えるようになり、やがて鞍部に着く。左に痩せ尾根を少し進み大きな展望岩手前で昼食をとる。尾根筋であっても寒くない。

昼食後ジジババ岩展望台に行き下山する組と御堂山経由で下山する組に分かれ、私たち後者の4人が先に出発。鞍部を経て快調に乾ききった急斜面を登るとやがて木々に覆われた頂上だ。展望はあまり良くない。それでも北に妙義山が、その左に枝越しに白い浅間が大きく見える。南は秩父山塊だ。



写真を撮り、無休で下山。展望台組に 20 分程遅れて駐車場に到着した。滝、御堂山とも我々以外の誰にも会わなかった。

この後、軽石さん馴染みのこんにやく屋さん立ち寄り、各自試食の後、お買い物。おでんくらいしか知らなかったが、色々な商品が並んでいた。私はこんにやく羊羹と黒砂糖入の 2 種類を購入した。帰宅後、食したが美味しかった。

下仁田道の駅で精算し、熊谷駅に川本道の駅経由でほぼ予定時間に到着した。本当に暖かく、また下見までしてくれたリーダーのお蔭でひっそり佇む氷瀑見学と正月ボケの覚醒を効率良く実現でき、感謝の一日でした。

黒姫山 山スキー

新井浩二

山域山名:黒姫山(長野県)

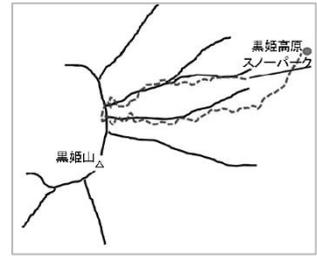
期日:2019年2月3日(日)

参加者:CL 新井浩、SL 浅見、橋本、駒崎、木村、谷口、林

行動記録:熊谷 5:30=黒姫高原スキーパーク 8:00→第2リフト TOP1170m9:15/9:30
→黒姫山外輪山稜線 1980m12:40/13:10
→東尾根滑降→黒姫高原スキーパーク 15:10

<天気:曇り>

黒姫高原スキーパークからは、青空の中、妙高山と黒姫山がバッチリ見



える。いい天気だ。黒姫山の閉鎖ゲレンデもよくわかり、パウダーの期待が膨らむ。リフト券を3枚購入。クワッドリフト(2枚使用)ペアリフトに乗り継いでゲレンデトップへ。閉鎖ゲレンデに取り付いているグループ、準備中も数人いる。我々もシールを付け出発。ありがたくトレースを利用させてもらう。雪はサラサラでなかなかよさそうだ。昨日の例会の学習で習った雪崩のことを思い出し、閉鎖ゲレンデ中央を走るトレースを避け、横の樹林帯の中へラッセル訓練とルート取りの練習を少し。急斜面を過ぎたところでトレースへ再び乗る。休止リフトの TOP にもう少しのところ、H君が調子悪そう。休憩時に聞くとだるく、熱っぽいとのこと。このまま降りて、車で待つことになった。(翌日、インフルエンザ感染の連絡がありました。)

この後はトレースを利用し順調に登行。トレースが北寄りに進んでいるが、ラッセルする気になれずにそのまま登る。やがて稜線に出るが、当初の稜線 2000 地点よりも北



に 400m ほど離れていたもので、尾根直下を南へ進むが、雪庇に阻まれて進むのに難儀する。雪庇の切れ目から尾根に上がったが風が強く寒いので、雪庇切れ目下に戻り本日の最終地点として昼休憩にする。ここから標高差約 600m は適度な斜面が続くのだ。準備をして飛び込む。なかなかいい雪だ。ルートを確認しながら突っ込む。斜度、雪、樹間とも申し分ない。順調に滑降していたが、後続が降りてこない。声をかけると、板が外れ探しているという。流れ止めを付けていなくて、板がなかなか見つからないようだ。20 分ほどかかって無事見つかった。順調に滑降してゆるいところで休憩。ボーダーは板をはずして歩いてきた。この辺りになると雪が重くなってきた。ここからは樹林が濃い。怪我をしないように慎重に滑る。最後の急斜面を降り、渡渉地点を少し誤りちょっと難儀するが、無事スキー場へ戻ってきました。まっすぐ車へ向かう。H 君が出てきた。熱も落ち着いてきたようでよかった。時間も早いので、そのまま熊谷まで直帰。

西吾妻山・西大巔山スキー

石川邦彦

山域山名:西吾妻山、西大巔(福島県)

日程:2019 年 2 月 9 日(土)~2 月 10 日(日)

参加者:CL 新井浩 SL 大島 駒崎 谷口 石川

行動記録:2 月 9 日<天候:曇り時々雪>

熊谷 4:00=8:30 グランデコススキー場→第 4 クワッドリフト終点 09:53→11:32 西大巔 12:05→13:22 ゲレンデ合流→13:38 グランデコ・パノラマゴンドラ山麓駅 13:40 = 宿

へ移動

東北道をひたすら走りグランデコススキー場へ。早速準備をして、ゴンドラとリフトを 1 本



乗り継ぎ 1570m 地点に着く。シールを付け登り始める。アオモリトドマツの樹林帯で、例年なら高度を上げるにしたがって樹氷も様になってくるのだが、数日前の降雨のためか、いまいちである。それでもこの日は、気温も低く雪もちらつく。

樹林を抜け、無木立の斜面を登りきると西大巔に着く。時折、西吾妻山山頂まで見通せる。この日登りはここまでとする。

南西の尾根を目指して滑降開始。所々で立ち止まり、GPS と地形図をチェック。また過去の記憶をたどりながら、2 本ある南西に伸びる尾根の東側の尾根へ入って滑る。ほどなくゲレンデに合流した。



2 月 10 日<天候:雪時々薄日>

宿 8:00=8:40 グランデコススキー場 9:00=第 4 クワッドリフト終点 1570m 10:14—1843m (休憩) 11:15/11:28 — 西大巔

1981m 12:08/12:38→14:25 グランデコ・パノラマゴンドラ山麓駅 1045m =裏磐梯休暇村(入浴)=20:25 熊谷

宿を8時ちょうどに出発。檜原湖沿いの道を進む。全面が結氷した広い湖上には、夥しい数のオレンジ色や赤色をしたワカサギ釣りのテントが見える。その数、千を超えているか。

連休中日のこの日は、前日よりスキー場の人出がやや多い。風の影響もあって減速運転していたゴンドラに30分待ちで乗り込む。第4リフト終点でシールを付け登行の準備をする。7~8人の大学生グループが重装備で同時刻に出発。聞けば、今夜は西吾妻避難小屋に泊まり、吾妻連峰をスキー縦走するとか。他にも、スノーシューの若い女性2人組が我々の直ぐ後から続く。最初はアオモリトドマツの針葉樹林帯の中を登る。冬山を経験するには手軽で人気のある山のせいか、もともとのトレースがしっかり付いていて、少し面白味に欠ける。昨日からの新雪が15cmくらい積もったか。昨日よりましなパウダーへの期待が高まる。

1843mの傾斜が緩くなったところで休憩。その後、西大巔ピークへの尾根を左に巻き気味に進み、無木立の50m四方ほどの斜面の右側を詰めて西大巔山頂に到着する。付近には樹氷が見られたが、例年より痩せているのだろう。視界があまり効かず、西吾妻山や中大巔、天狗岩へかけての樹氷原をはっきりと見渡すことが出来なかった。

昼食を摂り、いよいよ滑降だ。最初に先ほどの無木立の斜面を、パウダースノーを巻き上げながら滑る。下に凍った固い面があるものの、昨日より新雪の積もった分だけ楽しめた。右にトラバース気味に進み、目的の南西尾根を目指す。昨日は、この尾根よ

り1本東側のスキー場よりの尾根を降りた。数日前の暖気を伴う降雨のため、トドマツを覆っていた雪の固い塊がたくさん落ちていて、滑るのに障害になる。また、吹きさらしの所は新雪が飛ばされ固い雪面だったが、おおむね新雪を滑ることが出来た。この日の尾根の方が、比較的広く、1500m付近から明るいブナ林になり快適なツリーランが楽しめる。1400mで尾根の先端から左の谷へ降り、夏道沿いに進み、スキー場に合流した。



養老溪谷・チバニアン地層 見学ハイキング

並木利夫

山域山名:千葉県市原市、大多喜町、養老川近辺、大福山 292m

目的:早春の溪谷歩きを楽しみ、話題の地層を見学する

期日:2019年2月17日(日)~18日(月)

参加者:CL 新井勇 SL 軽石 大嶋 高橋 武 瀧澤 黒澤 橋本 山口 並木 白根 斉藤

行動記録:17日 熊谷 6:30=羽生 IC7:20=蓮田 SA7:35=海ほたる 8:45/9:15=市原鶴舞 IC9:30=鶴乃屋旅館 10:00-中瀬遊歩

道入口 10:15－中瀬キャンプ場－弘文洞跡
10:30－共栄橋－すいせん畑－奥養老バ
ンガロー村 11:10/11:40－白鳥橋 12:30－
旅館 12:35=滝めぐり P12:45－粟又の滝
13:40－P14:20=旅館 14:30

<天気晴れ後曇り>

熊谷を予
定どおり 3
台の車に
分乗して
出発。天気
は風も無く
晴れ。途
中、蓮田
SA と海ほ
たるで休
憩をとり、

市原鶴舞ICを出て、養老温泉へ向かった。
宿に着いたあとすぐに養老溪谷のハイキン
グに出かけた。中瀬遊歩道といい、川の浸
食で地層が削られて両岸が切り立った壁に
なり、その川底に歩道がある。朱塗りの観
音橋や弘文洞跡などを観て、遊歩道を離れ、
山間にある奥養老バンガロー村で昼食をと
った。宿へ戻る途中、時々銃声が聞こえ、大
勢の人達が出て猪退治を行っていた。宿に
着き、すぐに滝めぐりに出かけた。遊歩道入
り口近くの駐車場に車を止め溪谷に下りた。
1時間近く上流に歩いた先に粟又の滝があ
り、いわゆる「養老の滝」とも言われている。
渇水期で水量が少なく、滝の幅の右端を僅
かな水が落ちていた。川原の岩石は礫岩、
砂岩、泥岩で貝化石や丸いウニのような化
石を見つけた人もいた。滝の展望台を経て
駐車場へ戻り、一日の日程が終わった。

18日 旅館 8:00=梅が瀬溪谷入口駐車場
8:10－大福山登山口 9:10－車道東屋



9:55－大福山(白鳥神社) 10:20－駐車場
11:20/11:30= 旅館 11:40= 養老 駅前
12:00=田淵駐車場 12:10－チバニアン地
層見学・昼食 12:20/13:20－駐車場
13:40=市原鶴舞 IC13:40=海ほたる 14:10
/14:40= 蓮田 SA16:10/16:35= 羽生
IC16:50=熊谷 17:30

<天気晴れ>

今朝は風も無く晴れて冷え込み大霜で
ある。車の窓も霜で凍っている。宿を8時に
出発して大福山へ向かう。梅が瀬溪谷入口
の駐車場に行き、そこから歩き始める。溪
谷の底を川沿いに踏み跡をたよりに進む。
所々、白梅、紅梅が咲き、繁みの中にはヤ
ブツバキも咲いている。左右は数十畝の切
り立った崖で、草も生えず薄茶、ベージュ色
などの地層が綺麗に重なっていた。また水
流が柔らかい地層を削り、トンネルを作りそ
こを沢水が流れている場所もあり、奇観で
あった。1時間くらい歩いて大福山の登り口
に出た。この辺りの森は照葉樹林が混じっ
ていて関東北部の山の植生とは異なってい
た。急な登りを40、50分で車道に出て一息
入れた後、白鳥神社へ向かった。神社が大
福の山頂にあって近くに展望台もある。西
を望むと東京湾や海ほたる、東京のビル群
も見えた。下山には車道を下った。養老駅
前の商店で昼食を買い、チバニアンの見学
へ移った。川原に下りる手前で昼食をとり
地層の見学に行った。川原に下りた所、川
の右岸にその露頭があった。約77万年前
の第四紀更新世中期に起こった地磁気逆
転現象の海底堆積物が連続的に堆積した
地層が露頭で容易に見られ、極めて珍しい
との事で国の天然記念物に指定されている。
帰りは往路と同じルートで戻った。

初級冬山 高ボッチ山

黒澤孝 斎藤順

山域山名:中部山域 高ボッチ山

期日:2019年3月9日(土)10日(日)

参加者: L 大嶋、SL 軽石、白根、八木、栗原、山口、黒澤、斎藤、豊島、木村

行動記録:3月9日<天気:快晴>

熊谷駅南口 8:10= 森林公園セブンイレブン 8:25/8:35=談合坂 SA9:50/10:00= 諏訪 IC11:30= 諏訪大社上社本宮 11:40/13:00= 諏訪大社下社秋宮 13:30/13:50= 諏訪大社下社春宮 14:00/14:20= 崖の湯温泉山七旅館 14:55

予定より10分遅れて8時10分熊谷駅南口を出発。高速に乗る前にコンビニで昼食等買い物。高速に乗って1時間ほどで談合坂 SA、ここでトイレ休憩。高速は空いていて快調。天気は快晴。春霞もなく南アルプス、南八ヶ岳、奥秩父の山々がすっきりと見えた。今日の日程には山登りはなく諏訪大社を観光。諏訪インターを降り諏訪大社に向かう。丁字路で左に曲がると上社前宮の案内があったがそちらに行かず右に曲がってまずは上社本宮に向かう。程なく神社の駐車場。東参道の鳥居をくぐって神社境内に入る。諏訪神社といえば4本の御柱。テレビではよく見るが本物を見るのは私にとって初めて。鳥居をくぐったところですが右手に二之御柱。三之御柱は案内看板があったが山の木立の中でよくわからなかった。回廊のような廊下を進み本殿に向かう。本殿では結婚式が行われていて笙の音がなんとも雅な雰囲気を出していた。一之御柱は正面の鳥居を入った左手に立っていた。ここで記念写真。四之御柱は一之御柱から神社をはさんで山の中にあるようで見られ

なかった。神社を出て駐車場すぐ近くの蕎麦屋で昼食。ここから諏訪湖に向かい諏訪湖に突き当たったところから反時計回りに湖岸を走り下社秋宮に向かった。秋宮を20分ほど見学し続いて下社春宮も20分ほど見学。両宮とも本宮に比べ規模が小さいのでそれぞれの4本の御柱をしっかり見ることができた。まだまだ時間は早かったが今夜の宿、崖の湯温泉山七旅館に向かう。塩尻インター前を通り過ぎ温泉方面に向かう道に入ると左手に安曇野をはさんで北アルプスの稜線ずっと見渡せた。午前中に眺めたのと同じく雲に邪魔されることなく素晴らしい眺めでしたが、天気予報は下り坂で明日の天気が心配。宿に着いて後、明日駐車するゲート前まで下見した。(黒澤記)

3月10日<天気晴れ>

山七旅館 8:00=登山口 8:25 出発休憩 9:10/9:20-高ボッチ山山頂 12:20-自然観察館昼食 12:40/13:00-登山口 15:00-山七旅館 15:30=長野道=姥捨 SA=上信越道=横川 SA=関越道=熊谷駅南口 19:30

360度大パノラマ絶景の展望を目指して崖の湯「山七旅館」を八時出発、予報は午前には晴れるとのこと。前日確認した冬季閉鎖のゲート前に駐車、林道は雪も少なくカラマツ樹林帯の中を天気が変わらぬうちにと前のめりの出発、雪上に残るイノシシ、シカ、ノウサギの足跡、自然観察等を楽しみながら頂上へ、標高があがるにつれ残雪の量も増え、ツボ足では歩きづらく展望台駐車場でワカンをつけ山頂へ。いくらか曇っていたものの常念岳、乗鞍岳、奥穂高岳、白馬三山等の美しい峰々、その迫力が素晴らしい。山頂から望むすべての山に登りたいと思う。昼食は閉鎖中の自然観察館ですまし下山した。

蓬沢・山スキー合同訓練

浅見政人

山域山名:上越国境・蓬沢周辺

期日:2019年3月17日(日)

参加者 熊トレ 5名(石川 新井浩 木村 林 浅見) アル熊 4名 秩父消防 2名
合計 11名

行動記録:川本 4:30=土樽・安全登山の広場 P 610m 7:00 集合・準備打ち合わせ 7:45 →蓬沢西俣沢出合 1000m 10:15 →蓬峠南 1568m ピークから西に延びる尾根上 1320m 地点で訓練 12:10/13:45 ~蓬沢西俣沢出合 1000m 14:05 ~蓬沢 900m 地点でビーコン訓練 14:15/16:10 ~土樽・安全登山の広場 P 610m 16:45=川本 20:00

例会で学習した「空間多様性」を実践の場で検証する訓練が蓬沢で行われた。懐かしいメンバーと再会し、山スキーをより安全に楽しむための訓練ができ、有意義な一日となった。

出発前に全員の自己紹介、地図を出して今日の行動の打ち合わせ、準備体操とビーコンチェックがあった。打ち合わせをしっかり行うことで、リーダー任せにしないで一人一人が安全について主体的に考えることができる。



今回の訓練は蓬沢を詰めて、雪質や天候を判断しながらシシゴヤノ頭か蓬峠のどちらかを目指し、途中で訓練をすることとなった。西俣沢出合では雪崩のリスクの少ない高まりの上で打ち合わせを持ち、蓬峠方面を目指して西俣沢右岸の尾根に乗ることを確認した。

西俣沢を 200m ほど登ってから尾根に取り付いたが新雪の下の堅雪に苦労した。

尾根上 1320m の傾斜が緩んだところで昼食と訓練。二人一組で尾根上の違う場所でピットを掘り、雪の状況を観察する。斜面の向きが少しずれるだけで風や陽のあたりかたで雪の状態が違うことを確認する。帰路は同じコースを滑る。途中蓬沢 900m 地点でビーコン搜索訓練、自分たちの練習不足を実感した。

宮田氏からは厳しいアドバイスをたくさんもらったが、一つ一つが重要で納得のいくものだった。山に向かう真摯な姿勢を改めて学ばせてもらった。ありがとうございました。

アドバイスされたこと、自分たちの反省点をまとめてみた。

山スキー行動中の反省点

①雪崩のリスクのある沢底からより安全な尾根に乗る場面で、登りやすいところを探して沢底を 200m ほど進んでしまったが、もっと早めに弱点を突いて尾根に登るべきだった。尾根上は斜度が緩いが、側壁は急なのでできるだけ早く尾根上に出るルート選択をすべきだった。

②尾根に取り付いたところは、滑りやすそうなブナ林の斜面であるが、5cm ほどの新雪の下に、風に磨かれた堅雪の層があってシール登行には厳しかった。尾根に取り付く

前にクトーを着けるべきだった。

③もっている道具の積極的な活用。今回メンバーの中で登行中に堅雪で滑って転倒する場面が何度かあった。一步間違えばそのまま滑落につながることもありえる。安全を優先して考えればアイゼンを使うべきだったと思う。

ビーコン搜索訓練の反省点

①組織的な搜索のために役割分担が必要指示を出す人。ビーコン搜索をする人。ゾンデやスコップを用意する人などが連携することで素早く埋没者を発見することができる。

②プロービングは重要だが、ビーコンの性能が良くなっているので、表示する数字が小さく埋没者に近いことがわかっているのなら、もっと早くスコップで掘る作業に移った方がよかった。

③時間の短縮

雪崩に仲間が巻き込まれたら、すぐに残り全員がビーコンを探索(サーチ)モードに切り替えなければならない。ビーコンの切り替えやスコップ・ゾンデの取り出しも訓練次第でさらに時間を短縮できる。練習あるのみ。

赤城山

浅見政人

山域山名:赤城山(群馬県)

期日:2019年3月21日

参加者:L 浅見 新井浩

行動記録:<天候は曇り>川本 7:00=赤城ビジターセンター 9:00→駒ヶ岳登山口 9:10→駒ヶ岳 10:20→黒檜山 11:30→黒檜山登山口 13:00→赤城ビジターセンター P13:20=赤城神社=川本 16:00

当初白馬方面の山スキーを予定していた

が、前線を伴う低気圧の通過で南風と降雨が予想され、前日に赤城山に変更した。川本から上武道路で前橋に向かう。途中は雨が降っていた。県道4号で赤城山を登る。雪はない。大沼は凍結しワカサギ釣りを楽しむ人々がテントを張っている。ビジターセンター駐車場に車を停める。

駒ヶ岳登山口の雪は溶けていたが5分ほど登ると雪道となりアイゼンを着ける。駒ヶ岳への登りは急で2カ所ほど鉄階段がある。駒ヶ岳頂上付近では小沼や地蔵岳がよく見える。時折日が差すようになる。駒ヶ岳と黒檜岳の鞍部ではスキーができないかと地図上で考えてみたが、樹林が密で快適ではないだろう。黒檜岳の頂上は南北に絶景スポットがあり、天候も回復傾向で谷川方面、尾瀬方面、日光方面の山々を同定することができた。黒檜岳から大沼に樹林帯の急な道を下る。

ビジターセンターではオリンピックの銀メダリスト猪谷千春のスキーなどが展示されていて、少年時代に地蔵岳でスキーの英才教育を受けたことが紹介されていた。赤城神社に参拝して帰路についた。

秩父の札所巡り その1

1番から11番

斎藤順

期日:2019年3月26日(火)

参加者:L 黒澤 相澤 渡辺 齊藤

行動記録:<天気晴れ>

和同黒谷駅 7:44→セブンイレブン 7:52→聖神社 8:05→①四萬部寺 9:18→(2.1km) ②真福寺 9:54→(1.7km)光明寺(真福寺納経所) 10:34→(1.1km)③常泉寺 10:55→(1.4km) ④金昌寺 11:25→(1.3km)⑤

語歌堂 11:55→(0.3km)長興寺(語歌堂納経所) 12:05 昼食→(2.6km)⑥ト雲寺 13:10→(0.7km)⑦法長寺 13:40→(1.2km)⑧西善寺 14:25→(1.8km)⑨明智寺 14:50→(2.2km)⑩大慈寺 15:33→(1.0km)⑪常楽寺 16:05→(0.8km)御花畑駅 16:28 歩行距離計 23.5km 行動時間 休憩昼食含む 8:40

地元の黒澤 CLと和銅黒谷駅で集合。駅近くのコンビニで食糧調達。準備万端、花曇りの白梅紅梅咲き乱れる秩父路を予定にはない黒澤 CLの提案で参拝すればお金に困らない?といわれる日本初の流通貨幣和同開珎がまつられている「聖神社」通称「銭神様」(宝くじの高額当選者多数)へご利益に賜れますよう参拝した。

秩父札所 34 か所観音霊場札所巡り、一番札所をめざし四萬部寺へ、熊トレの発展と会員皆様の安全、子孫長久災障消除諸縁吉祥ならんことを祈念、作法通りに丁寧に参拝を済ませ、真福寺をめざし山合いの風景、道端の草花、石仏を楽しみながら、時には江戸巡礼古道で江戸時代へタイムスリップ、十句観音経(観音信仰をもっと簡単に説く)を唱えながら歩けば身も心もすっきり心が軽くなり、リズムも生まれ足取りも軽やか、真福寺を過ぎるころには十句観音経が効いたのか快晴になり絶好の霊場巡りになりました。この日は野坂寺(12番札所)まで参拝の予定でしたがのんびり歩こうと常楽寺(11番札所)で切り上げ御花畑駅へ、またまた十句観音経のご利益か 16時33分発の羽生駅行きが我々を待ち構えていたように到着、何とも充実した第1回秩父札所巡りでした。

秩父の札所巡り その2 12番から24番

斎藤順

期日:2019年4月2日(火)

参加者:L黒澤 相澤 渡辺 齊藤

行動記録: 御花畑駅 7:53→コンビニ(1.6km)⑫野坂寺 8:30→(1.2km)⑬慈眼寺 9:00→(0.6km)⑭今宮坊 9:25→(0.7km)⑮少林寺 9:45→(0.8km)⑯西光寺 10:10→(1.3km)⑰定林寺 10:40→(1.1km)⑱神門寺 11:10→(1.5km)⑲龍石寺 11:40→(0.8km)⑳岩ノ上堂 12:05 昼食→(0.9km)㉑観音寺 12:50→(1.4km)㉒童子堂 13:30→(1.4km)㉓音楽堂 14:00→(3.5km)㉔法泉寺 15:00→(2.4km)影森駅 16:00

秩父鉄道を利用しての「秩父札所巡り」第2回、前回巡り残した野坂寺をめざし御花畑駅を7:53出発、前回とは打って変わって肌寒く前日の雪か?武甲山もうっすらと雪化粧していた。

紅梅、白梅、桃の花、桜に彩られた秩父は春真っ盛りで、特に最初に訪れた野坂寺は一年中何らかの花が咲き、仏像のお寺として境内の美しさは秩父札所中一、二を争う寺だそうです、秩父札所22番童子堂、23番音楽寺(1884年・明治17年の秩父事件の決起を告げた梵鐘がある)~24番札所法泉寺に至る(江戸古道長尾根道)道を武甲山を垣間見ながら二本の足で歩くと江戸時代の気分を満喫すると同時に今ここにいること、歩けることの喜び、とても幸せな気分をこのコースで味わうことができました、次回もますます楽しみです。

秩父の札所巡り その3 25番から30番

須藤俊彦

期日:2019年4月9日(火)

参加者:L黒澤 渡辺 相澤 斎藤 須藤

行動記録:(天気 晴れ)浦山口駅出発 8:13
→②⑤番札所久昌寺 8:30→②⑥円融寺 9:45
→岩井堂 10:23→②⑦大淵寺 10:55→②⑧橋立堂 11:30→②⑨長泉院 12:15→清雲寺 13:05→昌福寺→②⑩法雲寺 14:55→白久駅 15:15

昨日の雨で清浄された青空と満開の桜を愛でながらミツバツツジの紫の久昌寺観音堂に着く。二人の同行者がお経を唱える。観音堂裏の沼の周りには河津さくらが植えられ、水芭蕉、カタクリが咲いていた。道すがら入学式に向かう2組のピカピカ一年生と家族にお祝いの声をかけつつ円融寺へ到着。本堂からの春の秩父盆地が美しい。ここの観音堂の岩井堂へは昭和電工を通り抜け、急な300段ほどの石段の先にあった。懸崖に建つ清水寺風(小さいですが)舞台から昔は武甲山が目の前に見えたいが今は大きな杉木立の為、見えない。それにしても人力だけでよく作ったものだ。山道を歩くと足下に大淵寺の観音堂が見えてきた。ここでもお参りし境内で33か月寿命が延びるといふ延命水を飲む。風に舞った桜の花びらが雪のように流れ来る。橋立堂の前に立つと60年程前の遠足の記憶が浮かび上がる。鍾乳洞がある事もあり観光地の雰囲気がある。道は浦山ダムを見ながら川を渡り登った道から振り返ると満開の桜と芽吹きの方が白く光って美しい。長泉寺は広く良く手入れされた境内には色々な花が咲き、参詣者が多い。ベンチで持ってきた昼

食をとる。次は札所ではないが通り道という事もありしだれ桜で有名な清雲寺に向かう。近づく駐車場待ちの車などで急に騒がしくなる。メインの桜はすでに終わっていたが残り桜に多くの方がカメラを向けている。それにしても露店まであり、私は静かな方を好む。観光協会テントにて、この先の昌福寺のしだれ桜は今が満開との言葉で寄る事にする。こじんまりした昌福寺は桜木も少ないが人も少なく、青空をバックに写真に収める。ここから法雲寺までは一般道路の事もあり遠かった。意地で坂道を登りきると山に挟まれ、こじんまりした庭園を持つ今日のゴールに到着した。ここの観音様は有名な楊貴妃を弔う為に玄宗皇帝が自ら彫ったと伝えられている。何ゆえに遠く中国から伝わり、秩父のここに祀られているのか、ふと思う。今日一日、どうすれば観音巡礼なのかわからぬまま、黒澤Lに連れられて6寺をまわり、家族安寧をお願いした。お寺さんはどこも大きく、手入れされていたのが印象に残ると同時に、自らの無知を再認識した一日になってしまった。暇をみて静かに歩いてみようと思う。

白久駅で秩父巡礼は走って行い、定年後、毎年箱根駅伝コースを一人で完走しているという昭和22年生まれの元気な方にお会いし、御高説を賜った。この方は東松山市在住の方で、ネットですぐ探す事が出来た。

雪山訓練・谷川岳マチガ沢

関口裕子

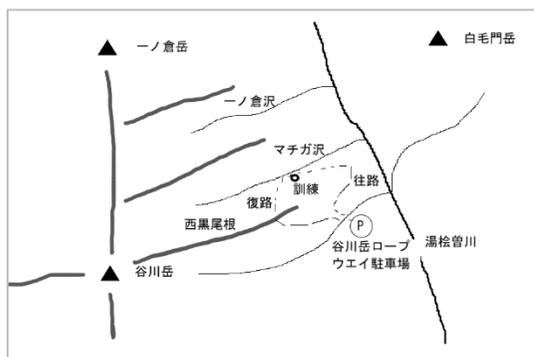
場所:谷川岳マチガ沢

期日:2019年4月7日(日)

参加者:L 浅見、斉藤、横尾、駒崎、新井浩、関口、三島、木村

行動記録:<晴れ>

川本道の駅 5:00=谷川ロープウェイ 7:30—
登山指導センター7:50—マチガ沢、右岸西
黒尾根斜面で訓練—西黒尾根でビバーク
訓練 14:00—ロープウェイ乗り場 15:40=駐
車場 16:10=川本道の駅 19:00



○雪上歩行の基本:マチガ沢に出る間に、アイゼン装着での歩行の基本、ピッケル操作の基本、雪崩が起きやすい地形を確認しつつ、雪崩に巻き込まれないようにするための歩行時の注意。

○滑落停止:マチガ沢にてピッケルを使った滑落停止練習。

○ビーコンの探索訓練:ビーコン、ゾンデ、スコップの使用法。2チームに分かれてのビーコン探索訓練。雪の層について。

○ビバーク訓練:西黒尾根にて2チームに分かれツェルトを使ったビバーク訓練。

<感想>

初めて参加させて頂きました。雪山経験はありますが、しっかり教えて頂いたことは

なかったので大変勉強になりました。1月の例会学習「雪崩地形と空間多様性」もとても勉強になりましたが、実際に歩いている場所で雪崩の危険性のある斜面を教えて頂き、何人かで歩く場合は一人ずつ素早くその場を移動し、少しでもリスクを減らす必要性があることがわかり、地形を含め状況を判断する力が大切なことを実感しました。

滑落停止訓練も何度も練習でき良かったです。ビーコン探索訓練は、最初



のグループの訓練の様子を見て皆の動きを確認しましたが、実際、自分たちのグループの番になると、私は慌ててしまい仕事ができませんでした。まず、道具を素早く準備できるように自主練しなくては行けないと痛感。その上でリーダーの指示を落ち着いて聞き、声を掛け合い協力し合わなければ助けられる命も失ってしまうのだと思いました。また、3つの道具を貸して頂きありがとうございました。

ビーコン探索訓練の後、雪に穴を掘ってもらい、雪の層を見ました。溶けた雪の上に積もった雪、固い雪、柔らかい雪などがあり、どうやって雪崩がおきるか説明して頂き興味深かったです。次にマチガ沢から移動して西黒尾根に出て、ビバークの訓練をしました。ツェルトを何処に張るか決め、皆のスリングやカラビナ、ピッケルを利用し設営しました。スリング、カラビナ、ピッケルはこんな時にも役に立つのですね。初めて尽くしの一日で良い体験をさせて頂きとても嬉しかったです。

ツツジ(アカヤシオ)山行 西上州笠丸山

須藤俊彦

山域山名: 笠丸山(1189m)群馬県

期日:2019年4月15日(月)

参加者:L 須藤俊彦、斎藤順

行動記録:<晴れ>

小前田 7:00=(一般道 車)=笠丸山登山口
8:45/8:55 - 地蔵峠 9:45 - 笠丸山西峰
10:25/11:20 - 笠丸山東峰 11:30 - 表登山口
12:20 - 笠丸山登山口 12:30 = 野村道の
駅 = 小前田 14:20 = 自宅 15:00

数日前の雨予報から晴予報の中、斎藤さんをピックアップして 71 号線で山を越え、上野村役場脇から舗装された山道を走り、交互通行のトンネルを抜け、奥の登山口表示の所に車を止める。他に車なし。

林道から沢筋の山道を歩くと子供と思われる日本カモシカが葉を落とした木々の間を時々こちらを見ながらユックリ登っていった。尾根筋の地蔵峠に出ると風が強く冷たい。尾根を登りだすとツツジの群生地があるが蕾は固い。アップダウンを繰り返し瘦せ尾根に出る。ここを右に行くとすぐに笠丸山頂上に到着。360 度の眺望が良く頂上からは見慣れない形の両神山が見事に迫ってくる。甲武信や真っ白な八ヶ岳、谷川連峰も見える。足元のアカヤシオの蕾も大きくなり、何輪か咲いている。来週にはもっと咲いている事と思う。

眺望を楽しみながら昼食をとり下山にかかる。瘦せ尾根を一寸行くと東峰で祠がある。踏み跡が前に続いており、何の疑いもなく急な斜面を下りだすと道が消えている。ミスに気づき祠まで戻ると、道は祠のところで直角に曲がっていた。テープ指示もあり、不

注意を反省。この後は雨や雪の後ではご免こうむりたいロープ付き急坂を一気に下る。針葉樹林帯に入ると道が見えるようになりやがて表登山口に到着。

笠丸山の印象は思いの他コンパクトな山で、一口に言えば盆栽のような山である。谷筋道あり、岩礁尾根あり、岩壁ありでそれらには色々な植生があるとのこと。今回は春のベストタイミングではなかったが、その美しさは想像できる。体力的にも比較的楽であり紅葉の時期に再度訪れてみたい。

景鶴山山スキー

浅見政人

山域山名:尾瀬景鶴山

期日:2019年4月28日(日)

参加者:L 新井浩 木村 駒崎 浅見

行動記録:山ノ鼻 6:10→下ノ大堀川橋 7:30
→ヨッピー橋 8:30→ケイズル沢左岸尾根→景鶴山肩 10:30→景鶴山頂 11:10/11:20→景鶴山肩 11:40/12:10~ヨッピー橋 13:00→竜宮 13:40→山ノ鼻 15:00→鳩待峠 16:30=戸倉 17:20

尾瀬ロッジは朝食が 6 時からなので、昨夜のうちに弁当に振り替えてくれるように頼んであった。6時に弁当を受け取って出発しようとする味噌汁だけでも飲んで行けと声をかけられた。温かい一杯がうれしい。

昨日から降り続いた雪は未明にあがり、今朝は昨日滑った至仏山と尾瀬ヶ原の向こうに燧ヶ岳がよく見える。尾瀬ヶ原の新雪は 10cm。牛首分岐までは朝の写真撮る先行者の足跡があったが、そこからヨッピー橋方面に進むと何の痕跡もない雪原に私たちのスキーの跡だけがついてゆく。下ノ大堀川がヨッピー川と合流するところに鉄の橋が

大岳→小岳→睡蓮沼

5/4 南八甲田スキー 城ヶ倉大橋→逆川岳→横岳→櫛ヶ峯→横岳→城ヶ倉大橋

5/5 移動日 宿=青森=東北道=行田=東松山

一昨年に引き続きGWは八甲田山。今年は、南八甲田を滑り尽くす計画で挑みました。

5月1日(水)

東松山 5:00=行田=東北道=みちのく深沢温泉 15:40



予定通りに東北道へ6時に乗り快調に走る。途中120km/hの制限速度区間有るが、他の車は速くはなっていないようです。黒石ICを14時前に降りて、黒石市内のスーパーで連休中の買い出しをして、今宵の宿のみちのく深沢温泉に16時前に到着。674kmでした。荷物を整理して、時間も早いので、宿のご主人に宿の周りのミズバショウを見に案内をしてもらおう。その後ゆっくりとお目当ての温泉につかり、時期の山菜たっぷりの夕食を頂く。

5月2日(木) <天候:曇り/小雨/みぞれ>

宿 7:40=猿倉温泉 8:05/8:40→猿倉岳 1353m 10:20→南東斜面 1100m 地点 10:50/11:20→猿倉岳 12:00→猿倉温泉 12:55

今日は初めての南八甲田を滑ることにしている。宿から猿倉温泉を目指して走る。青空が出ている。車道の雪壁は5mほど有るだろうか。次第に天気があやしくなってきた。雲の流れは速い。猿倉温泉の一番奥に



車を停めて準備をしていると小雨になってきた。日も差すのだが山の上は雲の中に入っているようだ。フードをかぶり、シールを最初から付けて登りだす。最初は沢地形から始まりやがて尾根に登る。天気は相変わらず降ったりやんだりの小雨で、みぞれに変わってきた。ブナ林からやがて針葉樹林へ。尾根はなだらかで急登は無く登りやすい。振り返ると下界は晴れているようだ。北八甲田の山々が見える。

やがて針葉樹も頭が出ているだけとなり山頂へ到着。我々だけで静かだ。これからの計画を相談する。ここから南東面を滑り、乗鞍岳に向かう計画だが、天気がすぐれないので、南東面を滑り、登り返して、登って



きたルートを滑ることにする。滑降準備をして、急斜面の南東斜面を避けて南斜面を滑り下りる。針葉樹林の段がいくつもある斜面だが、面白いように滑れる。下部は沢地形のボール状になっている中心部を避けて滑降。ザラメがよく滑り快適。あっという間にボトムへ。南東側に回り込んで、風よけの大木の下で昼休憩とする。目の前には乗鞍岳があるが、濃いガスの中で見えない。休憩後、南東斜面を猿倉岳に登り返す。急斜面でジグザグに登り山頂へ。3名のスキーヤーが滑る準備をしていた。山頂には、ツアールート看板があり、櫛ヶ峯ルートと書かれ番号が付いている。櫛ヶ峯へも行く予定の山だ。シールをはがして、猿倉温泉へ向かう。なだらかな広い尾根だが、樹林が薄い右側の崖に沿って滑る。快適なザラメだ。やがてブナが出てきて登ってきたルートを滑ると猿倉温泉が見えてきた。あっという間の滑降であった。頭上には青空が広がっている皮肉な天気であった。

5月3日(金) <天候:晴れ>

深沢温泉 7:30=睡蓮沼 7:55/8:10→硫黄岳 9:35/10:00→大岳 11:35/11:50→大岳下鞍部 12:05/12:42→小岳 13:10/13:40→睡蓮沼 14:25

宿で朝食を摂り出発、睡蓮沼に駐車できるか心配されていたが、どうにかとめる事が



できる。睡蓮沼へ上がると今日登る三山が青空にくっきり現れ、一望できる。

まずは一座目、硫黄岳を目指す。広大な斜面を左寄りに登る。南八甲田を眺めながら頂上に到達。風は思ったより弱く少休憩して大岳鞍部まで、途中のクラックを避けてはじめての1本を滑り降りる。仙人岱避難小屋を通り大岳の夏道に向かう。1380m 辺りで板を担ぎ雪の上を少し登ると雪の無い夏道になる。風がしだいに強くなり山頂では写真だけ撮り滑降点を探す。少し戻り雪面に入る。南東にトラバースし大斜面の上に出る。登りで見た雪崩箇所から離れて広大な斜面を滑り降りる。下り切った所でゆっくり昼休憩。ここはツアーコースの通り道で脇を数グループが行き交う。

山頂は雪が無いので最後は板をデポして登る。展望は良いが風は強い。最後の滑り、クラックが所々あるので気をつけてトラバースし出発点に滑り戻る。振り返り三座を眺めて終了。

5月4日(土) <天候:晴れ>

宿 5:50=城ヶ倉大橋 P6:10/6:30→逆川岳 7:55→横岳 8:40/9:00→櫛ヶ峯 10:35/11:35→横岳 12:40/13:00→櫛ヶ峯スノーシェルター 13:30→城ヶ倉大橋 P13:50/14:10=宿 14:30

今日は行程が長いので朝食抜きで出発する。宿の外に出てみると快晴で青空だ。宿から20分程で城ヶ倉大橋のたもとの駐車場に着く。日陰になっており、ひんやりして寒い。出発準備をして、駐車場のすぐ脇の雪壁を登り、シール登行を開始。ゆるい斜面の複雑な地形を進み、やがて広い尾根に乗る。最初はブナ林の中を進み、だんだん針葉樹林が混ざるようになる。朝陽があたり快適な登行だ。やがて針葉樹の頭だけ

がでるようになり、視界が良い。振り返ると真っ白な岩木山が大きい。左手には昨日滑った北八甲田の山々が見えてきた。斜度はゆるく快適に進む。明確な山頂がわからない逆川岳に到着。雪のないときは湿原の様だ。ここから進路を南西にとり、横岳に向かう。ここからもゆるい斜面を登り、左手に格好良い櫛ヶ岳が見えてきた。南側が崖になっている雪崩れて崩落した斜面を見ながら登行を続け、やがて横岳山頂。360度遮るものない展望を楽しむ。北八甲田、岩木山、陸奥湾などが快晴の空の下、いつまでも見えて飽きない。シールを外して櫛ヶ峰に向かい、横岳の南面を滑降。鞍部まで降りて、滑れるところまで滑る。シールを着けてほとんど平らな平原を進む。徐々に大きい櫛ヶ岳が近づく。櫛ヶ岳の斜面はなかなか手ごわい。大きな北に延びている尾根に取りつき、ジグザグに登る。なかなか急な斜面だ。30分程格闘してやがて山頂へ到着。ここも遮るものない360度の展望。南をみると十和田湖が眼下に見える。ここで大休憩。猿倉から登ってきた80歳の単独の地元のスキヤーと話をする。しばらく歓談した後、一緒に滑りだす。80歳のスキヤーはあっという間に下のほうまでかっ飛んで行かれました。我々は横岳に戻らなければならないので、進路を東から北にとり大斜面を滑降。きわどい斜面をトラバースしながら登ってきたルートに戻りました。再びシールを着けて横岳の斜面に取りつく。先ほど滑り下りてきた大斜面を黙々と登り、再び横岳の山頂。相変わらずの大展望。滑降準備をして北斜面へ進む。約3km滑降ルートの最初は広大なゆるい斜面滑る。だんだん針葉樹が増えてきて、右へ左への快適な滑降。やがてブナ林帯に入り、ツリーランを楽

しむ。南八甲田は全体的に斜度もゆるく、安全に滑るのは最適。あっという間に車道が見えてきて楽しみも終わり。約30分の滑降でした。車道を板を担いで城ヶ倉大橋まで戻り、宿に帰還。明るいうちから温泉につかり、疲れをいやしました。

5月5日(日)

宿 8:50=青森港=青森中央 IC11:00=東松山 21:10 往復走行距離 1515km

宿の女将さんに見送られて出発。青森港の物産館に立ち寄りお土産を購入。その後は東北道をひたすら南下の700kmでした。今回は初めての南八甲田を2日間滑りました。北八甲田の賑わいに比べてひっそりとした南八甲田。来年以降も通いたくなる山容でした。

(5/1-2、4-5 新井浩記、5/3 駒崎記)

赤城山・大猿川周回登山

渡辺和夫

山域: 赤城山

期日: 2019年5月2日

目的: アカヤシオ咲く大猿川周回尾根と銚子の伽藍を巡る

参加者: CL 高橋仁、SL 大嶋博、渡辺和夫、高橋武子、斎藤順、赤坂京子

行動記録:<天候:晴れ> 熊谷 6:30=(車)=大猿公園駐車場(8:05)―西登山口(8:15)―銚子の伽藍(11:15)―茶ノ木畑峠(11:40)―下山(14:00)

熊谷を予定通り出発。

今日は大型連休中日なのだが車両の渋滞もなく多少早めに赤城駐車場に到着。駐車場も先行車輛が3~4台程度と予想外に空いていた。

今日は快晴なのだが風が強く、時折突風が音を立てて吹いている。

登山口から歩き易い山道を30分程度進むと尾根に出る。この辺から稜線を登る。熊笹が道まで生い茂り、足とストックが当たりちょっと歩きにくい。

「つつじが峯」に出て小休止、アカヤシヲやミツバツツジがきれいに咲き心を癒してくれる。ツツジは小葉が出揃った程度だが赤シデの葉が新緑の中にあって赤レンガ色に彩りを添える。

10:25 二回目の小休止。ここまで登ると南方向の視界が開け桐生・前橋~埼玉方面が見渡せる。すばらしい。



「さねすり岩」は今にも崩れ落ちそうなのだが、リンとして鎮座している。

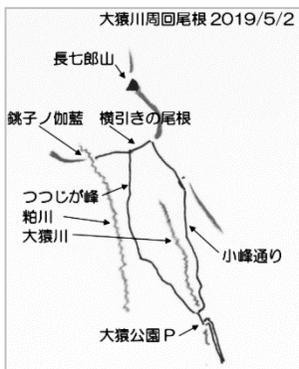
銚子の伽藍東展望台に到着、銚子の伽藍はちょっと分からなかった。

11:50 に茶ノ木畑峠に到着、風を除けて日当たりのよさそうな場所で昼食。

天気予報によると、今日は快晴でも天候が不安定で急な降雨も予想されるとの事なので昼食後早めに下山。

復路は熊笹が道に覆いかぶさっていないので歩き易い。ブッシュと植林帯の分岐点で小休止、14:00 に駐車場に到着。

赤城神社に全員で参拝し、厳かな気分になって帰路についた。



至仏山山スキー

石川邦彦

山域山名:尾瀬 至仏山

日程:2019年5月3日(金)

参加者:L石川 佐野(上里 HC)

行動記録:上里 5:30=7:05 戸倉駐車場=7:40 鳩待峠(1591m)7:58→9:15 原見岩9:25→9:56 オヤマ沢田代→11:01 至仏山

11:49→(ワル沢)→13:05

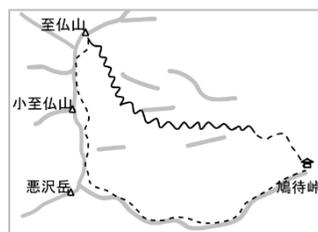
鳩待峠=戸倉

=17:00 上里

当初10連休

初日の4月27

日に計画したものが、悪天候のためこの日に変更になりました。



早朝の関越道は、ほぼスムーズに流れ、予定より早く戸倉の駐車場に着きました。シャトルバスに乗り換え鳩待峠まで約20分。峠はまだ2メートルの積雪があります。昨年のゴールデンウィーク終盤はほぼ地肌が出ていたのと比べると大違いでした。

きつそくシールを付けて出発。10連休で分散されたせいなのか、思ったより人の数が少なかったです。原見岩まで最初はゆるゆると、徐々に標高を上げていきます。晴れて、まだ樹林帯なので、風はほとんど感じません。次第に小至仏山や至仏山頂が見えてきます。一汗かき、上着を脱いでさらに登っていきます。スキーヤーやボーダーは2、3割程度でしょうか。つぼ足の人が多かったです。急斜面を登りきり、右にトラバースしていくと、オヤマ沢田代に出ます。雪に覆われた湿原ですが、湿原の面影は平らな雪面と疎らな木々が示しています。遮るものが少ないので、尾瀬ヶ原やアヤメ平、燧ヶ岳、

景鶴山などがよく見えます。

積雪期は小至仏山頂は通過せず、東側斜面をトラバース気味に進んでいきますが、われわれはメインのトレースの下側に進路を取ります。小至仏山から至仏山頂へ向かうときの下りのロスを避けるためです。さらに山頂直下では、進行方向右側の岩場の下を回り込み、シールのまま山頂標識直近まで行きました。



360度の展望を楽しみ、写真を撮って、滑降の準備です。最初にムジナ沢をのぞき見ると、いつものハイマツが顔を出す上部にも雪が着いています。いよいよワル沢源頭の大斜面に飛び込みます。最初はザラメ雪、あまりに広いのでどこを滑ってもいい感じです。トレースもあり、また時々GPSで位置確認しながらさらに下り、雪も重くなってきました。足や腿がだいぶくたびれたところ、ほとんど雪に覆われて時折流れを見せているワル沢を右岸に渡り、そのままオヤマ沢との合流点へ。ここで滑降終了し、再びシールを付けて15分ほどで鳩待峠に戻りました。

ここ数年、私にはGWの定番となっている至仏山春スキー。今年も行くことが出来ました。来年もまた行きましょう。

稲含山～ツツジ山行

齋藤順

山域山名:西上州 稲含山

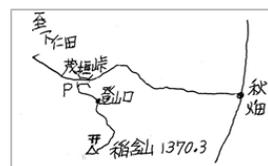
期日:2019年5月8日(水)

参加者 CL並木 SL渡辺 須藤 齊藤

行動記録:熊谷駅南口 7:00=かわもと道の駅 7:20=花園 IC=富岡 IC=こいのぼりの里 秋畑那須地区 8:30/8:40=登山口 9:10-稲含神社 10:25-稲含山山頂 10:40/11:25-登山口 12:00-神の池園地 12:10/12:20=こんにやくパーク 13:00/13:50 富岡 IC=かわもと道の駅 15:00=熊谷駅南口 15:20

<天気 快晴>

年号が令和に変わり初めての山行、祝うような快晴



の天気の中「かわもと道の駅」でピックアップしてもらい富岡ICで降り、途中日本の里100選で知られるこいのぼりの里「秋畑那須地区」で山間に泳ぐ約400匹の姿を楽しみ 神の池園地を過ぎ登山口(茂垣峠駐車場)に到着。ここから出発、赤鳥居をくぐり途中の馬酔木、アカヤシオを愛でながら急階段を上がり稲含神社に到着。参拝を済ませピンクに染まるアカヤシオのトンネルを抜け山頂に。展望は360度の大パノラマ、地藏岳、薬師岳、男体山、社山、赤城三山、皇海山、袈裟丸山。風もなく穏やか、登山の



神様が我々4人に贈られたスペシャルなプレゼントを堪能し、のんびり昼食、下山。

帰路、神の池園地で夥しいカエルの卵とオタマジャクシに驚き、こんにやくパークでこんにやくの無料バイキングを楽しみ、心も腹も満たされ充実した1日を過ごしました。

西上州・天狗岩

新井勇

山域山名:西上州 天狗岩 1213m

期日:2019年5月12日(日)

参加者:L 軽石 新井勇 高橋武

行動記録:熊谷駅南口 7:30=上信道下仁田 IC=登山口 9:35/9:45→避難小屋→天狗の岩洞(いわあな) 11:10/11:20→天狗岩展望台(昼食) 11:30/12:30→避難小屋 13:00/13:10→登山口 13:30/13:40=下仁田=熊谷駅南口 15:20

<天気晴れ>

この山行、当初「つつじ山行」として4月25日実施予定だったが、悪天候のため中止。改めてこの日に行うと決めたが参加者は3人に減ってしまった。現地上野村へは、距離的には遠回りになりそうだが高速道路、下仁田、湯ノ沢トンネル経由でいくことになった。8月に御巢鷹山に慰霊に行く人たちもこのルートを使うことが多いそうだ。

トンネルを抜けて旧道を少し登ると登山口で2台ほど車があり、我々の車の隣に停車した単独行の年配の男性が同行の高橋武さんの旧知の人と気付きびっくりした様子。準備を整え、高齢の我々3人、特別のゆっくりペースで沢沿いの登りのルートを歩き始めた。

新緑の樹林の中の道は、古くから整備された歩きやすい道で、花は少ないが時々

マブキソウが眼を楽しませてくれる。30分ほど歩くと避難小屋がありこの先にニリンソウの群生地ありとの表示があった。やがて花がチラホラ見えてきたが、なぜか生まれて1~2年くらいと思われる小さな株ばかり。ほかの自生地で見えるような大きな株は、避難小屋の手前で花をつけていた株の一つ見つただけだった。数年前に何かあって大きな株の群落消え去ってしまったのだろうか?

頂上手前で横道に入り、天狗の岩洞に寄ってから頂上手前の展望台へ。頂上に近づくとアカヤシオの散花が増え展望台付近の稜線にはまだ残り花がついている木も何本かあって延期したお花見山行も何とかセーフだったと言えそうだ。ここで昼食とし、山座同定などじっくり楽しんだ。春霞で浅間など遠方の山は全く見えなかったが。

下山は山頂の東から下って避難小屋で登った道と合流する迂回路を通り、13時30分には下山。帰路、下仁田のこんにやく店「まるへい」に寄ったがこの店、この五月末で閉店だという。帰路も軽石さんの運転に委ねて3時過ぎ熊谷へ帰着。

浅間山・前掛山

高橋仁

山域山名:上信越浅間山・前掛山

期日:2019年5月12日(日)

参加者:CL 三島 SL 橋本 高橋仁 谷口 相澤 新井浩(6名)

行動記録:熊谷駅南口 5:00=浅間山荘駐車場 7:00-浅間山荘登山口 7:20-二ノ鳥居 8:10-湯ノ平分岐 9:20-賽の河原分岐 9:35-立入禁止告示板 10:30-前掛山山頂 11:00/11:30-立入禁止告示板 11:50-

賽の河原分岐 12:25－湯ノ平分岐 12:40－
二ノ鳥居 13:40－浅間山荘登山口 14:20
<天気晴れ/曇り>

浅間山荘から蛇掘川に沿って浅間山に向かう。この川は湯ノ平口から流れ出て、小諸で千曲川に合流し、信濃川を経て日本海にそそぐ。鉄分を含んでいるのだろう、赤茶けた沈殿物で川が茶色に見える。途中で火山館休憩所用の薪が積んであり、登山者に一本ずつ持って登ってほしいと書いてある。其々に一本か二本を持って登り始めた。一の鳥居を過ぎ、不動滝、二の鳥居と進み、急こう配の長坂の登りに入ると右前方に牙山(ギッパヤマ)の切り立った岸壁が迫ってくる。硫黄の臭気が漂ってきて、火山館・浅間神社に到着した。運んできた薪を置いて休憩。今日の火山情報は、レベル1だから、前掛山までの登山がOKだ。

湯ノ平口分岐で草すべりへの道を分けて湯ノ平高原を進むと、樹林帯の中はまだ雪が残っていてひんやりと涼しい。すぐに賽の河原分岐に到着。ここはJバンドから外輪山に登るコースと、浅間山、前掛山へ登るコースの分岐点だ。去年6月に車坂峠から登り、草すべり、火山館、賽の河原、Jバンド、外輪山と周回したが、その時は浅間・前掛は入山禁止だった。その後8月末に解除になって、前掛山までは登れることになった。今のうちに前掛山に登らねば、と云うのが今回の山行目的でもある。

溶岩砂礫の歩きにくい急登になり、前に浅間山、前掛山、後ろに黒斑山などの外輪山を眺めながら一步一步登っていく。2500mに近づいてきて、息が上がってくる。右前方には前掛山への稜線を歩く登山者の行列が見えている。規制解除と、雪消えを待っていた人たちが、連休あたりからドッと繰り出

してきたのだろう。(もちろん私たちもその一員) 2、3人のグループから、20人位の団体まで、何組ものパーティーが行きかって、そのうちの割か二割がヘルメットを着用していた。駐車場を出るときは、メット着用は私だけかと思ったが、御嶽山や草津白根を教訓にヘルメットが見直されてきたのだろう。

火口立入禁止の看板を右折、シェルター2基を横目に稜線を登って前掛山頂上に到着。風を避けて南側の斜面で剣ヶ峰・牙山、トーミの頭・黒斑・蛇骨と外輪山を眺めながら昼食。40年近く前に登った時は前掛山には寄らず、浅間火口壁を半周して、軽井沢に下ったので、前掛山には今回は初登頂だ。書によれば、太古には黒斑山頂が浅間山の東の肩のあたりにあって、標高も2800mから2900mの大きな山塊だったという。3万年前の大爆発で頂上部と東側が吹き飛んで大きな窪みになり、その後軽石流の噴出が4,000年くらい続いて前掛山が形成された後、天明の大噴火(1783年)で大きな噴火口ができて今の浅間山群の形ができたという。この時に鬼押出が形成され、鎌原村が溶岩流で埋没した。最近でも1983年に大噴火をして、今も火山活動が続いている。

展望を楽しんだ後は、仙人岳、蛇骨岳、黒斑山などの外輪山の岩稜を眺めながらひた



すら下り、火山館からの長い下りをたっぴりと歩いて、予定より 2 時間近く早く浅間山荘に帰った。

赤平川川歩き

赤坂京子

場所:赤平川の郷平橋から番戸大橋 阿熊川の子の神の滝

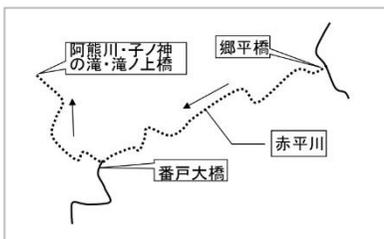
期日:2019年5月14日(火)

参加者:CL橋本 SL石川 並木 斎藤 豊島 赤坂

行動記録:秩父鉄道熊谷駅 7:36=皆野駅 8:37/8:50→郷平橋 9:15 赤平川に入る→赤平川を遡る→番戸大橋 12:45→阿熊川滝の上橋と子の神の滝見学と化石取り 13:40/14:00 星音の湯入浴と昼食 14:20/15:50 無料シャトルバス 16:00 長瀬駅 16:30/16:57=熊谷駅 17:40

<天気曇り>

皆野駅に集合し出発。出発時ポツポツと雨、やはりと思ったが



その後はすっかり雨が上がった。赤平川に向かう途中、皆野橋の上で CL から河岸段丘の説明を受けた。周りを見渡すと川の流路に沿った河岸段丘が見てとれる。

郷平橋を渡り川に下り、靴を履き替え赤平川に入る。川にバシャバシャと初めての体験。砂利もなく岩がむき出しになっている所が多く、川専用の靴ではなくスニーカーのせいかツルツル滑って転びそうになる。赤平川に入り上流に向け、しばらく歩くとすぐ

にここは海底だったことがわかる。説明を受けながらよく見ると砂岩に貝殻や貝が穴を掘った後(穿孔貝)などたくさん見つかる。少しずつ化石を採取しリュックがどんどん重くなっていく。丸いノジュールといわれる化石が入った石もたくさんある。川の中にも断層が斜めに盛り上がっている場所や川の両岸には何層にも重なった断層がはっきり見られるところもある。海底だったところに思いをはせながら赤平川を遡る。川原には園芸種の真っ赤なケシがところどころ綺麗に



咲いていた。赤平川から吉田川に入りさらに阿熊川を遡る。小さな淵にはウグイなど小魚が群れている。阿熊川を遡って行くと、滝の下流すぐに4mほどの高さの堰堤があり、遡れなくなった、一旦川を戻り、川に沿った車道に上がり「子の神の滝」を目指す。徒中、滝を上からわずかに見ることができた。「滝の上橋」から滝の上の川に下りて最後の化石見学をする。滝の上から20mほどの高さの滝を見下ろすことができた。帰りは30分ほど歩いて「星音の湯」に着き疲れた足と冷えた体をゆっくり暖めてから少し遅い昼食をとる。皆野駅に向かうシャトルバスを待っていると夕立が降りだし、駅に着くときはやんでいた。歩きながら長い地球の歴史を感じることができた一日でした。

秀麗富岳 12 景 小金沢連嶺を歩く

須藤俊彦

山域山名:山梨県 牛奥ノ雁ヶ腹摺山
(1995m)・黒岳(1987.5m)

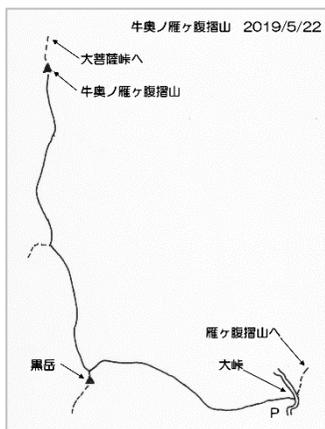
期日:2019年5月22日(水)

参加者:L 高橋仁、斎藤順、須藤俊

行動記録:熊谷南口 6:00=東松山 IC=大月
IC=大峠 8:00/8:15-黒岳 9:55/10:05-牛
奥ノ雁ヶ腹摺山-次のピーク-牛奥ノ雁ヶ
腹摺山 12:00/12:45-黒岳分岐 13:55-
大峠 14:50=東松山 IC=熊谷南口 17:30

<曇り>

数日前の雨予報は晴れ予報に変わり予定通り実施。大いに晴れが期待できる空模様の中、出発。例によって食料調達し予定より30分早く霧の大峠に到着。2台の先客があった。



身支度を整え、500円札の雁が腹摺山と反対側の新緑の広葉樹林を登る。昨日までの雨で落ち葉等は洗い流されて歩きやすい。見上げると時々青空が見える。針葉樹林帯に入ると今年の台風の被害なのか倒木、折れた木、それに枯木が目につくようになる。倒木は処置されており、歩くのに問題はない。やはり東京近郊の山を実感。尾根筋の分岐から5分ほどで黒岳に到着。ここも倒木で富士山方向を望むことは出来るが、見えない。出発時のリーダーの雲が取れないかもしれないとの予想通り、それなりに見え

る方向もあるが、富士山は残念。それでも期待を持ちながら目的地に向かう。尾根の大きなコメツガの根が岩からはがれた表現がびつたりの状態で倒れている。やがて道は広く明るい尾根筋で気持ち良い。笹が茶色のまま、枯れたのかこれからなのかわからない。白や黄色の小さな花がある。白はヒメイチゲか。ここまで来ると山桜の花も残っている。まだ芽を出していない木もある。少し下った笹原のサイの河原で一休みし、林越しに見える頂上をめざす。牛奥ノ雁ヶ腹摺山南側は笹原で眺望は良いが相変わらずの空模様、東斜面からガスが這い上がっている。写真をとり次のピークで食事ということになり行くが、巻道から離れたこともあり、鹿の排泄物の余りの多さに辟易し戻り食事。風は冷たい。ガスは相変わらず東面を登り稜線付近で消えている。



富士山を諦め下山にかかる。雨の心配のないのんびりした山歩きを楽しむ。それなりの高度がある山は一日で幅広い季節を楽しむ事が出来るのが嬉しい。木々の緑と足元の苔に感謝しつつ歩くうちに大峠に到着。今日山中であったのは一人の静かな山行でした。(付記:甲州には3つの雁ヶ腹摺山があり今回はその一つ。残りは笹子雁ヶ腹摺山と500円で有名な雁ヶ腹摺山)

日光 高山

斎藤順

山域山名:日光 高山 1668m

期日:2019年5月29日

目的:シロヤシオ観賞と湖畔歩き

参加者:CL 軽石 大嶋 橋本 新井勇 黒澤 高橋武 齊藤

行動記録:<天気曇り>

熊谷駅南口 6:30=羽生 IC=東北道大谷
SA8:30=日光宇都宮道路=清滝出口
8:55=中禅寺湖=竜頭滝下駐車場
8:20/9:30-竜頭の滝(竜頭の滝茶屋)-
高山 11:35/12:10-無名峠-沢道-熊窪
13:20-湖畔通り-赤岩-竜頭の滝(竜頭
の滝茶屋)15:00-竜頭滝下駐車場 15:20
-羽生インター17:05-熊谷駅南口 18:00

26日27日と
熊谷は猛暑
日。28日から
打って変わって
の雨予報、29
日は日光地方
9時過ぎから晴



れとの予報。しかし、日光宇都宮道路は雨模様も竜頭滝下駐車場に着くころには降り止み、曇空の中を出発。男体山の噴火でできた溶岩の上を流れる竜頭の滝はミツバツツジに彩られ、観爆台から眺める滝壺の景色は憂鬱な空模様を吹き飛ばすかのような絶景だった。水量豊かな川沿いの景色を楽しみながらカラマツ、ミズナラ、白樺の林の中の階段を上る、男体山、太郎山 中禅寺湖がちらほら見え、アズマシヤクナゲ、ミツバツツジの彩り。高山山頂は思いのほか広くカラマツとダケカンバ、ミツバツツジに囲まれ日光白根山もまばらな樹木の間からチラ

ホラ見える。

ゆったりと昼食を楽しみ山頂からシロヤシオ、ミツバツツジの群生の中を下る、無名峠を過ぎ熊窪、赤岩と中禅寺湖畔の景色を楽しみながら、再び竜頭の滝を見学、素敵な一日を過ごせました。

官ノ倉山・埼玉労山北部 クリーンハイキング

高橋武子

山域山名:小川町官ノ倉山(344m)

期日:2019年6月2日(日)

参加者:CL 橋本 SL 輪湖 SL 山口 赤坂 高橋武 木村 須藤 相澤 浅見(9人)

行動記録:熊谷 8:30=小川町竹沢公民館
9:15 打ち合わせ 9:30/9:45-小休止
10:20/10:30-北向不動 10:40/10:45-石
尊山 11:20-官ノ倉山頂上(昼食)11:35
/12:20-天王池 12:50/12:55-小休止
13:10/13:15-竹沢公民館 13:45/14:05=
熊谷 14:45

<天気曇り>

今年は5月
から真夏日と
なる暑さで心
配していた
が、曇り日
で気温も下がり



助かった。山の緑が美しい。竹沢公民館駐車場にて、今回は熊トレが当番なので橋本さんからコースなどの説明をし、打合せを行った。2班に分かれ同じコースを時計回りに熊トレと上里ハイキングが行き、逆コースには案内役の輪湖さんと深谷こまくさと秩父アルペンが行くこととした。イノシシの罠が仕掛けられているので路から離れた所は要

注意とのこと。また、官ノ倉山周辺では、土地所有関連者から残土を盛土したいとの発表がなされ、町の課題になっていることが紹介された。計画には谷合にまで盛土が計画されているとのこと、きちんと考えて対応しないと環境を守れないと思った。

公民館からまずは里路、どこの家もきれいにしていて庭は花盛り。ガビチョウがしきりと鳴く。時々ウグイスとホトトギスが鳴くが負けそう。やがて山路へ、山はきれいでなかなかゴミが見つからない。クサイチゴの実をつまんだり、リョウメンシダを見たりしながら進む。葉の真ん中に花をつけるハナイカダの木を見つける。ネジキがひっそりと小さな白花をつけていてかわいらしい。石尊山へは急登、鎖もついている。登ってから振り返ると小川町が良く見渡せた。官ノ倉山との途中で逆コースの人とすれ違う。官ノ倉山でゆっくり昼食。立木もあるし霞んでいるので、展望はあまり無かったが、登谷山、宝登山などを望む。

下山路は始めのうち、ざらざら道で石車に乗らないよう用心して下る。天王池で小休止、ホソオチョウらしい蝶が数匹遊んでいた。公民館駐車場で集めたゴミを計量した。ごみは 2 班合わせて燃えるごみ 0.9kg、ビニール 0.4kg、金属他 0.7kg、びん・ライター・乾電池 0.6kg と少なめでした。



子持山

渡辺和夫

山域山名:群馬県子持山

期日:2019年6月6日

参加者:L 須藤 SL 大嶋 高橋仁 渡辺 斎藤

行動記録:<天気快晴>熊谷 6:30=花園 IC=渋川 IC=登山口 8:00-獅子岩 10:00=柳木ヶ峰 11:00=子持山頂上 11:25/12:10=浅間 13:40-登山口駐車場 14:50=熊谷 16:30

熊谷を予定通り出発、途中川本道の駅にてメンバーと合流、総勢5人。関越道を利用し約1時間で登山口駐車場に到着、先行車輛1台あり。身支度し、出発。整備されているしっかりした木道を進む、約十分後、屏風岩の足元に到着、祠に今日山行の無事を祈る。ここから一般山道となり、9時に小休止を入れる頃、人工林らしき杉林が終わり広葉樹林帯に入る。山道は上毛三山に数えられるだけあって良く整備され比較的歩き易い。

9時45分に岩山頂上に到着、赤城山の雄姿が眼前に、その左に広がる関東平野の眺めが素晴らしい。この岩山のすぐ隣が獅子岩、荷物を置いて獅子岩へ、梯子とチェーンを利用して獅子岩頂上に上る。小休止後、岩山に戻って出発、11時に柳木ヶ峰に到着、ここを左方面に進む。この辺からミツバツツジがあちらこちらに目に入る。ダテカンバ、シダ類、ミズナラ、コナラ等々の新緑の中を進む。11時25分子持山山頂(1296m)に到着した。今日は薄っすらと霞が掛かっているが、穂高連峰・至仏山等が良く見渡せる。12時10分出発、アップダウンを繰り返して13時40分に浅間に到着、小

休止後下山開始。下山途中左奥側に先程登った獅子岩が、その下方に屏風岩が見える。ここから見る獅子岩は四方断崖絶壁で、我々がよく登ったなーと感心する程、今思うと怖——い感じだ。

14時50分に下山、今日は快晴無風だったが、午後になって心地良い微風になり、快適かつ楽しい一日でした。

初級沢登り 秩父尾ノ内沢

横尾明彦

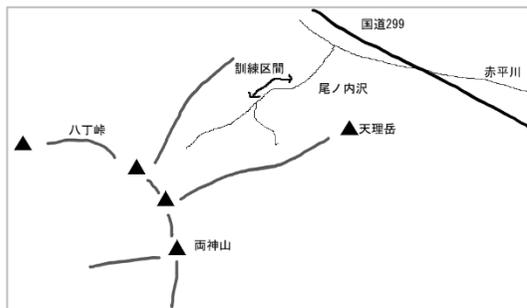
山域沢名:奥秩父山系・赤平川・尾ノ内沢

期日:2019年6月16日(日)

参加者:CL 浅見 SL 木村 横尾

行動記録:かわもと道の駅 7:00=尾ノ内自然ふれあい館 8:30/9:00(入渓)→一番滝(迂回)9:30/10:15→井戸沢出合 11:05→スズノ沢出合(標高 660m 地点) 11:45/12:20→(遊歩道)→ふれあい館 13:05→(懸垂下降訓練)→尾ノ内自然ふれあい館 15:00=かわもと道の駅 17:30

<天気:快晴>



私としては初めての「沢登り」体験であった。時間が経つのを忘れるくらい夢中で沢(岩と水)と格闘し、今までに経験したことのない視点から自然を感じることが出来、「こんな世界があったのか！」と感動した密度の濃い山行だった。

尾ノ内自然ふれあい館に到着すると、眩しいくらい快晴で絶好の沢登り日和。沢登り装備を装着して出発。駐車場から少し下って沢に降り訓練開始。浅見さん、木村さんの後に続いて恐る恐る沢靴で水の中に入ると、いきなり靴の中が水でびしょり(当り前の話ですが)。「そのうち気持ち良くなるから」と言われたが、半信半疑で後を付いて行く。少しすると確かに慣れて濡れた足が気にならなくなった。徐々にゴツゴツし



た岩が出てきて、足の置き場に迷っていると先に行く2人にドンドン離されそうになり、とにかく遅れまいと必死で前に進んだ。30分ほど進むと遊歩道の吊り橋とその先に氷柱で有名な一番滝が見えてきた。大きな岩と急流に阻まれ、一旦陸に上がって迂回することになった。その際、急な崩れやすい斜面をロープで確保されながらのトラバース(訓練ではない、本気の!)や、待機中にセルフビレイを取ったり、遭対装備がこういった場面では確実に役に立つことが分かった。

一番滝を過ぎ遊歩道を下りて、沢登り再開。さっきよりも大きな岩が目立ってきた。岩をよじ登り、腰まで水に浸かり、慎重に前に進む。陸上の登山道と違い、沢は人が付けた道が無いので自然の中を自分たちでルートを探して進んでゆく。少し気持ちの余裕が出てきたのか周りの景色が目に入ってきた

た。木漏れ日が水面で反射されてキラキラしている所もあれば、高い崖の暗い影で深く沈んだ所もあり変化に富んでいる。目線が水面に近いので岩や岩壁が大きく見え、自分が自然に呑み込まれたような(自然の一部になったような)不思議な気持ちを味わった。

やがて目的地スギノ沢出合に到着。細かく途中の景色を覚えていられないくらい夢中で尾ノ内沢を遡上したおおよそ2時間半がとても短く感じられた。昼食後遊歩道を通り、歩いてきた沢を見下ろしながら「こんな所を歩いてきたんだ」と感慨深く下山した。尾ノ内自然ふれあい館に戻り、今度は懸垂下降訓練。駐車場から少し下った斜面を利用して実施。最初は落差約10mの崖、続いて落差約15mの崖で訓練を行った。歩道脇の大きめの樹木の幹にロープを掛けて、初めてエイト環を使った懸垂下降を体験した。ロープの持ち方や足の移動方法について説明を受けた後、補助ロープで確保してもらいながら下降。4年前に登山学校で訓練を受けて以来なので少々不安はあったが、ロープで確保されていることもあり、落ち着いて訓練することが出来た。ロープワークなどの実地訓練は、経験(回数)がものをいうのもっと頻繁に実施した方が良いと思った。

鉢伏山・高ボッチ山

高橋武子

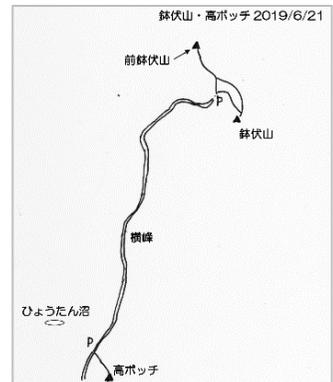
山域山名:長野県 鉢伏山(1929m)高ボッチ山(1665m)

期日:2019年6月21日(金)

参加者:L 高橋仁 SL 須藤 並木 新井勇 軽石 大嶋 高橋武 黒沢 豊島 赤坂

行動記録:熊谷 6:00=佐久南 IC=岡谷=高ボッチスカイライン=鉢伏山荘 10:25/10:35 - 前鉢伏山 10:55/11:00 - 鉢伏山(昼食)11:35 /12:30 - 鉢伏山荘 13:05=高ボッチ駐車場 13:20/13:25 - 高ボッチ山 13:30 /13:45 - 高ボッチ駐車場 - ひょうたん池 14:15 - 高ボッチ駐車場 14:50=熊谷 18:30 <天気:晴れ>

鉢伏山のなだらかな山頂付近は草原となっていて、展望は抜群というが、雲が多く遠くまでは見られそうもないが、レンゲツツ



ジを期待しつつ向かう。高ボッチでレンゲツツジが期待通りに咲いているのを車窓から見つつ、まずは鉢伏山の方へと向かう。途中、花は終わっていたがズミの群落があり、これも咲いている時に来たいと話し合う。前鉢伏山(1836m)ではレンゲツツジが丁度見ごろで斜面が赤く染まり美しい。鉢伏山では咲いてはいるもののやや早め、場所によっては蕾がびっしりとついているところがあり、咲いたらさぞかし見事だろうと思われた。こちらではズミの花が残っていた。ミツバツチグリ、キンポウゲも足元に咲いている。頂上では鉢伏権現にお参りしてから展望台に細い梯子で登る。やはり遠くは見えず、乗鞍岳の雪渓が雲の中にかすかに見えるだけで、あとは近く的美ガ原が見える。王ガ頭のホテルも見える。下には松本市街、松本城も見えることとなっているがはっきりしなかった。下りは若山牧水・喜志子夫妻の歌碑の前を下る。

高ボッチでは見落としそうなほど小さくてかわいらしいスズランとヒメイズイを見つけた。ここからは霧ヶ峰、北八ヶ岳、そして眼下に諏訪湖を望む。キジ、カッコウが鳴く。一度駐車場に戻り、ひょうたん池へは木立の中の路を下る。サラサドウダン、レンゲツツジなど咲いている。ひょうたん池では少ないながらクリソウ、サクラソウ、アヤメが咲いていた。花を見ながら、山登りでなくまさにハイキングといったところで楽しかったです。有難うございました。



北海道花旅

駒崎裕美 新井浩二

山域山名:北海道暑寒別岳、大雪→十勝岳
縦走

登山形態:無雪期テント、避難小屋泊縦走

目的:北海道の花旅

期日:2019年7月6日(土)→7月14日(日)

参加者:新井浩 駒崎

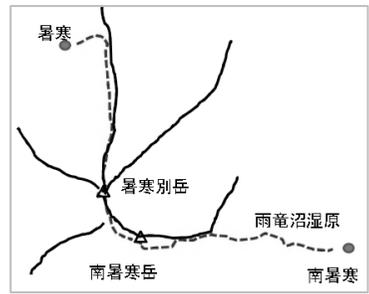
行動記録:

7/6(土)<天候:晴れ>

羽田 8:20=新千歳空港 9:55=札幌観光
16:10=暑寒荘 18:55

今日は移動日。家を5時前に出て、JR、モノレールを乗り継ぎ羽田空港にちょうど7:00に着いた。千歳空港行きの飛行機は

予定通りに出発し、9:30過ぎには眼下の海原に北海道の陸地が見



えてきて感激。定刻に千歳空港に着き、直ぐに札幌まで電車移動。札幌駅の駅ビル内でガス缶を一つ買う。夕方まで時間があるので、札幌観光。大通り公園まで歩き、テレビ塔のところではまずはラーメン。その後焼きトウモロコシとソフトクリーム、時計台と観光客になりきる。ただしザックは背負ったままで。駅に戻り、夕食を仕入れて、増毛までのバス「はぼろ号」に乗る。バスの中で買った弁当を食べて、旧増毛駅に18:30着。そこから頼んであったタクシーで暑寒荘まで。約20分で着く。暑寒荘は山小屋で無料。中に入ると、先客が10名ほどがおり宴会中でちょっと騒がしい。中は三階建てになっており、誰もいない三階に荷物を下ろす。直ぐに一階に降りて、明日の行動用の水を煮沸してから冷ますの繰り返しで用意する。小屋の中には沢の水が流されており、エキノコックス対策で煮沸が必要だ。用意が出来たころには、みなさん部屋に引き揚げて静かになり、我々も三階に上がり明日に備えて早めに寝ることにする。(新井浩記)

7/7(日)<天候:晴れ>

暑寒荘 4:30→5 合目 6:40→滝見台 7:40
→扇風岩 8:25→暑寒別岳 10:20→南暑寒岳
14:25→雨竜沼湿原 16:00→南暑寒荘
18:30

3時起床、朝食は前日に買ったもので簡単に済ませて4時半出発する。樹林の中を

進むが、しだいに虫がまとわり付くようになってくるので、ハッカ油で対応する。つつじの木がないつつじヶ丘を過ぎ、佐上台、3合目辺りになると低木になり眺望の良い場所が出てくる。ダケカンバ帯になり6合目からは笹とハイマツが多くなる。マイズルソウやゴゼンタチバナが見られる。その先の滝見台は展望良く暑寒別岳から伸びる尾根にある西暑寒別岳中腹にかかる滝が小さく見える。少し下るとフギレオオバキスミレ(固有種)が見られる。葉がシソの葉のようにギザギザしている。ツバメオモトも終わりに近いが咲いているのを見つける。8合目の扇風岩は展望良いがガスが少しわいてくる。チシマギキョウを岩間に見つける。下がった湿ったところにはイワイチョウ、ほぼハイマツ帯でハイオトギリ、ウコンウツギ、ミツバオウレンが見られる。9合目辺りは開けた台地になっていてお花畑が広がる。ここだけ咲いているマシケゲンゲ、レンゲソウの色が濃くて花が多く付いている感じです。他にミヤマアズマギク、ミヤマオグルマ、チシマゼキショウ、エゾノハクサンイチゲ、ツマトリソウ、チングルマ(終わりに近い)などと共に、熊の糞(出没情報有り)。花々に見とれてゆっくりしてしまう。直に箸別コースと合流するとミヤマオグルマが多く見られるようになり、山頂まで



の雪渓越しの斜面はハクサンイチゲとシナノキンバイが斜面いっぱいになりとてもきれいです。チシマフウロ、エゾヒメクワガタも咲いています。お花畑が終わると頂上に着く。



展望良くお昼休憩をとり南暑寒岳を目指す。下る斜面もハクサンイチゲとシナノキンバイのお花畑が見事で、下りきったところにはフギレオオバキスミレ、ショウジョウバカマの群落がある。雪渓上をトラバースに進むとシラネアオイ、雨竜沼湿原を遠望。この後は一昨年歩かれていなかった為か(雨竜沼に通じる林道が通行止めだった)南暑寒岳の間は崩壊地もあり登山道は笹藪です。やぶの中にヒメイチゲを見つける。南暑寒別も展望良くそこからは普通の登山道になり下り切ると展望台を通り木道が敷かれた広大な雨竜沼湿原に出る。シナノキンバイ、ヒオウギアヤメ、ニッコウキスゲ(エゾゼンテイカ)、ワタスゲが見頃です。湿原の中で休憩をとり、途中白竜の滝を谷に見て南暑寒荘に到着。宿はとてもきれいで電気、IHコンロ、鍋、ヤカン、まな板があり無料です。

(駒崎記)

7/8(月)<天候:晴れ>

南暑寒荘 7:55=雨竜町 BS8:35=JR 深川

駅=JR 旭川駅 13:10=旭岳 RW14:50=旭岳温泉白樺荘 15:00

今日は移動日でゆっくりと出来る。タクシーは8:00に迎えを頼んで有ったが、7:30頃に来たので、あわてて朝食をかき込む。8時前にタクシーに乗り込んで、雨竜町へ向かう。約40分で雨竜町バス停に到着。町の中心部で有るが、まるで郊外のように家もまばら。9:07のバスを待っている間に、近くのコンビニ(セイコーマート)にてコーヒーを飲む。バスは深川駅前まで行き、そこからレトロなJR函館本線に乗り旭川駅まで移動。

駅ビルの中で昼食を取り、13:10 発の旭岳 RW 行きのバスに乗り。1時間40分も揺られて旭岳 RW 駅に到着。そこでガス缶を5缶買う。白樺荘へ歩いて5分ほどで到着。きれいな宿だ。YHも兼ねているらしい。外国人のお客さんが多い。あらかじめ送って置いた大雪山縦走のための食料などの荷物を受け取る。さっそく3日ぶりの風呂(もちろん温泉)に入り、夕食となりました。(新井浩記)

7/9(火)<天候:晴れ>

白樺荘 8:00→旭岳 RW1100m8:15=姿見駅 1600m8:30→旭岳 2291m11:40→北海岳 2149m14:15→白雲岳 2230m16:45→白雲岳避難小屋 1990m18:00

しばらく満足な食事が出来ないの、宿でしっかりと朝食を食べて出発。ザックが超重い。20kgは超えているはず。旭岳ロープウェイであつという間に1600mへ。直ぐに姿見の池に向かう。早くも花が両側に咲いている。エゾコザクラ、チングルマ、キバナシクナゲなど。なかなか足が進まない。旭岳の山腹からは白い噴煙が上がっている。姿見の池をみてから旭岳の登りにかかる。快晴の天気ですぐまで見渡せる。一時間ちょ



とで旭岳の山頂。にぎやかで、みなさん休んでいる。眼下には姿見の池、ロープウェイの駅が小さい。進む方向を見ると、これから歩く稜線がずーっと見渡せる。忠別岳、トムラウシ山がよくわかる。遠くに見えるのはオプタテシケ山だろうか。ここから裏旭キャンプ地に向かう。大きな雪渓を下るとキャンプ地で、足元にはキバナシクナゲが絨毯のように咲いている。ミネズオウ、イワウメ、エゾツガザクラが満開だ。間宮岳分岐を過ぎ、松田岳を通過して北海岳に到着。ここは黒岳に向かう道との分岐だ。北側には御鉢平が眼下に広がっている。ヒグマの住処があるらしい。足元の礫地には小さな黄色のエゾタカネスミレがぽつぽつと広範囲に咲いている。

ここから白雲岳に向かう。相変わらず足元にはお花畑で足が進まない。おおっ！キバナシオガマ発見。今までに見たこともない黄色のシオガマだ。北海岳から白雲岳の間は特にお花畑がすごかった。今まで見た花はもちろんだが、エゾオヤマノエンドウの紫の小さな花が絨毯のように咲いている。エゾコザクラの群生も見事だ。キバナシクナゲは見あきるほど広がって咲いている。中にはピンク色のものまである。超スローペースの歩みでやっと白雲岳分岐に到着。ザックをデポして身軽になって白雲岳に向かう。

岩場の斜面には、ミネズオウ、イワウメ、エゾツガザクラの絨毯、キバナシクナゲの群落とエゾノハクサンイチゲが咲き誇っている。残雪を登り岩場を通過して白雲岳山頂に到着。ここから旭岳方面を見ると、残雪が縞々になって何とも言えない景観。これが見られただけでも登ってきた甲斐があった。



ザックを回収して、白雲岳避難小屋へ向かう。エゾコザクラの群生が夕日に当たってピンク色日光っている。眼下に避難小屋が見えてきた。隣にはカラフルなテント群。避難小屋手前の残雪からの水の流れにはエゾノリュウキンカの群生が際立っていました。小屋でテント泊の手続きをして、テント場の中心にテントを張り、あたりを散策。紫色のミヤマアズマギクがかわいい。キバナシオガマ、ホソバウルップソウも咲いている。夕日のあたるテント場で夕食を取り、就寝。

7/10(水)<天候:晴れ>

白雲岳避難小屋 4:55→高根ヶ原分岐 6:15
→忠別沼 8:20→忠別岳 9:20→五色岳
11:15→化雲岳分岐 13:20→北沼分岐
17:20→南沼キャンプ地 18:00

3時起床で朝食を取り、テントを片づけて、5時前に出発出来た。今日もいい天気だ。行く手には忠別岳とトムラウシ山が見える。高根ヶ原は広大な草原のようで、朝陽があたる中を気持ちよく進む。全域にわたって花が咲いている。チシマキンレイカ、コマクサやイワブクロ。時折カラフトゲンゲであろう紫の花も。特筆すべきはホソバウルップソウの群落。礫地の草原に群落を作っている。

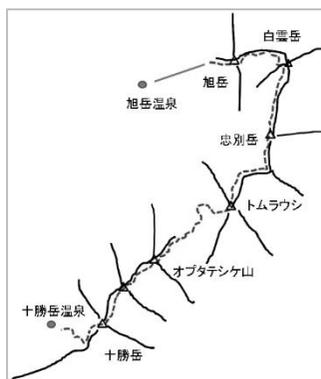
その間にはキバナシオガマなどが咲いており、まるで夢のよう。エゾツツジやトカチフウロも混じって咲いている。やがて忠別沼は、チングルマの群生が迎えてくれた。少しの登りで忠別岳。そこの標柱にはホシガラスが留っておりいい絵が撮れた。山頂からの眺めは超一級で、五色岳、化雲岳の残雪の縞模様の向こうにトムラウシ山が素晴らしい。山頂を越したところにはエゾノハクサンイチゲのお花畑。さらに次々といろいろな花が咲いている。ハイマツ帯ではカラフトイソツツジ、草原ではミヤマオグルマ。ガレ場ではクモマユキノシタなど。リシリリンドウも咲いていました。イデリンドウに似ています。急な登山道を登りあげると五色岳。ツアーの団体もいました。一休み後に化雲岳に向かう。しばらくはハイマツの中を歩くが、キバナシクナゲやチングルマの花街道が続く。やがて広大な草原となり、木道が敷かれている。行く先には化雲岳が見えるようになり、両側にはホソバウルップソウを中心にキバナシクナゲ、チングルマのお花畑が限りなく続く。リシリリンドウやクモマユキノシタ、エゾコザクラ等の群生が次々に現れ、歩む足が進まない。化雲岳を巻く道に入り、神遊びの庭と呼ばれるところを通過し、ヒサゴ沼

への道を左に分けて日本庭園に入る。大きな岩の間に木道が敷かれ、チングルマの絨毯の中を進む。

トムラウシ山の北側の北沼までは大きな岩の間を進むようになり、雪渓地帯ではルートを探しながら進む。前方にあるトムラウシ山は残念ながらガスの中。かなり険しい岩塊地帯をペンキ印を探しながらヘトヘトになってやっと北沼分岐。ガスが濃く風が出てきて寒い。北沼にはまだ残雪が多い。トムラウシ山へはあきらめてあす朝に登ることにして、トラバース道で南沼へ向かう。大きな岩の間を進むが相変わらずお花畑は続く。エゾノハクサンイチゲのお花畑を進むとやっと南沼キャンプ地が見えてきた。10張り程度のテントが見える。テント設営が終わったのが18時過ぎ。今日の行動時間は13時間を超えて疲れたが、素晴らしいお花畑をたらふく堪能できた。

7/11(木)<天候:晴れ>

南沼キャンプ地
5:15→トムラウシ山 5:40→南沼キャンプ地
6:45→三川台
8:40→ツリガネ山 10:40→コスマヌプリ 13:40→双子池キャンプ地 16:45



3時起床、朝食を食べ、テントを撤収し、ザックを於いてサブザックでトムラウシ山に向かう。今日もいい天気だ。荷物が軽いの



で、走るように登れる。30分かからずにトムラウシ山の山頂へ到着。360度の展望だ。二日間歩いてきた道、これから三日間歩く道が手に取るように分かる。雄大な景色を十分楽しんだ後、キャンプ地に戻り重いザックを背負って出発。三川台へは丘の上を空中散歩するような感じの道だ。足元にはチングルマとエゾノハクサンイチゲの一面のお花畑。見渡すと残雪が美しい山々。ツリガネ山とコスマヌプリは険しい山道。ハイマツのなかを登ったり降りたりで苦しい。

さらに苦行が待っていた。1時間以上に及ぶ笹藪だ。背丈を超える笹の中を、足元も見えずに掻き分け掻き分け進む。時折開けたところで休む。時折、オプタテシケ山が見える。オプタテシケ山の麓に今日のキャンプ地がある。近づいては来るが、笹藪は依然続き、いい加減にいやになったところに沢音がするキャンプ地に着いた。誰もいない。キャンプ地といえども何もなく、少しの平らなところがポツポツとあるくらいだ。残雪からの水は豊富だ。朝からの行動時間も12時間を超えヘトヘト。テントを設営しのおんびり夕食。昨日から行動を前後しているイタリア

人とタイ人のカップルも遅れて到着。お互いの健闘をたたえあう。今日も素晴らしい展望とお花畑、激笹藪と変化のある楽しい一日でした。

7/12(金)<天候:晴れ/風雨>

双子池キャンプ地 5:25→オプタテシケ山 8:15→ベベツ岳 9:55→美瑛避難小屋分岐 11:05→美瑛富士分岐 12:05→美瑛岳分岐 13:10→平ヶ岳 15:40→十勝岳 16:10→上ホロ避難小屋 17:15

三時起床。ちょっと雲が多めだがいい天気。4:30 過ぎに朝日が昇る。5 時過ぎに出発。いきなり急登で始まる。残雪を踏んで登るが斜面が急で危ないので、残雪のへりを足場を確認しながら登る。途中振り返ると、トムラウシ山が遠くに見える。雲海も素晴らしい。チングルマやエゾノハクサンイチゲノの群生地をいくつか過ぎ、標高差 650m 程だが 3 時間近くかかってオプタテシケ山に到着。先客 2 名おり、写真を撮ってもらった。先客はこの山頂からの景色をずっと眺めていた。進む先を見ると、美瑛岳、十勝岳などがそびえている。のんびりしたいが、先が長いので進むことにする。

お花畑は相変わらず続いており、ベベツ岳を通過して、美瑛岳避難小屋の前を通り、美瑛岳の分岐に着く。雲行きがあやしくなり



風と小雨がぱらついてきたので、雨具の上着を着る。美瑛岳はパスして十勝岳に向かう。茶色の地肌が荒々しい、今までと打って変わった山容である。火山礫ではあるがメアカンキンバイやチングルマの群生が見られる。溶岩の岩稜地帯を超えなだらかな平ヶ岳に着く。風がものすごく寒い。目の前には十勝岳がとがっており、ガスで見え隠れしている。ザクザクと火山礫を踏みしめて、強風の十勝岳山頂。残念だが、展望はよくない。写真だけ撮り上ホロ避難小屋に向かう。尾根道は強風との戦いで景色を楽しむ余裕なし。小雨も降りだし、逃げ込むように避難小屋へ入る。ザックを置き、水場へ水汲みに行く。100m 程離れた残雪の末端で細い流れからコップですくいとる。避難小屋は 2 階建てで、先客のいる 2 階に入り、夕食。気温は 12 度くらいで寒かった。



7/13(土)<天候:風雨/曇り/晴れ>

上ホロ避難小屋 6:25→上ホロカメトック山 6:45→上富良野岳 7:00→安政火口 8:30→十勝岳温泉凌雲閣 9:00/13:37=上富良野駅 14:20=富良野駅 14:40=富良野観光=上富良野泊

4 時起床。朝の気温は 7 度。外は雨。上下雨具を付けて、気合いを入れて外にでる。富良野岳に登る計画であったが、下山する

ことにして、最短コースで十勝岳温泉に向かう。安政火口を通して、十勝岳温泉凌雲閣に9時着。上富良野行きバスの時間に余裕があるので、温泉に入る。赤茶色の温泉で一息入れる。昼食を取り4時間ほどのんびりして、我々だけ乗ったバスは一路上富良野へ。上富良野から富良野駅へ自動車移動。トップシーズンだけあって観光客が非常に多い。富良野駅でレンタカーを借りて、富良野観光。お決まりの富田ファームで人工のお花畑とラベンダーソフトクリームを食べて、上富良野の日の出公園へ。北海道の観光客となりました。

7/14(日)<天候:晴れ>

上富良野=富良野観光=旭川空港 19:50=羽田空港 21:35

朝5時に起きて、「日の出公園」を散歩。ラベンダー畑が見事だ。朝食後に「なかふらのフラワーパーク」へ。冬はスキー場らしく、リフトが稼働している。ここもラベンダーが満開で見事。ラベンダーの摘み取りをやっていたのでやってみる。700円で小さめのコンビニ袋に満杯に摘み取る。いいお土産だ。深山峠に移動し、今朝とれたてのトウモロコシを食べ、観覧車に乗る。続いて「四季彩の丘」に行き、丘陵のお花畑を見る。すごい！一面のお花畑。ライン状に色とりどりの花が植えられており、トラクターバスが走っている。外国人の観光客が圧倒的に多くびっくり。それに、これまで行った施設は全部タダ。入園料なし。お土産等で稼いでいるのだろう。この後は、ケンとメリーの木とか親子の木、セブンスターの木などをみて、旭川空港へ。お土産を買って、機上の人となりました。



白山

豊島千恵子 橋本義彦 須藤俊彦

山域山名:北陸・白山

目的:白山の自然、花を楽しむ

期日:2019年7月8日から10日まで

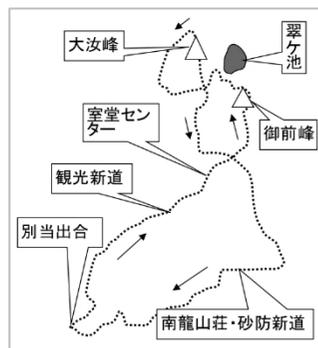
参加者:L 橋本 須藤 豊島

行動記録:

7月8日(月) <天候:曇>

熊谷駅 7:15/7:31 あさま 601号=長野
8:38/8:45 かがやき 503号=金沢駅 9:51/
レンタカー10:15=別当出合駐車場 12:05-
休憩舎 12:20/12:40-別当坂分岐 14:10
/14:20-殿ヶ池避難小屋 16:00 /16:15-
馬のたてがみ 17:40-黒ボコ岩(砂防新道
分岐)18:15-室堂ビジターセンター18:45

金沢駅近くの Times でレンタカーに乗り換え出発。平日はマイカー規制が無く登山口の別当出合まで入れる。駐車場から10分ほど登山道を上ると、バス停のある休憩舎があり、ここで昼食を済ませる。鳥居をくぐり改



めて登山道に入る。最初から急登。ササユリ、クルマユリがぽつぽつ咲いている。サンカヨウは既に青い実を付けている。20分ほどで、観光新道の道標に出る。尾根まで標高差約400m。樹林の中の急坂をひたすら登る。暑い！所々、ピンク色の花が散っている。見上げるとタニウツギだろうか？まだまだ花が残っている。急斜面の中ほどでトラバース気味に進み、また急斜面を切り切るとやっと尾根上の別当坂分岐に到着。私事だが途中から足が攣り何とか騙しながら登る。水分不足、体力不足…。この後も頻りに襲われ、「山と高原地図」のコースタイムをだいぶオーバーしてしまう。

ここから尾根歩き、といっても室堂まで標高差700m以上あり急登はまだ続く。東に見えるはずの別山は雲の中、その手前の尾根や不動滝がずっと見えている。階段状の急登を登り、巨大な岩が絶妙なバランスの仙人窟の隙間を抜けると、ハクサンタイゲキが黄色い花を付けている。何度か休みながら殿ヶ池避難小屋に辿り着き、室堂センターに遅れを連絡しゆっくり休む。

尾根の東側の登山道を登る。キヌガサソウの群落やサンカヨウ、イブキトラノオ…が咲き、登るにつれ尾根の斜面がミヤマキンポウゲやシナノキンバイの花畑になってくる。尾根筋の少し手前で「馬のたてがみ」の道標にぶつかる。もうひと頑張りだが結構きつい。30分ほどで砂防新道分岐に出る。少し休憩して、室堂0.9kmの道標を左に折れるとぽつと弥陀ヶ原が開け、木道が続いている。ほっとしてコトコト進むが、エコーラインの合流点から先は

最後の登り。気の緩みか、またもや足が攣る。通ってきた木道と西側の大きな雪渓を振り返りながら休憩。気を取り直して登り始めるが、なかなか建物が見えて来ない。室堂センターが突然現れて到着。

宿泊手続きを済ませ、我々だけの夕食をしっかりと頂く。宿泊棟は40人の女子部屋に2人と言う贅沢。今日はこれでおしまい。(豊島記)

7月9日(火) <天気薄曇り後雨>

室堂センター7:20－御前峰 8:20/8:35－池巡りコース－大汝峰 9:55/10:20－千蛇ヶ池・昼食 11:35/12:15－室堂センター13:00 同所泊

事前の天気予報では3日間のうち1日位は雨が降りそうだが、出発時は室堂センター北に聳える御前峰は、曇り空ながらはっきりと頂上が見えている。今日も天気は曇りで持ちそうだ。支度を整え、3人で出発する。社務所の横を頂上目指し進むと、クロユリが咲いていて、群落だ。八畳一間ほどがクロユリだ。でも、ここは雪解けが遅かったのか蕾だ。そこを過ぎ、石敷きの道で息を荒げながら登る。イワカガミのピンクの花がかわいい。小さな背丈ほどの灌木から、次第にハイマツになり頂上付近はごつごつの大岩だ。白山神社が頂上少し南に建って



いる。脇を通り御影石でできた霊峰白山御前峰に到着する。誰もおらずひっそりとしている。周囲には雲も無くすっきり見える。南の別山に残雪が残り、その上に雲が湧き、いい景色だ。東には剣ヶ峰、そしてこれから歩く池が青く見える。

しばらく休憩して、池巡りコースを辿る。100m ほどの多い道を下る。左に見える油ヶ池は雪溪の白い壁を写しこんでいて青い。水面下にまで雪溪が続いていてそこは白い雪溪に水が青い。水面に水紋が見える・魚がいるはずはないが・・。観察すると、雪溪が水面下に入り込んでいる部分に沿って泡が水中から、出てきて水紋を作っている。解ける雪溪の空気だと納得する。近くにミヤマキンバイが咲いている。雪溪を歩き、翠ヶ池に行く。この付近の池は緑っぽい青だ。火山の火口湖だ。そして大汝峰の南側の大雪溪を見ながらその登り口に行く。平坦で、ツガザクラ、アオノツガザクラ、ヒメクワガタも咲いている。今日は池巡りコースだが、大汝峰まではまた一汗だった。ここでコーヒータムにする。まだ大観峰も見えている。登ってきた甲斐がある。一休み後、下山をしようと進むと、標柱の行き先と方向が違う。稜線を北に向かう踏み跡がある。これだと思い進むと次第に踏み跡は無くなり・・、地図を見直す。等高線が南に入り込んだ部分に登山道がついている・・ということとはさっきの標柱の北側を見ると北に道らしきものが見える。さっきの道を辿り、少し進むと北に下る道があり、下る。徒中から大汝峰西山麓を回る感じで進んで行くと黒々とした大きな糞がある、熊の糞に違いない。注意しながら進む。

千蛇ヶ池で昼食とする。池は雪溪に埋も



れて見えない。穏やかな天気感謝しながら、昼食にする。少し寒い位の天気なので、熱いカレーうどんが美味しい。昼食後、室堂センターまでは40分なので天気は曇りでもつかと歩く。チリチリとカヤクグリがさえずる。雨がぽつぽつ落ち始めた。あと10分位なので雨具を着けないで歩く。少し湿った斜面にさしかかると、やっとハクサンコザクラが現れる。周囲を見回すと、結構咲いている。ハクサンの付く高山植物はたくさんあるが、その代表格の美しい花だ。花が小さいので近づいて写真を撮る。そして室堂センター着。2泊なので余裕のある池巡りができた。(橋本記)

7月10日(水) <天気晴れ>

白山室堂 6:25 - アルプス展望台 7:05 - 南竜ヶ馬場 8:00 - エコーライン分岐 8:20 - 砂防新道分岐 8:35 - 甚之助避難小屋 8:55 - 中飯場 10:15 - 別当出会 10:55 - 駐車場 11:05 = 白峰温泉 11:45/13:15 = 金沢駅 14:40/16:09 = 北陸新幹線利用、高崎駅乗換え = 熊谷駅 19:00

明け方3時の空は前夜に比べ星が見えにくかった。そして2時間後の風景には雲海に真っすぐな煙を吐く青い御嶽山があった。朝食をとり6時25分出発。下山ルートは山小屋スタッフに確認の上、少し長い为好天気でもあり、東側の展望がきく展望歩道

(登山道です)を選択した。平坦なハイマツ帯を進むと道は崖沿いになり雄大な風景が広がった。名も知らぬ岐阜の山々、その向こうに御嶽、乗鞍そして北アルプスの山群が並ぶ。ステップが切つてある急な雪渓をくだるとそこはアルプス展望台であった。表示盤があり主な山名が刻まれていたが北アルプスの山々は薄雲により識別が出来なかった。立派な山容の別山(ハクサンイチゲが咲く山)を正面に見ながら山腹を巻くように下ると谷筋に入りキャンプ場の有る南竜ヶ馬場に到着。ここの休憩所にはトイレもあり、宿泊する事も出来そう。

ハクサンコザクラの群生地などを楽しみながら木道を進むとエコーライン分岐に到着。薄日が差す中、ミヤマキンポウゲなどの黄色の花、イブキトラノオ、カラマツソウなどが咲く急な斜面を多くの人が登っている。ここから急に道が登ってくる人が増え、賑やかになる。砂防新道分岐を過ぎると樹木帯に入る。甚之助避難小屋の裏手には蛇口がついた水場があり休憩する。正面に一昨日苦労した観光新道の急な尾根が見える。トイレのある中飯場過ぎのサンカヨウの暗紫色の実や赤とんぼを見ると高度差を実感。よく整備された道を快調に下り、つり橋を渡るとそこは出発点の別当出合、皆で拍手し鳥居をくぐった。

入浴を予定していた市ノ瀬の永井旅館は水曜休館日、従業員に教えて貰った白峰温泉の総湯(650円)で3日間の汗を流した。近所で昼食を済ませ、金沢に予定より早く戻る事が出来た。家族へのお土産と飲み物を手に予定の列車で3日間を思いつつ午後7時丁度に熊谷駅に到着した。梅雨時期の中、一度も雨具を着ける事無く、穏やかな天候に恵まれたこと、ハクサンイチゲ以外

の多くの開花した花を見る事が出来た事、変化富むルートを色々歩けた事、そして山小屋が空いていたことで、大変なこともありましたが、楽しく満足できた白山山行になりました。(須藤記)

池の平湿原

黒澤孝

山域山名:高峰高原池の平湿原

期日:2019年7月10日(水)

参加者:L相澤 新井 軽石 高橋 黒澤
行動記録:<晴れ>

熊谷駅南口 6:30=花園 IC7:10=小諸
IC8:30=池の平 P9:00/9:15=池の平湿原
周回 9:30=忠治の隠岩 10:00=三方ヶ峰
10:10/10:20=分岐 10:55=見晴岳 11:00
/11:40=分岐 11:45=雲上の丘 11:55=雷
の丘 12:05=村界の丘 12:10=池の平
P12:20/12:40=海野宿 13:15/14:45=東部
湯の丸 IC14:55=花園 IC16:20=熊谷駅南
口 17:00

例年になく晴れ間の少ない今年の梅雨。出かける時はちょっと心配な空模様だったが、山は雨の心配がないという現地の天気予報をあてにして出発する。碓氷峠のトンネルを抜けると久しぶりに見る青空と太陽の眩しい光。久々の青空に思わず感声をあげてしまった。しかし浅間山、八ヶ岳など周りの高い山々の頂は、皆雲に覆われていて見えない。山では雨に降られることになるかなどちょっと心配したが、霧の中時々晴れ間の見える落ち着いた山行で済みまし



た。

池の平の有料 P に車を置いて出発。最初の緩やかな登りが下りとなり 15 分ほど進んだところで池ノ平湿原が見渡せる湿原の入り口に。湿原は左半分に木道が口の字に巡っている。真っ直ぐ進むと口の字の右辺を進むことになるので左に曲がって時計回りに逆コの字に湿原を周回する。忠治の隠岩の下で木道の十字路。右は湿原入り口から。左は三方ヶ峰へ。ここは直進して行き止まりの鏡池の展望テラスへ。テラスの周りはやめがきれいに咲きその背景は山の斜面にレンゲツツジ。先程の十字路に戻って右折。左手に忠治の隠岩を見ながら三方ヶ峰への階段道。火山礫の広場を過ぎると柵が周らされたコマクサの群生地、三方ヶ峰 2040m に到着。しばらくコマクサの写真を撮って見晴岳に向かう。

カラマツの林の階段道が続き開けた所にまたもやコマクサの群生地。三方ヶ峰のよりもこちらのほうが花つきがいい感じ。ここからちょっと進んだところで見晴歩道への分岐。ここから 5 分ほどで見晴岳頂上 2095m。雲が多く展望はありませんでした。40 分の昼食休憩。帰りは先程の分岐に戻って見晴歩道を下山。緩やかな上り下りでピークにはそれぞれ名前が助けられている。雲上の丘、雷の丘、村界の丘など。村界の丘から下り始めたところの斜面に今日一番のあやめの群生。ここから 10 分ほど進んで 12 時 20 分駐車場到着。本日の登山予定はこれで終了。駐車場の標高 2040m、池ノ平湿原が 2000m、今日の最高標高が見晴岳の 2095m で標高差 100m の楽楽登山でした。

下山がだいぶ早かったので帰りがけに海野宿へ寄り道。山は雲で展望はよくなかったが下に降りると晴れていて日差しが暑い

ぐらいいました。海野宿は平日で客が少なく貸切状態でゆっくり観光できました。

北岳

谷口武道

山域山名:南アルプス 北岳(山梨県・長野県)

期日:2019年7月12日(金)~14日(日)

参加者:L木村、谷口

行動記録:7/12 深谷(21:00)=芦安市営駐車場(24:00)

7/13 芦安 P(5:30)=広河原(6:40)→白根御池小屋(8:40)→小太郎山分岐(12:00)→肩ノ小屋(12:40)→北岳(13:30/13:40)→肩ノ小屋(14:30)

7/14 肩ノ小屋(7:30)→小太郎尾分岐(7:50)→大樺沢分岐(9:00)→白根御池分岐(10:30)→広河原山荘(10:50)

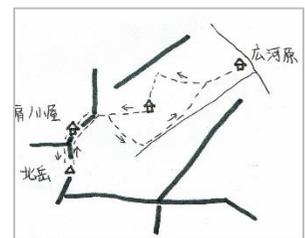
12日(金)

前泊の為、埼玉の深谷を 21:00 出発甲府昭和を降り、芦安市営駐車場に到着。

13日(土)

<天候:曇り>

車でひと眠りし、軽い朝食を取りバス停へ一人 1260 円を払



いバスに乗る。バスは大混雑程ではないが座ることは出来なかった。山道なので床に座って良いとのことで床に座り広河原へ、山道を進み到着する。味のある吊橋を渡り広河原山荘に到着する。山荘でトイレを済ませ、登山を開始する。最初、樹林帯を進み、歩いて行くと白根御池小屋前で小屋の人に止められる。何かしたか? 何かをして

いるのか？ 見ていると、ヘリで荷物を運搬していた。こんなに近くでヘリが飛んでいるのを見るのも珍しくヘリが 2 回 3 回と来るのを興奮し写真を撮った。

白根御池で逆さ北岳を撮り、美しい山を眺めながら、雪溪の横を進む。雪溪が終わり、草スベリへ進むとすぐにお花畑が広がった。壁面いっぱい広がっていてとても美しく咲き誇っていた。そこより雲の合間から富士山が見えた。素晴らしい絶景だ。居心地がよくそこで昼食。写真を撮り終え出発。すぐに小太郎分岐に着き小太郎山が良く見える。その先には甲斐駒ヶ岳も美しく見える。小太郎山も行くか？ と思いつつ予定通りに進んでいく。その先にも花の壁が続いている。肩ノ小屋に着いたのが 12:40 で少し早かったので明日の天候も気になりザックを背から降ろし北岳山頂へ。山頂にはガスがまだあったが素晴らしい眺望がそこには在りとても美しかった。往復 1 時間ぐらいで戻り、肩ノ小屋でお酒を飲みながら休憩をとる。16 時から食事となり、17 時には就寝。

14 日(日)
肩ノ小屋では 4 時まで熟睡し、4 時には、電灯が付き起こされる。雨音がすごく、今日の予定を立て直す。L より「今回はやめとく？ 降りる？」 少し駄々をこねたが、残りのもう 1 日も雨予報の為下山することに決定。出発は、5:30→7:30 に変更しゆっくりと出発準備する。

新しい予定通り出発し、肩ノ小屋を後にする。雨は、小雨だが下から吹きあがってくるように降ってくる。昨日のお花畑を通り過ぎ右俣コースに行く雪溪が所々に見える。7 月半ばにまだ雪が見える事の嬉しさと感動があった。雪を久しぶりに踏みながら下山する。



大樺沢二俣に着き小休憩、下山を開始するとポール先が無い！あとから降りてきた人に聞くと「雪溪の所にありましたよっ！」少し戻り発見し、引き続き下山する。雪解けのせいで川が良い勢いで流れている。大樺沢を下ると左岸側崩壊の為う回路を通る。ほぼ、沢を降るような感じで進んでいく。途中途中、足場板や丸太橋が置かれる。その上には、美しい滝、川が流れている。久々の登山で足が棒になりながら、広河原山荘到着。バスには満員の客が乗っている為、帰りはタクシーに変更。人が集まれば(9 人) 発車。1300 円なので 40 円高い。だが必ず座れる。バスよりも良いと思えた。

芦安駐車場に到着し、芦安駐車場の温泉に入る。露天風呂と内風呂の 2 つの湯船があるお風呂で 700 円だった。久しぶりの登山で北岳は、体にこたえたが山頂での景色や山頂到着までの道のりは、まだ梅雨も空けないなか、とても厳しかったが花あり、絶

景ありの楽しい山行になりました。帰りは 1 日早かったこともあり、下道で甲府市内→雁坂峠→秩父を抜けゆっくりと家路へ向かった。

本当は、間ノ岳、仙丈ヶ岳の縦走予定でそれが出来なかったのはとても残念だったが、又次回に期待し今回の山行を終わりにする。

川苔谷・逆川沢登り

関口裕子

山域山名:奥多摩山系・川苔谷・逆川

期日:2019年7月20日(土)

参加者:CL 浅見、SL 木村、新井浩、駒崎、関口

行動記録:かわもと道の駅 5:00=鳩ノ巣駐車場 6:40=鳩ノ巣駅 7:13=奥多摩駅 7:18/7:27=川乗橋 7:40→川苔林道 8:00→川苔谷下降点 8:40→懸垂下降訓練終了 9:50→逆川出合 9:30→大ダワ沢出合 11:30→終了点 12:30→ウスバ林道 16:00→大ダワ 16:20→鳩ノ巣駐車場 18:35=夕食バーミヤン 19:30=かわもと道の駅 21:00

<天気晴れ>

6月の初級沢登り(秩父尾ノ内沢)に参加予定していたが、仕事の都合で行けず、今回が初の沢登りとなった。溪流靴等の装備も見様見真似で装着。準備をして少し下降したところで懸垂下降訓練をした。7月の学習会「ロープワーク」の実践練習となった。

いよいよ沢に入ってしまった瞬間はとても気持ちよく雄叫びを上げたいほどだった。でもその



後はハラハラドキドキの連続。水の流れるが速く、沢底の石はよく見えないうえ、滑るし動く。1cm くらいの岩の出っ張りにやっと指先を引っ掛け次の一步を踏み出そうとするが、その足は水の流れに押し戻され前へ出せない。高巻きしても手をかける場所や足の置き場に苦労する。ロープで確保してもらったり、引き上げてもらったりしながら、なんとかついていった。

リーダーは終始、周り地形図を確認しながら進んでいく。前には大きな滝、横は崖なんて状況でも冷静に判断して進んでいく。地形図を読む力も沢登りでは絶対不可欠なのだった。沢登りはとても難しいことがわかったし、怖いとも感じたが、少しずつ教えて頂き、また挑戦したいと思った。





くさまくら 旅にしあれば (1)

瀧澤 健次

私は漱石の小説『草枕』が好きで、このところ年に一度は読み返しています。私の小さいカバンにはいつも文庫本の『草枕』が入っています。古い新潮文庫で、活字は小さい、紙はすっかり黄色く変色していますが、この感じがいいのです。

なぜこの小説が気に入っているのか。私は『草枕』は、「山旅」小説だと思うのです。わが山行報告風というと、「九州地方の峠越え・低山山行(温泉滞在型・マドンナ付)」という所でしょうか。

冒頭部分が特に有名です。「山路を登りながら、こう考えた。智に働けば角が立つ。情に棹させば流される。意地を通せば窮屈だ。とにかく人の世は住みにくい。」主人公の画工——いま風に言えば画描きでしょう——は、住みにくい人の世のしがらみに疲れて、この旅ばかりは「非人情」の旅にしたいと決めこみます。「非人情」とは、世俗を離れた境地とでも言ったらいいでしょう。

画工はこんな風に言っています。「苦しんだり、怒ったり、騒いだり、泣いたり人の世につきものだ。余も三十年の間それを仕通して、飽々した。(中略)余が欲する詩は(中略)俗念を放棄し、しばらくでも塵界を離れた心持ちになれる詩である。」

また「西洋の詩になると、人事が根本になるから、(中略)この境を解脱する事を知ら

ぬ。(中略)うれしい事に東洋の詩歌にはそこを解脱したのがある。採菊東籬下、悠然見南山(菊を採る東籬のもと、悠然として南山を見る)。只それぎりの裏に暑苦しい世の中をまるで忘れた光景が出てくる。垣の向こうに隣の娘が覗いている訳でもなければ、南山に親友が奉職している次第でもない。超然と出世間的利害損得の汗を流し去った気持ちになれる。」「汽船、汽車、権利、義務、道德、礼儀で疲れ果てた後、凡てを忘却してぐっすり寝込む様な功德である。」考えてみると、私が山行に求めるものは、まさにこれと同じものなのではないだろうか。

さらに良いところは、この小説世界が、非人情的で出世間的にテンポが遅く、静かなことでしょう。画工は温泉宿から散歩に出て、村の床屋で髭をあたって貰って帰ります。部屋に戻って障子も襖も開け放って、夕暮れの机に向かいます。広い宿は自分以外には人がいないかのように静かです。そんな場面……

「空しき家を、空しく抜ける春風の、抜けて行くは迎える人への義理でもない。拒むものへの面当てでもない。自から来たりて、自から去る。公平なる宇宙の意である。掌に顎を支えたる余の心も、わが住む部屋たなごころの如く空しければ、春風は招かぬに、遠慮もなく行き抜けるであろう。」

私も涸沢や雲の平で2, 3日ぷらぷら遊んで過ごしたいと思っていますが、日々の生活に忙しくて、なかなか果たすことが出来ません。

2019年夏のアルプス 木曾駒ヶ岳頂上山荘集中



2019年8月2日から4日にわたり、木曾駒ヶ岳を中心に、集中登山を行いました。

概略

8/2(金)

(3)菅ノ台→空木岳→駒峰ヒュッテ(前夜泊)

8/3(土)

(1)駒ヶ根=RW=千畳敷→浄土乗越→伊那前岳→頂上山荘

(2)桂小場→西駒山荘→頂上山荘(前夜泊)

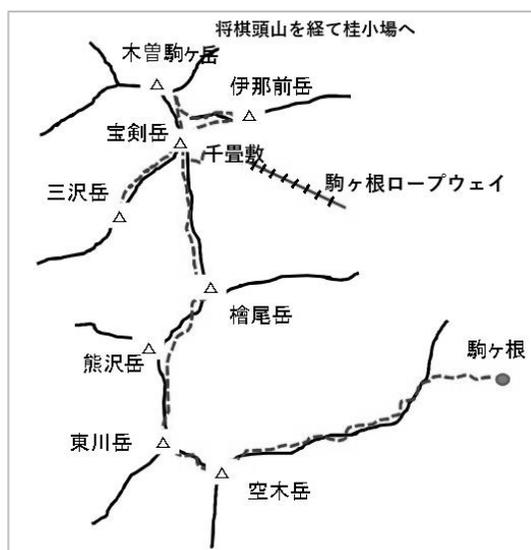
(3)駒峰ヒュッテ→空木岳→檜尾岳→宝剣岳→頂上山荘

8/4(日)

(3)頂上山荘→伊那前岳→宝剣岳→三ノ沢岳→千畳敷

(4)頂上山荘→千畳敷

(5)頂上山荘→宝剣岳→三ノ沢岳往復→極楽平→千畳敷



(1)

千畳敷から木曾駒ヶ岳

赤坂京子

山域山名:中央アルプス(木曾駒ヶ岳)

期日:2019年8月3日(土)

参加者:CL 石川、SL 並木、大嶋、高橋武、須藤、黒沢、斎藤、橋本、三島、豊島、赤坂
行動記録:熊谷南口 6:00=駒ヶ根 11:00
=RW11:35=千畳敷 11:45/12:15→乗越浄土 13:15/13:35→伊那前岳途中まで往復
14:00→中岳 14:30→駒ヶ岳山頂山荘
15:00/17:20→木曾駒ヶ岳 17:40 /18:00
→駒ヶ岳山頂山荘

暑い熊谷を脱出して中央アルプス駒ヶ岳に向かいいざ出発。途中高速道路で少し渋滞にあったが 11 時には駒ヶ根のバス停に到着、その後はバス、ロープウェイとあまり待たずに乗ることができた。ロープウェイ乗車前に急に霧が立ち込め視界を遮り始めたが、一気に 2600m の雲上の世界に到着した。8 月の土曜日で、千畳敷駅の周りは多くの人で賑わっている。今年は花の当たり年らしい。あたり一面コバイケイソウが見事な千畳敷で少し食事を摂り出発する。2

年前、初級冬山で来た時には鳥居の上が少し雪の上に出ただけで、すべて雪景色の中で吹雪いていて千畳敷カールや山の様子はまったくわからなかったが、今日は千畳敷カールのお花畑が素晴らしい。霧も少しずつ晴れて千畳敷カールを見上げると宝剣岳も見える。花崗岩の白い岩肌とハイマツと色とりどりの高山植物が美しい。シナノキンバイ、ミヤマキンポウゲ、クロユリ、

モミジカラマツ、クルマユリ、ハクサンイチゲ、アオノツガザクラ、タカネグンナイフウロウ、チシマギキョウ、タカネツメクサ、イワツメクサ、ウサギギク等、乗越浄土まで高山植物が次々と楽しませてくれる。落石に注意しながらジグザグの少し急な坂道を登りきるとそこが乗越浄土だ。少し休んだ後、当初は伊那前岳に登る予定だったが雨が心配されたため伊那前岳は途中までの往復とした。ここでもコマクサ、ヒメウスユキソウが岩場に可憐に咲いている。ハイマツの間にはハクサンシャクナゲがまだたくさん咲いていて見事だ。乗越浄土から少し登ると岩だらけの中岳に到着し、やっとここで木曾駒ヶ岳を見ることができる。ここから山荘をめざして急坂を下ると頂上山荘に到着する。到着して5分ほどで予想通り雨が降ってきた。間一髪で雨を逃れることができ、先に到着していたグループとビールで乾杯。夕方、雨もやみ有志で木曾駒ヶ岳頂上を目指した。コマクサ、ヒメウスユキソウが可愛らしい。頂上ではイワヒバリが人の近くまで寄ってくる。雲が多いが雲間からの光が美しい。2900m の雲上でなければ見られない景色だ。



(2)

桂小場から木曾駒ヶ岳

高橋仁

山域山名:中央アルプス(木曾駒ヶ岳)

山行形態:無雪期一般登山

期日:2019年8月3日(土)

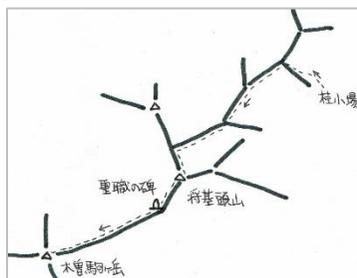
参加者:L 木村 高橋仁

行動記録:

8月2日(金)前夜発車中泊 熊谷 20:00=
桂小場登山口 1:30(車中泊)

8月3日(土)桂小場 5:50→野田揚 7:00→
馬返し 7:35→大樽避難小屋 8:00
/8:15→胸突ノ頭 9:35→将棋頭山手前
9:55/10:25→八合目 11:25→木曾駒山頂
12:40/13:10→頂上山荘 13:20

駒ヶ岳ロー
プウェイがで
きる前は、伊
那谷からの表
登山口だった
桂小場から標
高差 1700m



のコースを登る。辰野 PA で休日割引時間調整後、伊那 IC をから桂小場登山口に着いたのは1時過ぎ。すでに数台の車がある駐車場で車中泊。

5時前に起床・食事を済ませて出発。整備された歩きやすい道を順調に登り、ブドウの泉を過ぎ、崩壊地を巻いて下ると野田揚の水場だ。さほど冷たくないが喉を潤し、顔を洗う。横山分岐、馬返し、白川分岐と過ぎ、イチャクソウが咲いている針葉樹の尾根を登れ



ば大樽避難小屋だ。小休止で水分とエネルギーを補給する。信州大ルートを合わせ、胸突八丁の急坂を登りきれば、稜線の道にはクルマユリ、ハクサンフウロ、モミジカラマツ、ウサギギク、エゾシオガマ、シナノキンバイなどのお花畑がきれいだ。

行者岩分岐の先は展望が広がり、正面に将棋頭山、馬ノ背、宝剣岳、木曾駒ヶ岳、振り返れば行者岩、茶臼山の稜線がきれいだ。将棋頭山頂の手前で、展望を楽しみ、汗を乾かし、昼食とコーヒーでのんびりする。

左下の西駒山荘とその先へ延びる権現づるねの稜線を望みながら下ると「聖職の碑」で有名な遭難記念碑の広場に出た。105年前の大正2年8月、中箕輪尋常高等小学校の集団登山中に、暴風雨で死亡した赤羽校長と10名の生徒の名が彫ってある。慰霊碑ではなく記念碑と、「記念」の言葉の



中に事故のことを忘れない思いを込めた碑は、100年余の時を経て花崗岩が風化し、小さな字が読めなくなっているが、隣に新しく同じ文言が彫られた碑が建てられていた。稜線のクロユリやチングルマを見て進み、濃ヶ池分岐を分けて馬の背に登る。激しい隆起で出来た花崗岩の稜線を、積み重なる岩塊を越えて登ると傾斜が緩んで、コマウユスキソウを見つけたりして山頂に到着。ガスが流れて遠くの南アルプスや北アルプスは良く見えないが、北に御岳山が見て取れ

る。登ってきた将棋頭や茶臼、伊那前、中岳から、明日登る宝剣、三ノ沢がガスの切れ間に見え隠れする。千畳敷ルートメンバーをしばらく待たせたが、頂上山荘でビールを飲みながら待たせてもらうことにして山頂を後にした。

(3)

空木岳・木曾駒ヶ岳縦走

谷口武道

山域山名:中央アルプス(木曾駒ヶ岳・空木岳・三ノ沢岳)

期日:2019年8月1日(木)-4日(日)

参加者:L新井、駒崎、谷口

行動記録:

8/1(木) <晴れ>

熊谷(20:00)⇒管ノ台(0:30)

前夜泊のため、20:00に熊谷を出る。東松山で車を乗り換え、管ノ台に向かう。途中2度休憩をはさみ、駒ヶ根ICで降り、ICから管ノ台まではほんの10分ぐらい。そこまでにコンビニは無い。平日の為か駐車場の空きは多い。テントを張り就寝。

8/2(金) <晴れ/ガス/雷雨>

管ノ台(6:00)[タクシー移動]→林道終点(6:20/6:40)→水場(7:40)→マセナギ(8:55)→昼食(10:40/11:20)→駒石(13:30)→駒峰ヒュッテ(14:00)→空木岳(14:15/14:25)→駒峰ヒュッテ(14:30)

朝4時に起床、バスの方は、朝の4時から並び始めている。朝食を食べ、テントをしまいタクシーを呼ぶ。自分たちは林道終点までタクシーで進む。登山を開始し少しいくと、水場がある。駒峰ヒュッテ(駒峰山岳会)の子に出会い、話をし、どちらの道が良いか

など聞く。お勧めを(駒石)側をすすめてもらう。途中は、樹林帯で景色もあまり見えないが、ガスの発生でどちらにせよあまり見えなかったであろう。大地獄・子地獄には、鎖場がありチョットしたスリルが味わえる。シャクナゲ・クルマユリ・ゴゼンタチバナなどが咲いている。

駒石側に進んでいくと、空木平避難小屋が下に見える。稜線には似たような大きな岩が並ぶ、本当の駒石には、割れ間にダイコンソウがへばりつき咲いていた。とても健気で力強く見えた。少し進むと駒峰ヒュッテに到着する。とても優しい感じのログハウスで、中も綺麗だ。空木岳山頂をピストンする。山頂や山頂までにブーケのようなイワツメクサ・タカネツメグサが咲き乱れる。頂上からは、進んできた稜線が美しく良く見える。駒峰ヒュッテに戻り軽くお酒を飲みながら話をし、夕飯にする。すると雷と雨が音を立て外を騒がした。お酒を飲みながら、今日の出来事、明日にコース、水の量など確認し就寝する。



8/3(土) <晴れ/ガス/雷雨>

駒峰ヒュッテ(3:30/4:40)→空木岳(4:45/4:50)→木曾殿山荘(6:05)→東川岳(6:40)→熊沢岳(8:30)→檜尾岳(9:50)

→昼食(10:20/11:30)→極楽平(13:10)→
宝剣岳(14:10/14:20)→中岳(15:00)→駒
ヶ岳頂上山荘(15:05)→夜食後→駒ヶ岳頂
上山荘(17:25)→木曾駒ヶ岳山頂
(17:40/17:50)→駒ヶ岳頂上山荘(18:00)

駒峰ヒュッテで 3:30 に起床し用意をする。
まだ夜明け前で星空が美しい。朝日が昇っ
てくる前に出発。空木岳山頂に着く。まだ朝
日が昇りきっていないなか出発する。木曾
殿山荘に向かい朝日が昇る中、朝焼けの
中を進んでいく。木曾殿山荘に着く前に朝
日が昇り、韓国人の登山者たちに会う。4、
50 人の団体客で足を止められる。「こんに
ちは」と声をかけると「アニョンハセヨ」と声
が返ってくる。日本の山の美しさが海外ま
で知られているのがとても嬉しく思う。



距離が長い本日は、先を急ぐ。檜尾岳で
昼食をとる。檜尾避難小屋が見える。ちょう
どガスもなくなり展望が美しい。遠くには、
来た道には空木岳、そして、進む方向に宝
剣岳が見える。まだまだ先は長い。島田娘
を抜け(4月、5月には、島田髷ゆった着物
娘の子が現れる雪型からそう呼ばれてい
る)、極楽平、宝剣岳からは、千畳敷カール
が美しく見える。宝剣岳は、岩場が多く、と
ても鎖場も多い。岩の下や岩の上に登りと
ても面白く、少し危険な楽しめる登山道だ
った。宝剣岳を降るとすぐに中岳に登り始

める。登り始めたところで、すぐに雷が鳴り
始める。雨も降り始め雨具を着る。

中岳から頂上山荘までは、10分もかから
なく、熊谷トレッキング同人メンバーたちと
合流する。「カメラを落とした」と K さんが。
「あっ！さっき天狗荘の所に誰かが落とした
やつを引っかけてあった。」置いてあった場
所も分かるので、自分を取りに行くことに。
雨と雷の中急いで取りに行くが置いてあっ
た所に無く、中岳山頂まで戻ったが、宝剣
山荘にあるのでは?と気づき、宝剣山荘に行
くと嬉しそうに小屋の人が「これですねっ」と
渡してくれた。中岳山頂から山頂ヒュッテを
見ると K さんが待っていてくれた。

夕飯を食べ木曾駒ヶ岳山頂を目指す。雨も
上がり雲の間から陽が射し頂上の神社の
社がバックでとても神秘的に見える。頂上
山荘で明日の予定を聞き、お酒を飲みなが
ら談笑、明日のこともあるので 19:30 には
就寝する。

8/4(日)<晴れ/ガス>

駒ヶ岳頂上山荘(5:45)→伊那前岳(6:45)
→空木岳(7:35)→三ノ沢岳(9:40/10:30)
→極楽平(12:30)→千畳敷(13:00/14:15)
→駒ヶ岳ロープウェイ(14:30)→管ノ平
(15:20)

朝 4:00 起床、5:00 にご飯を食べ 5:30 に
皆が外に集まる。皆で写真を撮り出発。昨
日と違う、中岳を迂回するルートを通る。自
分達は皆と別れ伊那前岳に向かう。伊那前
岳からは、この2日間のルートが良く見えた。
長い長い道のりで、下には終着の千畳敷カ
ールの中に駒ヶ岳ロープウェイが見える。と
ても展望が良く、天気も良くすべてが美し
い。宝剣岳は、昨日とは逆ルートで戻る。な
るべく鎖を使わぬよう進んでいく。やはり岩

場は面白い。三ノ沢岳に進む道の一帯にはハイマツがびっしりと生えている。途中お花畑があり、シナノキンバイ、コバイケイソウ、ビゼンタチバナ、ウスユキソウが咲き誇る。天候も良く、木曽前岳、木曽駒ヶ岳、宝剣岳、遠くには空木岳、さらに逆方向の遠くには御嶽山まで美しく見える。とても力強く雄大に見えた。

三ノ沢岳で昼食をとり極楽平へ。極楽平からの千畳敷の展望は、とても美しい。下っていくと猿の親子がお花を食べながら人間を怖がりもせず堂々と道を横切る。下りの道は花が咲き誇りとても美しい。ロープウェイ乗り場で皆を待ち 14:15 分発まで 1 時間以上あるので剣ヶ池、千畳敷を散策する。少しガスが発生していたがコバイケイソウがとても美しく、たくさん咲いていた。石段には、キリンソウ、チングルマなど咲いている。時間になり皆で集合し駒ヶ岳ロープウェイに乗り込む、車を止める場所の関係で 5 人だけ先に乗り込み、ここで二手に分かれる。ロープウェイの下りは早く、すぐに、しらび平に到着。今度はバスに乗り込み山道を進む。バスに揺られながら、菅の台に到着する。

今回の山行は、夏ということもあり、ガスや夕立などにも少し悩まされたが、早朝から日中は天候も良好でとても素晴らしい山行となった。

(5)

宝剣岳・三ノ沢岳

須藤俊彦

山域山名:中央アルプス(宝剣岳・三ノ沢岳)

期日:2019年8月4日(日)晴れ

CL 木村,SL 石川、大嶋、須藤、黒澤、高橋仁、斎藤、橋本、赤坂、豊島、三島

行動記録:

頂上山荘 5:45→宝剣岳 6:30→三ノ沢分岐 7:20/7:30→三ノ沢岳 9:40/10:00→三ノ沢分岐 12:15/12:45→極楽平 12:55→千畳敷 RW 駅 13:20→菅の台駐車場 15:30/15:50→熊谷駅 20:30

小屋から見る雲海に浮かぶ八ヶ岳からの日の出に今日一日の無事を祈願する。朝食をとり小屋前で全員写真撮影後コースごとに出発する。

当メンバーは(4)コースの並木さんを含め 12 名である。体力温存の為、中岳巻道を選択。この道は狙いとは違い急斜面岩通過が要求され、巻道=楽・安全は絶対でないことを認識した。宝剣山荘を過ぎ、メンバーを 2



組に分け初体験の宝剣岳の登りにはいる。鎖が適所に配されており危険感はなく、問題なく頂上部に着く。頂上となる岩峰は混んでおり、私は諦め下山路を進む。時間が早かった事もあり対向者との待ち合わせはなく、また景色を楽しむ余裕もあり楽しく通過。左手一杯に南アルプスが雲海に浮かび風もさわやかな三ノ沢分岐に到着。

休憩後(4)コースの並木さんと別れ、三ノ沢岳に伸びるハイマツの中の道を下る。鞍部を過ぎると道はアップダウンを繰り返し進む。やがて最鞍部を過ぎると道は登りになる。遭難碑に荷物をデポし登る。道の両端にはアオノツガザクラ、ウサギギク、チングルマ、チシマキキョウ、ウスユキソウ、キンポウゲなどが疲れを癒してくれる。次から次へと新しい頂上が現れる中、やっとの思いで到着。御嶽山が正面に大きな山容を横たえ、右に乗鞍が見える。左には南駒、空木から続く尾根が手に取る距離にある。到着した(3)コースの3人を含め記念撮影する。危険な所もなく。高山植物も比較的豊富で眺望抜群、なかなかの山である。

頂上で(3)メンバーと別れ、休みながら三ノ沢分岐に戻る。歩いてきた右側はガスに覆われている。分岐でノンビリ昼食を楽しむ。昼食後気持ちの良い尾根道を花を愛でながら歩き、極楽平から千畳敷カールを下る。このルートは人が少ない。しきりにRWの混雑を伝える放送がガス越しに聞こえてくる。

駅に着き(4)(3)コースメンバーと合流、先着していた駒崎さんより乗車整理券をいただく。おかげで早く下山する事が出来た。バスを乗り継ぎ駐車場に到着。帰路は混雑を考え長野道を選択、姨捨SAで軽食、ここで解散し、我々の車は熊谷駅に8時半に到着した。

餓鬼岳・唐沢岳

新井浩二

山域山名: 北アルプス 餓鬼岳、唐沢岳

山行形態: 無雪期テント縦走

期日: 2019年8月10日(土) - 12日(月)

参加者: 駒崎、新井浩

行動記録:

今年の夏の縦走計画は、北アの黒部の山(黒部五郎)と温泉(高天原)から変更し、南アの策ヶ岳に変更。しかし直前になって天候が悪くなったので、今回の北アの餓鬼岳、唐沢岳に変更。二転三転してやっと山に入れました。

8/9日(金) 江南(21:00) = 道の駅安曇野松川(0:40)

8/10日(土) 道の駅(4:50) → 白沢登山口 P219km(5/20/6:40) → 魚止めの滝(8:45) → 最終水場(9:35) → 大風山(12:55) → 百曲り入口(15:15) → 餓鬼小屋(16:35) → テント場(16:40) → テント設営 → 餓鬼岳 2647m (17:30) 往復

<天候:曇り/晴れ>

餓鬼岳は今回で三回目だ。初回は日帰り、二回目は燕岳まで縦



走、今回は唐沢岳が目的。いずれにしる、きつい山との記憶があり、その通りとなった。前夜泊で移動し、翌朝登山口まで移動して朝食をとる。今日は餓鬼岳小屋でテント泊なのでゆっくり支度をして出発。餓鬼岳登山口で計画書をポストに入れる。はじめは

林道を進み、白沢登山口の標柱を越えて沢沿いの道を進む。暑いので水分のをたっぷり取りながら、紅葉の滝、魚止めの滝と進む。栈道がたくさん掛けられており、楽しい。その後も沢沿いと崖崩れの高巻き道を進むが、ザックが重く思うように足が進まない。やっとのことで大風山。帰ってきてから調べたら、10年前よりも2時間も遅くなっている。ここからもカメさん歩きでやっとのことで餓鬼岳小屋に到着。なんと10時間もかかってしまった。小屋で受付をしてちょっと離れているテント場へ行く。狭いテント場に先客5張り。空いている斜めのところに仕方なくテントを張る。小屋に水を買いがてらに餓鬼岳山頂を往復する。青空に立ち上る積乱雲に夕日が当たってきれいだ。テントに戻り、夕食となりました。テント場 700円/人、水 1L200円。

8/11(日)起床 4:30→出発 6:22→餓鬼岳 6:53→唐沢岳 9:47/12:03→餓鬼岳 15:00→テント場 15:15

<天候:快晴>

起きてすぐに展望台に行き、朝陽が昇るのを見る。雲海からちょうど5時に陽が出た。周りの山々がオレンジ色に染まる。山で朝を迎える醍醐味だ。テントに戻り朝食を済ませ、今回のメインイベントの唐沢岳に出発。テントはそのまま張ったままでザックはスカスカで足取りは軽い。餓鬼岳山頂をまず踏む。快晴で北アルプスの山々がくっきり見える。唐沢岳に伸びるこれから進む尾根もはっきり見え、ハイマツと岩稜地帯のアップダウンを進む。燕岳と似たような感じの花崗岩の砂地が多い。あちこちにこまくさが群生して咲いている。餓鬼のコブを巻き、岩稜のアップダウンを繰り返し、やがて唐沢岳に到着。すごい展望だ。針ノ木岳がカッコいい。



その右に蓮華岳。その奥に立山。船窪岳～烏帽子岳、野口五郎岳が大きい。高瀬川(高瀬ダム)を挟んだ向かい側に去年の夏に歩いたコースが目の前に広がっている。唐沢岳の山頂は狭いので、少し先に進み、巨岩の根元に腰を下ろす。日陰で涼しく、眺めも最高。昼休憩と昼寝タイム。2時間以上ものんびりとしてしまった。往路を戻ります。途中ハクサンフウロ、ウサギギクなどが咲いていました、餓鬼岳に戻り、展望を楽しみ、テントに戻る。テント場は昨日と同様に10張りぐらいで満杯。狭いところで隣の人たちと話をしながら夕食となりました。小屋で水を昨日は8L、今日は4L買う。水代だけで2,400円。背負いあげのことを考えると安いのかな。

8/12(月)起床 5:00→出発 7:05→餓鬼小屋 7:27→百曲り入口 8:35→大風山 9:50→魚止めの滝 11:31→紅葉の滝 12:00→登山口 12:57

<天候:晴れ>

起きてすぐに日の出を見る。雲海から昇る朝陽は何度見ても心が洗われる。野口五郎岳が真っ赤に染まっている。昨日は気がつかなかったが、富士山も見える。今日は下るだけでゆっくり支度をし、テント撤収が一番最後になってしまった。最後に展望台に行き、雲海と北アルプスの眺めを堪能し、出

発。餓鬼岳小屋脇から白沢へ向かい登山道を下る。途中北に延びる尾根があり、裸地が見えるので、藪を漕いで行ってみる。残念ながらガスが上がってきて展望はなかったが、違う角度から餓鬼岳が見られました。大風山、魚止めの滝と順調に下山し、先で人の声があるが姿が見えない。進むと相方が滑落してしまったと一人の登山者いた。急峻な谷地形の岩の斜面の鎖場からもう一人の人が滑落したらしい。斜面の草がなぎ倒された跡があった。谷が深く、谷底は見えない。谷底まで 50m 以上はあるだろう。笹につかまって少し降りてみるがとても降りられない。その時、谷底の河原で人が動いているのが笹藪の隙間から見えた。声を掛けるが沢音で聞こえないようだ。残っている人に、助けるのは無理だから、下山して救助を求めることにして、連絡先、名前をメモしてもらい、急いで我々は下山する。遭難場所は紅葉の滝のすぐ先(餓鬼岳方面)。タクシーが呼んであるとのこと。1 時間ほどで登山口につくとタクシーがいたので、呼んだ方たちは遭難したと説明。警察へ無線で連絡してもらおうが、なかなか話が通じない。電波の通じるころまで、我々は車で移動し、警察へ電話する。長野県警の救助隊につながり、状況を説明する。遭難者の氏名などを伝えるが、天候はどうだった?ヘリは飛べるか?との問いがあり、返事に困る。周りの状況の観察も必要でした。結果は、長野県警の HP に遭難者救助の掲載があり、救助隊が陸上から向かったようです。山は安全第一と痛感しました。

北八ヶ岳のんびりハイク

大嶋博

山域山名:北八ヶ岳

期日:2019年8月19日(月)・20日(火)

参加者:L 新井勇、軽石、並木、栗原、辺見、大嶋、滝沢 計7名
行動記録:

8月19日(月) 熊谷駅南口 6:30=

白駒池駐車場 9:40—青苔荘 10:15—ニューウ 12:15 /13:20—青苔荘 15:30

青苔荘の駐車場に車を置き、おなじみのシラビソと苔の森の道を歩き、10年ぶりに青苔荘に着いた。ここに荷物を預けて、ニューウに向けて出発。沼の東側を回って対岸まで行き、約1時間位で白樺尾根に向かう道を右に曲がる山道に入り、また1時間位でニューウのピークに着いた。ここで昼食をとる。視界ゼロのため予定の高見石へは行かず。来た道をもどり、池の西側を回り青苔荘戻った。栗原さんと辺見さんは、池周辺を散策。

8月20日(火) <天気曇り>

青苔荘 7:15=麦草峠駐車場 7:40—大石峠—9:25 茶臼山 9:40—縞枯山手前鞍部—五辻 10:30—299号—12:00 麦草峠駐車場 12:30=のぞみサンピア佐久=熊谷 17:30

前日と同じ天候の下、車を麦草峠の駐車場に移動し、茶臼山に向けて出発。大石峠をこえて中小場で休憩し、自分と軽石さんの二人で先行した。約2時間で茶臼山の頂上に着いた。すぐ近くの展望場所まで行ったが、昨日と同じ視界ゼロであった。予定の雨池コースを変更して縞枯山手前の鞍部から西側を下り、五辻の水平道を通して



探しながら進む。その先には落差 4m 程度のナメ滝が現れた。意外に水流が強いが、CL の動きを見て手も使いホールドを確認しながら進むと、無事乗り越えることができた。こういった変化に富んだ滝達を次から次へと越え、入渓点から 1 時間ほど進むと小淵沢最大の 15m 滝に行き着いた。この日は水量が多く直接滝を越えることが出来ないため迂回することになった。足場の悪い急斜面を、熊笹の束を引っ張りながら体のバランスを保ち少しずつ登って行くのは大変な体力を使った。途中メンバーにアクシデントがあり時間も掛ったが、大した怪我もなく全員無事に迂回することが出来た。20 分ほど休憩した後、遡行再開。途中 10m を越える滝を迂回した以外は順調に遡行していった。上流に近づくにつれ沢幅が狭く底が浅くなっていったが、それでも大小様々な滝が現れ変化に富んだ沢登りを楽しむことができた。

12:20 頃沢終点まで辿り着き、10 分ほど熊笹の藪を散々漕いで彷徨い、ようやく一般登山道に出ることが出来た。ほどなく眼前に小淵沢田代湿原がひらけ、燧ヶ岳や日光方面の山を望みながら陽光に煌めく緑の草原の木道を軽快に進んでいった。色々な花も咲いており、皆の顔に思わず笑みが浮かぶ。ここは、高巻き迂回や藪漕ぎで苦労した末に行き着いた楽園のようであった。

1 時間足らずで尾瀬沼ビジターセンターに到着。昼食をとりながら一般登山装備に換え、14:25 大清水に向け出発。尾瀬沼越しに燧ヶ岳を間近に望み、三平峠を越えて一之瀬に着くと運良く大清水行の乗合タクシーに乗れた。

今回の沢登りでは、迂回した箇所を除けば、特別な登攀技術を要求される箇所はな

く、沢登り 2 回目の私でも CL の後を付いて慎重に行けば乗り越えられる滝ばかりであった。しかし、迂回の際には後から SL に指示してもらいセルフビレイしたり、お助けロープ(?)を使って登るのがやっとだった。今後、自分の判断で的確に安全確保しながら登攀できるように訓練と経験が必要だと感じた。

編笠山・権現岳・赤岳から 真教寺尾根縦走

関口裕子

山域山名:南八ヶ岳・編笠山 2523.7m・権現岳 2715m・赤岳 2899.2m

期日:2019 年 9 月 7 日(土)~8 日(日)

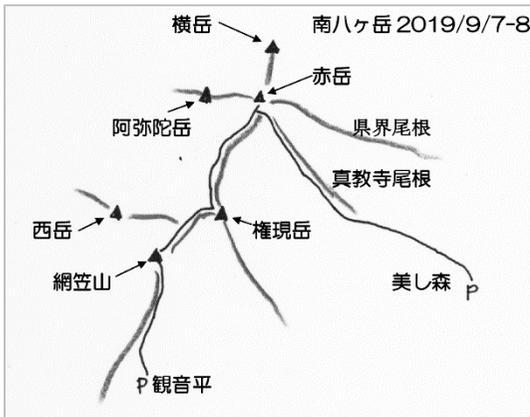
参加者:CL 高橋仁 SL 木村 谷口 三島 関口

行動記録:

<1 日目>熊谷 4:00=小淵沢 IC=観音平 P6:40/7:00→雲海展望台 7:30/7:40→押手川 8:20→編笠山 9:45/10:10→青年小屋 10:35/11:00→権現岳 13:10→キレット小屋 15:00(泊)

<2 日目>キレット小屋 6:00→赤岳 8:10/8:55→牛首山 11:25?賽の河原 12:30?羽衣池 13:00→美し森 13:30=タクシーで観音平の車回収 15:00=佐久 IC=熊谷 19:00





9/7(土) <天気:晴れ>

台風情報があったが、リーダーより決行の連絡があり予定通り出発。観音平の駐車場はいっぱいので少し下りた路肩に止める。樹林の中は8月の暑さとは違い風が心地よくコースタイムより早めに編笠山に到達する。編笠山山頂ではゆっくりし360度のパンoramaを堪能する。これから登る権現岳や、その先に聳える赤岳、阿弥陀岳の迫力はすごい。

青年小屋では5分ほど行った水場「乙女の水」で給水。ノロシバを過ぎるとギボシの岩場になる。権現岳山頂では剣を持って写真撮影。すぐ急な下りに入り有名な長い鉄ハシゴ(61段?)を降りる。

キレット小屋に予定通りに到着する。小屋は小屋番が一人で切り盛りしているが、きれいで空いていて居心地が良かった。

9/8(日) <天気:晴れ>

2日目は最初からヘルメットをかぶり、赤岳を目指す。急な岩場を登りながらも、歩いて来た尾根を振り返ったり、阿弥陀岳の美しさを間近に感じたり、圧巻の赤岳とその隣の小天狗、大天狗の面白い形に見とれたりしながら、楽しく登っていく。

山頂では、ゆっくり食事をし、コーヒーを飲みながら、見える山々の山名を教えてもらった。山頂を後にして真教寺尾根を下る。



くさり場がしばらく続き、石を落とさないように慎重に下りる。

牛首山からリフト山頂駅まではあっという間だった。山頂駅は家族連れの観光客で賑わっていたが、私たちは静かな林道を美し森まで歩いて戻った。台風がきていて心配していたが、2日間とも天気恵まれ、すばらしい景色をみる事ができた。

きのこ・木の実山行

新井勇

山域場所名:秩父奥武蔵方面(風布、葉原峠 県民の森・丸山)

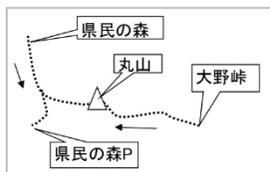
期日:2019年9月25日

参加者:L 橋本 並木 新井勇 逸見 大嶋 高橋武 黒澤 齊藤

行動記録:熊谷 7:30=風布小屋 8:20/8:35=風布木の実採取① 8:45/9:10=浦高の森 9:35/10:00=木の実採取② 10:05/10:20=葉原峠=(三沢・定峰南沢経由)=大野峠 11:35/11:55-丸山・展望台・昼食 12:45/13:35-森林学習展示館 13:50/14:15-県民の森 P14:25/14:50=都幾川町・嵐山駅経由=熊谷 16:30

<天気晴れ時々曇り>

熊谷駅南口を定刻に6人で出発。道の駅で斉藤さん、風布小屋で黒



澤さんと合流し、木の実山行をスタート。まずは小屋付近のマタタビを期待していたが今年は近辺の刈り込みがあり、マタタビの蔓が切られ実を見つけることは出来なかった。この後、車で上流の風布の集落に向かい、サルナシのある場所で降車。地元の方に挨拶したが「マムシとハチに注意して」と言われた。道路の脇、足場の悪い斜面を



2,3m上がった所の木にからみついた別の木がサルナシで、言われてみると3,4m上の方に実が幾つか付いている。Lが用意した長く伸ばせる摘果鉋で器用に採取し、まずは最初の木の実収穫となる。

次はみかんの目立つ風布の集落からさらに上に車で登り、浦高百年の森の建物のある周辺に寄る。ここではヤマグリを少し拾えたがキノコは目ぼしいものは無かった。再び車で少し走ると2回目の木の実採取ができた。林道の傍らの木にサルナシとアケビが絡みついており、両方の実を収穫できた。葉原峠の近辺の採取はここまでとし、峠から長瀬側に下って次の場所に移動した。皆野町三沢を経由し、四萬部寺(札所1番)近くのコンビニでトイレ休憩をして定峰の南

の沢沿いの林道を進む。一度途中で停車したが木の実等見つからなかったが、ツリフネソやキバナアキギリが咲いていた。さらに大野峠に進む。ここから県民の森へは尾根道のハイキングコースと少し下に平行する林道があり、運転者が1台車を下山地Pに置きに行き、全員そろってから尾根道を登る。



爽やかな好天に恵まれたこの日、初めて山歩きらしい行動になった。しかも峠からは急登5,6分で関東平野の大展望地に出た。思わずみんな足が止まって展望を楽しんだ。但しコースでは木の実は無し。少し道を外して探してもキノコはさほどでもない。間もなく県民の森のはずれ、丸山に着き、立派な展望台に登って昼食。眼前の迫力ある武甲山や奥秩父、熊谷方面の展望を楽しんだりして1時間近く、この日は珍しく爽やかに強い日射しの中で過ごした。昼食後は県民の森へ寄り、森林学習展示館を見学してから駐車場で木の実等の分配を行ってから今日の日程を終えた。帰路は長い道のりを運転手に任せて都幾川町、嵐山駅経由で16時半には熊谷駅に到着した。案内のLに頼りきったような山行でしたが楽しい1日になりました。



退会挨拶 浅古 剛

この度、熊谷トレッキング同人を退会することにしました。長らく所属した愛着のある会を離れることは寂しいですが、ここ数年、山行に参加できていないこと等を踏まえ苦渋の決断に至りました。以下、具体的に理由を記します。

① 会員の高齢化に伴い熊谷トレッキング同人の存続に不安があること。

年齢順の会員名簿を見て、自身が下から3番目であることに愕然としました。同人の発足から20年以上が経過したので、自分自身も含め高齢化は当然のことと理解しつつも、組織として考えたとき、将来に強い不安を感じています。

② 会山行と自分の嗜好する山歩きに乖離があること。

高齢化に伴って平日の低山ハイキングや山歩き以外の活動が増えています。象徴的な例として、秩父の札所巡りがあります。かつての同人ならば、例会の報告案件ではなかったはずですが(決して悪意はありません。年齢と体力に相応しい活動が必要です。)。私はまだ、高所を目指し負荷のかかる山歩きを望んでいます。

③ 現在の熊谷トレッキング同人に対する帰属意識が希薄になったこと。

村越先生の呼びかけにより熊谷トレッキング同人は結成されました。先生の山仲間(横の繋がり)と熊谷高校山岳部OB(縦の繋がり)が融合し、中高年から若者まで年齢層の広い組織でした。村越先生の早逝という不測の事態にも、愛弟子である福田さんと宮田さんが先生の遺志を継ぎ、同人の運営に尽力されたため結束

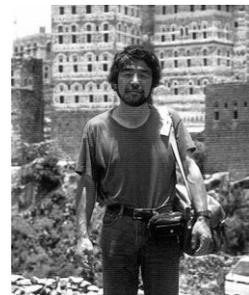


は保たれました。しかし、その両氏も退会されました。

熊谷トレッキング同人が発足して20年以上経過し、創設期の「村越先生との人的な繋がり」で結束していた組織から、現在は「熊谷を拠点に活動する山好きが集う組織」へと変容しました。創設期からの会員は半数以下となり、さらに私自身が会山行に参加していないため顔と名前が一致しない会員が増えたこともあり、現在の熊谷トレッキング同人への帰属意識が希薄化していることは否定できません。

ここまで随分と悲観的なことばかり書き連ねましたが、偽りのない気持ちを表明したつもりです。会社組織とは違い、任意の集団は属人的な要素を多分に含むものです(魅力的で求心力のある人の存在が不可欠です)。私にとっては村越先生なしには熊谷トレッキング同人は考えられません。

最後になりますが、これまで山歩きを共にしてきた皆さんには、大変お世話になりました。皆さんとの出会いに感謝します。ありがとうございました。



在りし日の村越昇先生
イエメン 1993年

秋の同人合宿

上州路に遊ぶ



期日:2019年9月28日(土)~29日(日)

幕営地:宝台樹キャンプ場(群馬県)

9/28(土)

コース1 三峰山 7名

コース2 吾妻耶山 9名

9/29(日)

コース3 尼ヶ禿山 3名

コース4 鹿俣山 3名

コース5 尼ヶ禿山~迦葉山 8名

コース6 武尊山 2名

コース7 玉原散策 2名

コース1 三峰山

三島智睦

山域山名:上州三峰山

期日:2019年9月28日(土)

参加者:L石川、並木、高橋(武)、新井(勇)、

軽石、豊島、三島

行動記録:

河内神社 P(9:10)→三峰沼分岐(10:00)→

山頂(11:50/12:20)→三峰沼(13:40)→河

内神社 P(14:20)

<天気曇り>

登山口のある河内神社駐車場に到着。駐車場には2台の先客があり大阪と富士山ナンバーであった。そんなに遠くから来るほどの山なのかといぶかしがった

り、パラグライダーの離陸場があるのでそれではないかと推測したりする。出発後落ちた栗の実やナナカマド、樹間から麓の町を



見ながら、そこそこの登りで高度を上げていく。25分ほどで河内神社に到着。境内から振り返ると赤城山や子持山が見える。河内神社を出発ししばらくすると斜度が緩やかになる。三峰山は上州のテーブルマウンテンと呼ばれているらしく、そのテーブルの上のようになったようである。途中アンテナ設備があり、FM OZE とあった。緩いアップダウンを繰り返しながら進んでいく。この山は山頂に至るまで展望がない。アザミに止まる蝶やサラシナショウマなどを眺めながら、ただひたすら歩を進める。高橋さんが食べられるかどうかわからないけどと言いながらキノコを集めながら登って行く。目立ったポイントがない山なので適当な場所で休憩を取る。

紅葉はまだだが少し赤くなり始めているものもあった。スタートしてから約2時間半で三峰山山頂に到着。山頂はブナの林である。今までなかった展望がここでは得られる。谷川岳のオキノ耳とトマの耳がはっきりと認識できる。30分程度昼食休憩を取って出発。肅々と歩を進めるが、帰りは三峰沼を通して帰ることにする。沼は流れ込む沢の小ささの割にはまあまあ規模の農業用水池であった。少し登り返し15分ほどで河内神社、さらに10分で駐車場に到着。心配した雨には降られることはなかった。また個人的には合宿1日目の軽めの山行と思ってい



たが意外に歩きごたえのあった三峰山であった。

コース2 吾妻耶山、大峰山

黒澤孝

山域:吾妻耶山 1322.7m、大峰山 1254.5m (群馬県)

日程:2019年9月28日(土)

参加者:L駒崎,SL橋本,斉藤,新井,高橋,黒澤,花森,谷口

行動記録:<曇り>熊谷駅南口 07:00=大峰沼登山口 P09:10/09:30→大峰沼キャンプ場 10:00/10:05→大沼越 10:20/10:30→鉄梯子 10:50→大峰山 11:20→分岐 11:50→吾妻耶山 12:25/12:55→大峰沼キャンプ場 14:00→大峰沼登山口 P14:30/14:40=宝台樹キャンプ場 15:50

ほぼ予定時間通り熊谷駅南口を出発。大峰沼登山口駐車場では明日の予定で自転車参加の橋本さんは既に到着していた。登山準備にしっかり時間をかけ準備をして出発。キャンプ場までは途中まで舗装された広い道。30分ほどで大峰沼のほとりに到着。写真撮影などしばし休憩し沼のほとりを時計回りに出発。大沼越に向かって沼を離れるとすぐに急登となる。足元も滑りやすく登りづらい道で、大沼越までは15分ほどで登りついたが汗だくになっていた。ここからは尾根伝いとなり歩きやすい。右手下に大峰沼が木立の中に見えた。軽い上り下りを20分ほど進んだところで尾根がV字に切れ鉄梯子を10mほど降り同じく鉄梯子を同じ高さくらい登り返



した。通信アンテナが尾根先に見えたところで右手に巻道となりまた尾根道に戻る。尾根はアンテナの保守で車が通れるようになっていてその道脇に大峰山山頂の標。見過ごして通り過ぎてしまいそうな山頂でした。展望もないので山頂を記す標の写真撮影だけで次の吾妻耶山を目指す。尾根道を下り気味に先に進み峠に出る。右に進むとスキー場ゲレンデ。ここから急な登りをまっすぐ進み 30 分ほどで吾妻耶山山頂。山頂



からは上越の山々が一望できるがすっきりと晴れた天候でなく残念。30分の昼食休憩。登ってきた道を引き返すがすぐに左手に道が分かれそちらの道を下山。しばらく進むとスキー場リフトの上に出る。ゲレンデが水上の街に向かって広がっている。ゲレンデの右側の道を下山するが途中でゲレンデを横切りさらに下がったところでゲレンデの中を歩きゲレンデが左に下って行くところで我々は右手に分かれた。しばらく広い道で途中で左に分かれた山道に入る。30分ほど下ったところで大峰沼キャンプ場に到着。ここからは元来た道を駐車場まで戻った。休憩時間を入れ全行程 5 時間の登山でした。

コース3 尼ヶ禿山

高橋武子

山名:群馬県 玉原高原尼ヶ禿山(1466m)

期日:2019年9月29日(金)

参加者:L 豊島 SL 新井勇 高橋武(3人)

行動記録:玉原センターハウス 9:00—東大

国際セミハウス 9:30—休憩 9:50/10:00—

尼ヶ禿山頂 10:30/11:00—東大国際セミハ

ウス 11:50—玉原湿原東縁遊歩道—昼食

12:30/13:00—湿原遊歩道—玉原センター

ハウス 13:45=熊谷 17:30

晴れ、天気
予報では雨
も覚悟してい
たが、なんと



眩しいような晴天に恵まれる。上州武尊山に登る班以外は分乗して玉原センターハウスへ移動する。3人揃ったところで私たちは先発する。

ナラ、トチ、ブナの大木の中の整備された林道を進む。一般車は入れないが、藤原ダムまで続いているとのこと。東大国際セミハウスを過ぎるといよいよ山道。ブナの大木からまるツタウルシが紅葉し始めている。休憩していると、迦葉山まで行く班が来たので一緒に休み、今度は先に行ってもらおう。頂上に着くと迦葉山班は降りるところ。一緒に



写真を撮る。頂上からは鹿俣山、上州武尊山、日光白根山、赤城山、そして子持山、小野子山、その奥に榛名山、そしてさらに奥にかすかに富士山が見える。

あまりの陽差しの強さに食事は下りてからということで東大国際セミハウスまで来た道に戻る。ここからブナ平への道に入る。途中、ブナの若木の林に出る、明るい緑が美しい。玉原湿原の真ん中の休憩地で昼食。木のテラスが気持ち良く素足になって木の感触を楽しみつつ昼食をとる。トリカブトが咲き、ヤマウルシが色づき、覗き込むと、ウメバチソウが咲いている。ミズバショウを鹿から守るため網で保護してあるところがあり、ここでもかと思いました。玉原センターハウスからは、鹿俣山班、玉原湿原班と一緒に帰路に着く。途中、三峰の湯によって汗を流し、玉原りんご団地にてお土産を買って帰りました。楽しかったです。有難うございました

コース4 鹿俣山

軽石昭夫

山名：玉原高原、鹿俣山 1637m

期日：9月29日(日)晴

参加者：L軽石昭夫 並木利夫 木村哲也
行動記録：宝台樹キャンプ場 7:00＝玉原高原センターハウス 8:50/9:10→ブナ平分岐 9:45→スキーゲレンデ 10:20/1025→ゲレンデ上部 11:10→鹿俣山 11:30/12:00→ブナ平分岐 13:00→センターハウス 13:30＝みなかみ町営温泉 14:30/15:30＝帰路へ

前日の宝台樹キャンプ場での夕食時に雨になり、心配されたこの日は案に相違して好天となった。それにしてもキャンプ時いつも惜しみなく力を発揮して下さる栗原さん、八木さんには頭が下がる思いだ。7時過ぎにキャンプ場を出て、3台が玉原高原センターハウスに、1台が迦葉山弥勒寺にデポし玉原起点の16名が乗り合わせて全員集合した。



尼ヶ禿山コースの3人が9時に出発、10分後我々3人と尼ヶ禿～迦葉山縦走の8人は同時にスタートした。鹿俣山へのコースは、ここセンターハウスからだブナ平



を通る道が近そうだ。ルートに入るとすぐ見渡す限りのブナの森だ。

巨木も多い。「関東有数の」と誇るだけのことはある。また木道も多く歩きやすい。昨夜の雨もこの森では地表に達することなくブナの葉が受け止めているのだろう。沼田の名木 100 選の標識のついた「ミズメ」というナラ系の大木を過ぎるとまもなくブナ平の分岐にぶつかり、右鹿俣山の方に向かう。

分岐を過ぎてから徐々に登りにかかった。この辺り、ブナの他にトチノキが眼につき、いきなりトチノ実がそばに落下したりする。ピンポン玉ほどの大きさだ。あとは朴ノ木、ミズナラ、ダケカンバなどがみられる。広々としたスキーゲレンデに出て一休み、陽射しに木陰と涼風が心地よい。そこは展望も良く子持山のずっと先にうっすら秩父奥多摩の山並みの上に富士山が望めた。道はゲレンデを突っ切り樹林に入りまた広い所へ出たりしながらゲレンデ最上部を回り込むように登るとヒノキに似たアスナロが何本かある。これも大木だ。右へ下る尾根ルートを通ると少しの急登で鹿俣山山頂である。11 時 30 分なので 12 時に下山しようと決めて昼食休憩とした。展望は赤城山のほかは玉原湖や尼ヶ禿、三峰山などでやや雲が多くなったようだ。武尊山は木の間越にかすかに望める。好展望と案内書にあるのは十数年前か冬期になるのだろう。下山は往路をとることにした。時折ゲレンデの中を下ったりしてタイムを稼いだりした。刈払いされたゲレンデは足元がフカフカで大股歩きが可能だしかもそれが楽しい。ブナ平を過ぎ、尼ヶ

禿山組と着時間を連絡しながらセンターハウスに戻った。90 分で戻ったことになる。間もなくかのパーティーも戻り、予定より早めに帰路につく。途中、みなかみ町営三峰の湯で汗を流し、リンゴの直売所で試食、直取りしたものを土産に沼田を後にした。好天の2日間そこそこ歩いた実感があり充実した気分の合宿山行だった。

コース5 尼ヶ禿山～迦葉山

花森正雪

山域山名:尼ヶ禿山 迦葉山(群馬県)

期日:2019年9月29日(日)

参加者:L 新井浩 SL 高橋仁 黒沢 石川 駒崎 花森 三島 谷口

行動記録:<晴れ>玉原センターハウス 9:10 → 尼ヶ禿山頂 10:25/10:40 → 白樺湿原 11:50/12:25 → 迦葉山 12:55/13:05 → 和尚台 13:20/14:00 → 弥勒寺 14:25 = 望郷の湯 15:05 = 熊谷 18:00



天候を期待していなかったが、晴れました。玉原センターハウス駐車場は東屋、トイレ、自動販売機、駐車場ざっくり 50 台は駐車でき良く整備されて

います。今日は私達の他 3 台の車が駐車しています。準備を済ませ玉原湿原に向け歩き出します途中 20 人ぐらいの団体さんです、玉原湿原の紅葉はこれからですが木道はよく整備されています。

途中東京大学の贅沢な施設を横目に山頂に向かいます、尼ヶ禿山頂では富士山ま



車場 6:00→須原尾
 根分岐 6:40→武尊
 神社下降点 7:45→
 手小屋沢避難小屋
 分岐 8:05→武尊山
 10:00→剣ヶ峰山
 11:40/12:10→武尊
 沢 13:40→須原尾根
 分岐 14:20→裏見ノ
 滝駐車場 15:00=熊
 谷駅南口 17:20

<曇りのち晴れ>

夜半の雨も上がる

で見えますよく展望が開けています、これから向かう迦葉山稜線も見え遠さが伺えます。後から来た尼ヶ禿往復チームと合流して記念写真を撮り出発です。ブナ林を抜け白樺湿原で昼食です、あと数年で湿原も絶えそうです。ここからは迦葉山までは急坂がつづきます。

迦葉山頂は特に感想なしですが、途中の和尚台は寄り道する価値があります、知らないを通り過ぎます、岩峰でくさり場です、上り下りとも尻の穴が閉まるくらい恐怖を感じますが登る価値はあります、ぜひ。弥勒寺で天狗の大きなお面を見て、帰りに望郷の湯に浸かりよい気晴らしができました。

コース6 武尊山剣ヶ峰山

斎藤順

山域山名:武尊山(2158m) 剣ヶ峰山(2020m)

期日:2019年9月29日

参加者:L浅見 齊藤

行動記録:宝台樹キャンプ場=裏見ノ滝駐

車場 6:00→須原尾
 根分岐 6:40→武尊
 神社下降点 7:45→
 手小屋沢避難小屋
 分岐 8:05→武尊山
 10:00→剣ヶ峰山
 11:40/12:10→武尊
 沢 13:40→須原尾根
 分岐 14:20→裏見ノ
 滝駐車場 15:00=熊
 谷駅南口 17:20

<曇りのち晴れ>

夜半の雨も上がる

も曇り空、累積標高差 1340m 経験はあるが体力的にはかなりキツイ、予報では曇り一時雨せっかく苦勞して登頂するもご褒美の大パノラマが無いのかと思うとモチベーションが下がる、せっかく来たのだから登るしかない、岩場、鎖場、急登、急坂、登山力を上げる絶好のロケーションと意識を変え登り始めると、手小屋沢避難小屋分岐を過ぎ、鎖場あたりから空が明るくなり景色が輝きだしルンルン気分、予想外の紅葉し始めた山頂付近、気持ちも高まりガンガン登るお待ちかねの武尊山山頂、遮る物のない 360度大パノラマ富士山、苗場山、谷川岳、白毛門巻機山、平ヶ岳等々至福の時間、山頂から下りは石屑が堆積するガレ場の急斜面、谷川岳を右に見ながら剣ヶ峰山までの稜線は景色最高、山頂では武尊山の山容、雄大な上信越の山々の眺望をたっぷり楽しみながらの昼食、下りは急で段差の大きい下りが続く、濡れた石、木の根やぬかるみでスリップ必定、緊張感と体力の消耗が激しい、武尊沢でのどを潤し須原分岐、林道を歩き駐車場へ、登山を十二分に堪能できた山でした。

栗駒山紅葉山行

石川邦彦

山域山名:栗駒山(宮城・岩手県境)

期日:2019年10月7日(月)~8日(火)

参加者:CL 石川 SL 大嶋 黒沢 豊島

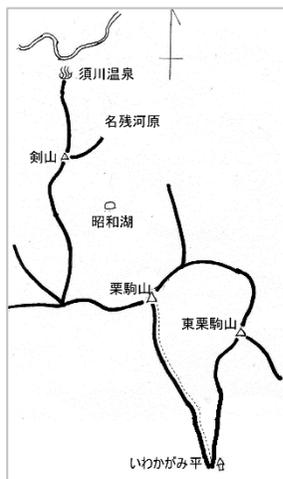
行動記録:

10/7 7:13 熊谷駅=9:11 くりこま高原駅
=11:00 いわかがみ平 1120m 11:27→
13:04 中央・東栗駒コース合流地点→
13:16 栗駒山 1626m 13:22→13:40 中
央・東栗駒コース合流地点 13:41→14:44
いわかがみ平=真湯温泉(泊)

10/8 宿 10:00=須川温泉 10:30/11:30=
真湯温泉 11:55/13:10=中尊寺・毛越寺
=17:56 くりこま高原=19:50 熊谷

10月7日 <天候:曇りのち雨>

くりこま高原駅で
埼玉労山みちのく
トレイルツアーから分
かれてきた黒澤さん
と合流する。レンタ
カーでいわかがみ
平へ。移動中に雨が
降り出し、いわかが
み平へ着く頃は本
降りとなる。駐車場
の手前では、紅葉シ
ーズンで有料となる駐車場の係員が、悪天
候で登山にはかなり状況が厳しいことを伝
え、そのまま進むか、U ターンするか確認し
ている。我々はそのまま駐車場に入る。ツア
ーバスが1台と、普通車はまばら。しばらく
様子を見ていたが、行けるところまでと、雨



具を着け出発の用意をする。

そのまま引き返す車もある。また、びしょ濡
れで戻ってくる人もいる。そんな中を、意を
決して出発する。予定の東栗駒コースは、
沢の増水で渡渉が難しいとの情報で、中央
コースに行く。敷石とセメントで固められた
登山道が、山頂方向に一直線に延びている。
天気良ければ幼児でも登れそうな山道
である。斜面に降った雨水を集め、小川の
様に道の上を流れている。

登山道の両脇は、木々が色づいてはいる
が、残念ながらその先の栗駒山の南斜面全
体に広がる、日本一と言われる紅葉の絶景
を見ることができない。

標高 1400m を超えたあたりから、砂礫と
軽石の道になる。同時に稜線が近づき、風
が強くなってきた。東栗駒山からの道と合
流するあたりには、草紅葉の原っぱがぽっ
かりと広がっていた。間もなくして山頂に到
着。風が強く、体感気温も低い。写真だけ
撮って、そそくさと下山する。風が弱まる所
まで少し降り、急いで立ったまま昼食を摂る。
その後、雨でとても滑りやすくなっている道
を、最大限注意しながら下山した。

最初は、山頂まで行けるか半信半疑だっ
たが、翌日の天候も期待できない状態で初
日に登頂できたことはよかった。的確な装
備、メンバーの経験、比較的斜度の緩い整
備された道のおかげもあったと思う。



10月8日 <天候:雨>

栗駒山北側の岩手県須川温泉の登山口にあるビジターセンターで展示物を見ながら、しばらく様子を見るも、天候回復が見込めずあきらめる。またいつか、天気の良いときに紅葉を見に来ましょう。

チャップミ公園と周辺池巡り

新井勇

山域: 草津白根山東麓(草津温泉の北方)

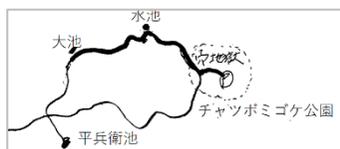
期日: 2019年10月23日

参加者: CL 相澤 新井勇 軽石

行動記録

熊谷駅南口 6:00 = チャップミ公園 9:10/9:25 = <シャトルバス> = 穴地獄入口
9:30 - 穴地獄(チャップミゴケ自生地)
9/40/10:00 - 水池 10:20/10:30 - 大池
10:55/11:15 - 水池 - 穴地獄 11:50/12:15 = チャップミ公園(昼食) 12:30/13:10 = 熊谷駅 16:10

草津白根山の東麓に、強酸性の所に生育するチャ



ップミゴケという珍しいコケがあり、今回紅葉を楽しむ写真山行として企画されたので同行することにした。ここは旧六合村(近年、中之条町に合併)の奥まった山あいの沢で、少し広い酸性の水の流れるあたりは穴地獄と呼ばれている。周囲には鉄鉱石の地層があり、昭和19年から戦後にかけて露天掘りの採掘が行われていた所(群馬鉄山)でもあった。最近になって中之条町が観光地として整備し、「チャップミ公園」がその入口となっており、一般車はここに駐車し、入

場料(600円)を払って、シャトルバス(または遊歩道)で穴地獄に入って行く。

我々3人、朝から快晴に恵まれ、6時熊谷駅南口を出発。現地までの長時間運転を相澤さんの運転に委ねる。途中ハツ場ダムの展望地に寄り、長野原から旧六合村経由の道进行。現地へは草津温泉経由のルートもあるが、行きは案内の標柱がしっかりついている前者の道を選んだ。ちなみに、帰路は草津温泉経由にしたが、後者の方が少し遠回りでも道が広くわかり易くて走り易かったように思える。

9時すぎ、チャップミゴケ公園着。駐車場は広いが車は数台のみ。紅葉し始めた木々も多いが、公園というより見学の入り口の諸施設のあると所。シャトルバスは我々と他の2人が乗り込むとすぐ発車。すぐに終点に着き、5分も歩くと穴地獄へ到着。緑のコケはすぐ目に入り、ぐるりと回遊する見学路は幅広い木道が、しっかりつけられている。ここでカメラを出そうとザックを開けた小生、今朝あたふたと家を出た時にカメラを入れなかった事に気づいた。最近、何かと忘れ物等が多くなった自分を悔やんだが、紅葉に包まれ明るい陽光の中でじっくりと観察できた事はよかった。同行の二人は存分に撮影できたと思われる。

この後、我々は水池、大池へのハイキングコースへの登りへ。ゆるやかな樹林の中の登りが多かったが、ペースはどうしてもゆっくりとなる。当初は大池の後、平兵衛池を経て巡回するコースだったが、相澤リーダーは同行者が高齢の2人であることを考慮してか、大池往復に変更して早めに下山することした。

1時間弱で大池に着き、水に映る紅葉などの風景を堪能して、また同じ道に戻る。光



ビール。食堂で自炊しながら、何缶もお代わりしたのです。

10月27日(月) <天候:曇り>

山頂ヒュッテ 7:00→山頂台地縁 8:25→赤倉山 9:30→赤湯温泉 11:45/13:00→鷹ノ巣峠 13:50→小日橋 15:10

起こされて時間を聞くと5:55分。なんと1時間の寝坊。でも時間の余裕があるのであわず朝食準備。お湯を沸かしまずコーヒー。外に出るとガスで周りは真っ白。気温は3℃で風はなく、思ったよりも寒くない。一時間で出発準備完了し、雨具を着込んでヒュッテの玄関で記念撮影し出発。ガスで見通しは利かないが、茶色に染まった草紅葉の湿原を赤倉山方面に進む。雲は薄いらしく、朝陽が射し込んでくる感じで明るい。山頂台地は斜めになっているらしく、木道は下っており、滑らないようにぎこちない歩き方になる。やがて笹原の中を行き、苗場神社を通過し、台地の縁を歩くようになる。左側は急斜面で落ち込んでいる。針葉樹林から広葉樹林に代わるころに、台地から急斜面を下り始める。200m下って200m登り返して赤倉山頂。樹林の中で全く展望なし。山頂から南へ延びる佐武流山への道はきれいし刈払されている。いつかは歩いてみたいところだ。赤湯方面の道は急斜面に笹の中を切り開いた道で歩きにくい。細い尾根道を

下り、やがて紅葉ゾーンへ。標高1500～1200m 辺りがきれいだ。紅葉を満喫しながら下ると、赤倉分岐。昨日の朝に通った道だ。ここから赤倉温泉はほんの10分ほど。鉄橋を渡り河原を歩くと赤湯温泉の建物が見えてきた。このあたりの紅葉もピークのように。今回の山行のメインイベントである温泉だ。500円を料金箱に入れ、早速露天風呂へ。台風による大雨で一つの露天風呂には温泉が入っていないが、大満足。ちょうどいい湯加減で、昼飯を温泉の中で食べる。のんびり1時間を過ごし、下山する。出発間際に小雨が降り出したが直ぐに止む。鷹ノ巣峠までの登り返しはきついが、紅葉を楽しみながらゆっくり登る。そこから林道を1時間歩き、車の止めてある小日橋に到着。

紅葉もきれいで温泉にも入れ、とても満足のいく山行となりました。

鳴虫山

高橋武子

場所:栃木県日光市 鳴虫山

期日:2019年10月30日(水)

参加者:L 高橋仁 軽石 高橋武 黒沢 橋本 駒崎(6人)

行動記録:熊谷 5:30=足尾道路=日光総合会館 8:15—登山口 8:40—神ノ主山(842m) 9:40/9:45—休憩 11:05/11:10—頂上(1103.5m 昼食) 11:20/12:00—合峰(1084m) 12:25—休憩 12:50/13:00—独峰(925m) 13:20—憾満ガ淵 14:10—総合会館 14:45/14:50=熊谷 18:00

曇り時々晴れ。所どころスギやヒノキの植林が混じるがほとんど明るい広葉樹の中を登る。路には浮きだした根が多く足を取られないように登る。今年はいつまでも暑かっ



たので紅葉が遅れており、ここでも紅葉の盛りとはいかなかった。また台風のためか葉先の茶色くなってしまったものも多い。それでも薄い緑の中にアカヤシオやカエデの紅葉がちらほら交じる。

ミズナラ、イヌブナは黄葉し、コシアブラは透けるような薄緑になっている。コシアブラに似て葉が3小葉のタカノツメの大きな木を久しぶりで見た。頂上からの展望は雲が多くて効かず、間近にあるはずの男体山、女峰山も頭を隠していた。裾野や町が陽を受けたところだけ明るい黄緑となりパッチワークのように見える。

下りは急な道を一気に下る。昨日の雨で道は湿っており、慎重に慎重に下る。合峰への道すがらツツジのトンネルとなる。花の時はさぞかしきれいだらう思う。下りきって



小さな発電所を過ぎ有料道路の下をくぐると、大谷川の急流が岩を噛む憾満ガ淵に出た。水量が多くて圧巻！岩を砕くかのようにほとぼしる水が、泡を含んでか白みを帯びた水色をし、滔々と流れ、しばし眺める。

道の反対側に沿って並ぶお地蔵さまは赤い頭巾をかぶり苔むして風情がある。たくさん並んでおり何体あるか数えるとそのたびに違うとかで化け地蔵と呼ばれているとか。ここら辺まで来ると観光客もちらほら、外国人も混じる。公園風となっている道を駐車場へ戻りました。楽しい山旅でした。有難うございました。

【個人山行編】

大高取山

軽石昭夫

山域山名:越生町 大高取山 376m

期日:2018年11月23日(金)

参加者:L 軽石、新井勇

行動記録:<晴>越生虚空蔵尊口駐車場 9:50→尾根取り付き 10:35/10:40→大高取山 11:00/11:10→幕岩展望台 11:25/12:00→虚空蔵尊口 12:40

前日から好天頼みの23日に変更したこの日は絶好のハイク日和となった。最初に40段の石段を登り虚空蔵尊に参拝してから歩きだした。足元に不安のある私はことさらにゆっくりと歩く。小沢にそったこの辺りは縦横にハイキング道がつくられていて、案内標識も多い。杉の樹林帯のなか、幕岩方面への分岐を右に見送り、大高取山を目指す。稜線に出ると緩やかに北に向く。太い枯

れ杉が数本まとまっている。いずれも上の方が途中で折れてい、ちょっと異様な光景だ。そこだけ何があったのだろう。山頂はその先の分岐を左前方に進むとすぐだ。三角点があり現在は東の一角だけが展望があり、筑波山が正面に見える。続々とハイカーが来て 10 数人の小団体も来た。

分岐に戻り幕岩展望台に行ってみることにした。50~60m 急斜面を下ると、東側一面が開けたところに出た。木の椅子がいくつもあり、柵で囲ってある。近くの市街地とさいたまと都心のビル群やスカイツリーなどもしっかり見える。お昼をここでゆっくり済ませ帰路は幕岩を見て行こうとなった。展望台から横に降りていき、回り込むように向きを変えると山側が垂直の岸壁が現われ切り立った岩肌が続いていた。案内板には高さ三丈、長さ五十間とあったが確かに長さは70~80m 位はありそうだ。この道はやがて沢沿いに出て、北の西山高取から来た道と合流する。なおも 15 分ほど下るとさくら公園に至り彼岸桜の並木の丘を越えると虚空蔵尊の横に出た。駐車場は石段を下ったところに見え、小さな周回コースは終わった。

常にヒザ痛を抱えているため下りは特に慎重になり、要する時間は登りと変わらない。今日のこの入門コースのような所しか足が向かなくなったのは実に情けない。

湯河原幕岩の岩登り

橋本義彦

山域山名:神奈川県湯河原町幕岩

期日:2019年2月16日

参加者:橋本義彦他クライマーズ彩メンバー6名

行動記録:<天気曇り時々晴れ>

岩場 9:30 から 15:30 まで岩登り。

高崎線が熱海まで行っている。その電車に乗れば、乗り換え無しで、湯河原まで行ける。6 時ころの熊谷駅発の電車に乗り、9 時前に湯河原駅に着いた。駅では、湯河原付近の山に登るデイバックを背負った人が 20 人以上も下りた。一緒にバスに乗って湯河原梅林で下りる。先に着いていた人と合流し、岩場に向かう。梅林の梅の花が色とりどりで谷の南斜面に咲いてきれいだ。熊トレでも岩場の上にある幕山ハイキングを来年は企画しようか。

谷から 10 分もかからない梅林の上が岩場だ。ここ幕岩は南斜面で P から近く、様々なグレイドの岩場があり、クライマーには人気がある。特に寒い時期は北風も少なく、温かい。9 時半に岩場に着く。梅林直ぐ上の岩場は既に別のグループが岩登りをしている。上の岩場に向かう。空いている岩にトップロープを張ってもらい、自分の順番になってビレイをお願いしてスタート。始めの 1 本は斜度 70 度位の安山岩のような凸凹の多い岩だ。バランスをとりながら、足、手のホールドを確認しながら登る。岩登りを始めて数年は高さ、不安定感の緊張で汗をかき、非常に無駄な力を入れていたため非常に疲れた。慣れるにしたがい、高度感を味わい、登れる気持ち良さが感じられるようになってきた。下で見ているときにはこんな岩に登れるのかと思うような岩だったが、岩の凹み、出っ張りをうまく利用し、体を安定させながら登ることができた。トップに行き、反対側を向くと少しもやのかかった相模湾が見えた。声をかけてローダウンをする。他の方のビレイをしたり、2,3 本目を登ったりした。室内壁と異なり自然の岩はそれぞれ異なる。岩の大まかな形を見たり、細かい凹



凸を見ることが大切だ。幕岩は火成岩で凹凸があり、冷静にホールドを探せばかなりの斜度でも登れる。「5.8(ファイブエイト)位だ…」等難しさのグレイドを皆で話す。

あっという間に 12 時を過ぎる。下のいわばに下りてお昼を摂る。そして空いた下の岩場でのトップロープクライミングだ。ここも高さ 10m ほど。最後に急な場所があるが、ホールドを冷静に探し、バランスを保って体を上げ無事クリアした。手足 4 本をしっかり伸ばし、一番安定するホールドを使い、主に脚で高度を上げていく。登る技術は大切だが、ともかくミスをすれば重大な負傷をするので、登るにしてもビレイをするにしても真剣に緊張感を持って望む。都労連初級岩登り教室でも使った岩場なのでそのときのことなども思い出しながら仲間との楽しい岩登りを終わった。

東谷山スキー

新井浩二

山域山名:東谷山 1554m(新潟県湯沢町)

期日:2019 年 3 月 3 日(日)

参加者:新井浩、駒崎、谷口

行動記録:江南 5:30=二居登山者駐車場

7:30/8:10→二居峠 8:50→東谷山 11:00

/11:40→北面滑降→貝掛温泉 BS12:30

/12:38=二居登山者駐車場 12:55

<天候:曇り/晴れ>

気温は高い。2-3℃くらいか。二居の宿場の湯のところにある登山者駐車場はすでに 10 台くらいありいっばいで近くのスペースに車を停める。準備している人は登山のようだ。東谷山、日白山への登山だろう。今日はここから東谷山へ登り、北面を滑って貝掛温泉まで滑り、バスで戻ってくるルート。先シーズンはいい思いをしているのが、はたしてどんな雪の具合か。二居峠の登山口で板を履いて登り始める。やはり雪は硬い。暖かな日があったので溶けて凍っているようだ。順調に二居峠、そして鉄塔まで登る。スノーシューでの登山者がいた。トレースはスノーシューのもので、穴ぼこが多く凍っており登りにくい。雪庇は先シーズンと変わらず。急登のところは、林の中に逃げるが、凍っており、クローを付けて登るが苦戦。板を担いでつぼ足で登る。この場面ではスノーシューのほうが機動力あり。再び板を履いてブナ林を登る。視界は良く効き、平標山、苗場スキー場がよく見える。時折薄日が差し青空も見えるようになってきた。斜度がゆるくなり、山頂の台地。日白山が目の前に大きい。山頂では、展望よくしばし眺める。林間でしばし休憩。山スキーヤー、2 人組と単独者登ってきた。

シールを外し滑降準備。来た道に戻り気



味に滑り出す。北西の谷に向かう。やはり雪は硬め。もう少し緩むと思っていたがガリガリだ。ブナ林の中も同様。斜度がかなりあるので、少しゆるい西に向かって滑降。新雪なら快適バーンなのだが、硬いと疲れる。それでもブナ林の滑降は楽しい。前半は斜度はきつめのブナ林。後半は斜度がゆるくなった沢底を滑る。だんだん雪も緩んできて、逆に斜度がゆるくなってきたので滑りにくい。藪っぽくなってきて杉が出てきて、車道が見えてきた。細い橋を渡り、国道の下を潜り、車道沿いに滑って、貝掛温泉の入口に到着。今日も楽しかった。時間をみると 12:30。バスの時間が 12:38。ナイスタイミングで降りてきました。バス停に移動し、直ぐにバスがやってきました。二居まで運賃 200 円、荷物代 100 円。宿場の湯につかり、ちょっと関越道で渋滞しましたが、17 時前には帰ってきました。

蓮華温泉山スキー

橋本義彦

山域山名:北アルプス白馬乗鞍岳、振子沢、角小屋峠經由木地屋

期日:2019年4月12日(前夜泊)13日14日

参加者:橋本 他アルパインクラブ NPO さいたまメンバー8人

行動記録:

12日 北本 11:00=上信越道經由=樺池スキー場 P13日 2:30 車中泊

13日<天気晴れ>樺池スキー場 8:00=ゴンドラ・ロープウェイ乗継ぎ=山頂駅 8:50-天狗原 10:40-白馬乗鞍岳 11:50/12:20-天狗原 12:40-振子沢經由蓮華温泉 14:40



蓮華温泉泊

14日<天気曇り>蓮華温泉 7:00-角小屋峠 9:00-木地屋 12:20=タクシー-13:30=樺池スキー場 13:20=上信越道經由=北本 19:30

初日の天気は晴れて気持ちが良い。青い空に白い山脈が輝く。ゴンドラ、ロープウェイを乗り継ぎ、山頂駅で装備を着け登高を開始する。天狗原までの斜面を登る。天気にも恵まれ、数十人が天狗原、そしてその先を目指す。笹も出ておらず輝く雪面に黒々した木々が鮮やかだ。すぐに汗が噴き出す。高度を上げると、白馬の街が見え、東の高妻山や火打山、妙高山が白く眩しい。途中で休憩を入れる。そして再び登り、天狗原に着く。ここは広い平原だ。目印の祠も見えず雪の下か。グループのメンバーは合計9人でスノボの方1名、他に70cm位のスキーを使っている方もいる。北側の木々のない真っ白い斜面を他のグループが列になって登っていく。大斜面の中央に小さな雪崩れ跡がある。私達のグループも傾斜を緩めるため右に左に方向を変え、斜めに登っていく。小さい谷の部分を西北に登ると平原状になり、少し進むと白馬乗鞍岳のランドマークである石積のケルンに到着した。

小休憩と滑降モードの準備をする。ここで

白馬大池東から直接蓮華温泉に滑走して下る2名と振子沢経由の2グループに分かれた。私達のグループはまずは天狗原までの下り。大斜面を滑る。斜度があり、スピードがかなり出るがターンをしながら滑る。落ちる感覚が気持ちよい。そして平面に。デポしておいた荷物を背負い、振子沢へ。最初は急斜面だ。ここもクリアする。滑って行き、西側の小沢の上でグループの確認をする。急斜面に滑り込む。日陰で数日前の柔らかい雪があり気持ちよい。この後は林の中、沢の右岸、左岸と滑る。木には蛍光色のテープがあり分かりやすい。トレースに沿って西の小沢に入り丁寧に滑っていく。最後は車道に出て蓮華温泉に向かう。橋の上に数センチの雪が積もり欄干のかなり上を渡る場所もあったがクリアする。そして今年の夏に登った雪倉岳、朝日岳を望む場所に出て、蓮華温泉に着いた。直接滑走の2名は既に着いていた。

14日<天気曇り>

朝食後、すぐに装備を着けて出発した。10分ほど歩いてから、車道を横切るように滑る。狭く、急傾斜で凹凸が多く、難しい。最中状態の雪にスキーが刺さり転倒する。こんな場所を2箇所ほど抜け、シールをつけて再び車道に出る。雪が多くガードレールがあるので車道とわかる程度だ。20分ほど歩いて行って、峠の手前で小休憩する。そして標高差100mほどを登り角小屋峠に立つ。ここからは滑走だ。滑走モードにして全員滑走開始する。木々の少ない斜面を気持ちよく滑り下りる。ルートには目立つ大きな看板があり分かりやすい。ルート上は木が切られていてコースとして整備されている。

この後はしばらく山の北面を緩くトラバー

ス気味に滑る。中斜面なのだが、林に入ると木々や、細かい凹凸が多く、標高を下げるにしたがい雪質もべたつき、困難を強い斜面だった。集落に近い場所に来て、トレースを追って滑っていると、グループのメンバーが分散して所在が分からなくなったりもした。車道を滑り、雪の無くなった車道手前でスキーを脱いで山スキーを終えた。他のメンバーとは目的地で合流できた。難しい場所もあったが、距離も長く、山スキー技術を高められたスキー山行だった。

会津駒ヶ岳山スキー

新井浩二

山域山名:会津駒ヶ岳 2132.6m(福島県)

期日:2019年4月21日(日) 前夜泊

参加者:L 新井浩、駒崎

行動記録:4/20(土) 東松山 16:00=道の駅尾瀬桧枝岐 21:45

4/21(日) 道の駅尾瀬桧枝岐 5:45=登山者駐車場 5:50/6:25→1350m8:00→会津駒ヶ岳 11:00/12:20→1350m13:05→登山者駐車場 13:50

<天候:曇り>

道の駅から登山者駐車場まで車で移動。ほんの1-2分。先行者は5台程度。ここは滝沢登山口まで200mほどでテニスコート脇にありトイレもあります。板にシールを付けて担いで出発。滝沢登山口の標識を曲がり林道に入って直ぐに雪が出てくる。小さな橋を渡り100m程進み板を履く。少し歩き、林道が右にカーブしているところで、まっすぐに谷に入る。林道をショートカットするルートで、途中で雪崩のデブリあり。林道に合流し、さらに1350mの肩まで直登する。気温高く雪も緩んでおりシール登行はしや

すいが、雪崩が懸念される斜面。間隔をあけて、谷底を避けて登る。尾根も雪庇が出来ており、急登もあるので、気を抜かずに行動。1350mの肩で一休み。

この後は比較的緩い尾根が続く。ブナ林が続く快適な登高が続き 1600m あたりからシラビソなどの針葉樹が増えてきた。右手には大戸沢岳から伸びる尾根がいい感じ。1900m あたりで左手に燧ヶ岳が見えてくる。やがて前方に会津駒ヶ岳の山頂稜線と山頂が見てきて視界が広がる。燧ヶ岳の隣には真っ白な至仏山。来週も雪は有りそうだ。駒の小屋の手前を山頂ヘトラバースして最短距離を進む。最後の斜面を力を振り絞って登高し何にもない山頂へ到着。山頂標識は雪の下。かろうじて頭が見えるくらいなので積雪はまだ 3m は有るだろう。しばらく展望を楽しみ、少し風が出てきたので、駒の小屋の下の樹林まで降りて昼休憩することにしていよいよ滑降。

山頂直下の斜面は快適ザラメ。あっという間に 100m ほど降りてきてしまった。まったく昼休憩後登ってきた斜面を滑降。気温が高いせいかシャバシャバなザラメで滑らない。登りのトレースを避けて誰も滑っていない斜面を選んで下る。尾根が狭くなったところには、楽しくツリーラン。登りのときに目星を付けて置いた谷地形に降りて快適滑降。下部に来るに従ってさらに重い雪になり修行のようになってきた。それでも慣れてくると楽しく思い切って突っ込んで楽しむ。1350mの肩からその先のルートを考えてが、登山者によると夏道はスキーではつまらないだろうとのことで、登ってきた直登ルートを下ることに。雪崩がいやらしいが、谷底を避けて林道まで下る。雪が付いていそうなので林道をそのまま下るが遠回りになるの

でショートカットして適当に滑り、今朝取り付いた所に出て、林道を下り、無事滝沢登山口に到着。今回も楽しい山スキーとなりました。

世界自然遺産白神山地を歩く

新井浩二

山域山名:青森県白神岳

山行形態:無雪期一般日帰り登山

期日:2019年9月20日(金)→22日(日)

参加者:駒崎 新井浩

行動記録:

9/20(金)

東松山 14:00=東北道=白神岳登山口
P23:20 662km

東北自動車道をひた走る。秋田道から能代を越えて 9 時間余りで白神岳登山口の駐車場到着。駐車場泊。

9/21(土)

白神岳登山口 P5:10→白神岳登山口 5:20
→蟬(マテ)山 842m7:10→白神岳 1232m
8:45/9:30→大峰山 1020m 12:05→崩山
940m13:30→大崩 14:15→十二湖登山口
15:35=タクシー=白神岳登山口 P16:05=ウ
エスパ椿山温泉=白神岳登山口 P18:30
休憩所泊

<天候:晴れ>

白神岳はいいよ～の言葉に騙され遠路はるばる行ってきました。目的は他にもありましたが。まだうす暗くヘッドランプをつけて歩き出す。30分ほど歩くと二股コースとの分岐。今回は尾根を登るマテ山コースに向かう。さらに30分で最後の水場の標識があるところに出る。さらに30分ほどで蟬(マテ)



山の分岐。山頂への標識はない

が、GPS をみると、山頂まで直ぐなので、行ってみる。三角点と小さな標識があった。ブナ林の中で展望なし。分岐に戻り白神岳に向かう。いつの間にかブナ林を抜けて、低木帯に抜け出た。振り返ると日本海がすぐそこに見える。小さな港町と入江が見えて感激。やがてササが主役となり、見晴らしが利くようになり、風もさわやか。白神岳から延びているであろう尾根が見えてきて、稜線が近い。少し登ると大峰分岐に着く。左へはのちほど向かう大峰山方面。右へは白神岳 0.7km とある。もうすぐだ。気持ちのいい稜線を進むと、ポツンと小屋が見えた。白神岳の避難小屋であろう。正体はトイレでした。小屋の様で立派だ。直ぐ近くにある避難小屋は取り壊されていて基礎部分だけになっていた。周りには新しく建て直す資材がブルーシートにくるまっている。すぐ先が白神岳の山頂だ。今日の一番乗り。尖っている岩木山、八甲田、鳥海山などが見える。日本海はもちろん、男鹿半島が一望。これ以上望めないいい天気、遠征してきた甲斐があった。ポツポツと後続の登山者が到着してきた。コーヒーを飲んだ後に出発。大峰分岐まで戻り、大峰山方面に足を踏み入れる。分岐の標柱には『笹の繁茂が著しく登山道が分かりづらくなっていますので、ご注意ください』の注意書きが貼ってありまし

た。事前情報通りだ。案の定最初から背丈ほどの笹藪漕ぎ。明るい尾根歩きで涼しいからいいようなもので、暑かったら地獄。結局大峰山までの約 2 時間は鞍部のブナ林以外はズーッと藪漕ぎで少々疲れしました。展望のない大峰山から崩山は明瞭な山道で、ブナ林の中をアキノキリンソウが両側に咲いていて快適な登山道。崩山も展望ないが、ベンチがあり、一休み。少し下ると山の斜面が大きく崩落している大崩と呼ばれる場所に出た。観光客も下から上がってきており、眼下に十二湖が見える。8 個(湖)くらい見えました。ここで帰りのタクシーを依頼する。沢沿いのサラシナショウマと終盤を迎えているトリカブトの咲く道を黙々と歩下る。やがて池が見えてきて車道に出た。案内板があり、興味がわいた青池を見てみる。なるほど青く見える。直ぐにタクシーの待ち合わせの物産館キョロロに向かい、待っていたタクシーに乗り白神岳登山口の駐車場へ戻る。靴を履き替え、着替えをしていると、地元のハンターと写真愛好家の方と話が盛り上がり、泊るなら休憩所で大丈夫だよと言われて、近くの温泉(ウエスパ椿山)に入った後に、きれいなトイレ完備の休憩所の板の間に荷物を広げる。おでんの夕食。

9/22(日)

白神岳登山口 P 休憩所 6:50=十二湖散策
=不老ふ死温泉 11:55=新潟廻り=東松山
21:40(移動距離 1,384km)

明け方に登山客が休憩所に入退りで目が覚める。今日は帰るのみなので、十二湖の散策をする。沸壺の池が青くてきれいであった。また、カツラの木が多く、甘いにおいがあちこちでしました。不老不死温泉にも行く。(実はこれが今回の最大の目的)岩場の海岸に露天風呂があり、温泉につかりながら海を眺められる最高のロケーションでした。マグロステーキ丼を食べて、日本海側を新潟廻りでひた走り約 10 時間のドライブで帰着しました。

朝日連峰・大朝日岳

高橋仁

山域:朝日連峰・大朝日岳 1870.7m

目的:朝日鉱泉から大朝日岳避難小屋を使って大朝日岳を周回する

期日:2019年09月20日(金)~21日(土)

行程:9月19日(木) 熊谷 14:30=羽生=福島 JCT=南陽高畑 IC=朝日鉱泉駐車場 20:00/車中泊

9月20日(金) 朝日鉱泉駐車場 5:40→金山沢水場 7:20→鳥原山 9:25→小朝日岳 10:30→大朝日小屋 13:00(泊)

9月21日(土) 大朝日小屋 4:30→大朝日岳 4:50/6:40→長命水 8:30→二股つり橋 9:30→朝日鉱泉 11:20=往路=熊谷 18:00

参加者:(単独行)高橋仁

1974年に縦走した朝日連峰にもう一度・・・車で6時間ほどかけて到着した朝日鉱泉の駐車場は真っ暗だった。一台もない駐車場で、弁当を食べて車中泊。どんどん寒くなり、シュラフを出して寝る。5時起床。支度していると、幌付き軽自動車がやって

きた。キノコ採りに来たと云う地元の二人は、熊鈴をジャラジャラと下げている。

朝日鉱泉を抜けて登山道へ。泊り客の車が4台くらいあるが、登山者の気配が無い。踏板が偏っているつり橋を渡り、鳥原山へ向かう。尾根に登り、少し下ると金山沢の水場に出る。洗顔、歯磨きで気分スッキリ。ヨツバシオガマやダイヤモンドソウが咲いている。斜面に登り、池塘や湿原に出て、鳥原小屋の分岐だ。ちょっと寄り道して小屋でコーヒータイム。奥の広場の片隅には遭難慰霊碑がいくつか並んでいる。

分岐に戻り、ウメバチソウ、オヤマリンドウの湿原を、白滝や、古寺鉱泉への道を分けて鳥原山の展望所につく。ハナヌキ峰から小朝日岳への稜線はガスに覆われている。足元のウメバチソウ、トリカブト、リンドウ、ヨツバシオガマや、古寺鉱泉に続く深い谷を見ながら急坂に登り、小朝日岳の山頂に飛び出る。三角点と丸い方位版が置いてあるだけだが、好展望の山頂だ。

大朝日岳の稜線はガスが次々に来て、ゆっくり眺めることが出来ない。山形側は晴れているのに新潟側からガスが吹き付けている。下ってきた人が「大朝日小屋から上は、朝からこんな風が吹き荒れて、立っているのもやっと」と言っていた。

早めの昼食を済ませて大朝日岳に向かう。急坂を鞍部まで下ると、赤く色づいたナナカマドやエゾリンドウの咲く気持ちよい稜線を歩く。大朝日岳はガスの中に見え隠れしている。途中の「銀玉水」は冷たくて美味しい。本当にうまい水だ。小屋まであとひと登りだから、ペットボトルにたっぷり汲んで行こう。

風が強くなってきた。小屋には先客が5人位、その後もぼつぼつ到着、最後は25人を



超えたようだ。山頂まで往復する人も多いが、自分は明日の日の出に期待してゆっくり休むことにした。湯を沸かしてコーヒーを飲み、明日の朝のお湯をテルモスに満タンにしておこう。

埼玉の二人や茨城の二人と山談義。日本百名山や、群馬百名山、栃木・、茨木・、果ては埼玉・などと、たわいのない話でも時間を忘れて盛り上がった。そのうち外から帰ってきた女性が「村上の夜景がきれいだよ」「空の星が箸で摘まめるほどいっぱい出ているよ」とふれ回まわっている。明日は良い天気になりそうだ。

4時に目が覚めて、少し早い山頂に向かう。45年前に鶴岡から大鳥池、以東岳、大朝日岳、平岩山から小国町ヘテントで縦走したが、今回のルートで、避難小屋から山頂までの15分間だけが45年前と同じ道を歩いていることになる。

5時前に山頂着。空が赤く染まっているが、雲で御来光は無い。それでも照らされた雲が織りなす景観は凄く美しい。明るくなれば雲海の先の飯豊連峰。さらに磐梯山、吾妻連邦、蔵王連邦から月山、鳥海山の山並み。村上や新潟が夜景から町並みへと変わり、日本海にうっすらと佐渡の島影が浮かぶ。

昨夜、夜景と星の話をした地元の女性が登ってきて、近くの山の名前を教えてください

たりしているうちに気が付いたら山頂に2時間近くいた。フリースやダウンを着込んでもすっかり冷えてしまった。忘れていた朝飯に、コーヒーとパンをかじって下山を開始。

ナカツル尾根の激下り。ところどころで振り返っては写真を撮りながら降りる。足元には季節外れのハクサンイチゲが咲いている。樹林帯に入り、ひたすら下り、ようやく二股のつり橋に着いた。川原に降りて冷たい水で顔を洗い、コーヒータイム。「なかなかの時間」をゆっくり使う。

後はだらだらと朝日鉱泉まで・・・と思ったら、結構なアップダウンと小沢の渡渉があって、最後まで楽しませてもらった。最近人気の古寺鉱泉登山口からの短縮コースでなく、オーソドックスな朝日鉱泉からの周回コースにして良かった。(了)

後記 今年は大きな台風に度々襲われ、特に19号上陸の時は避難の準備までしました。秩父の武甲山も登山道がだいぶ被害を受けたようです。今後、こうしたことが増えるのか、不安がよぎる今日この頃です。



私たちの山旅 2019

第28集

発行日 2019年12月7日

発行者 熊谷トレッキング同人

URL <http://kumatrek.jp.org>



ウェブサイト

<http://kumatrek.jpn.org>

